

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

# 昭和経済

Manager Association of Japan

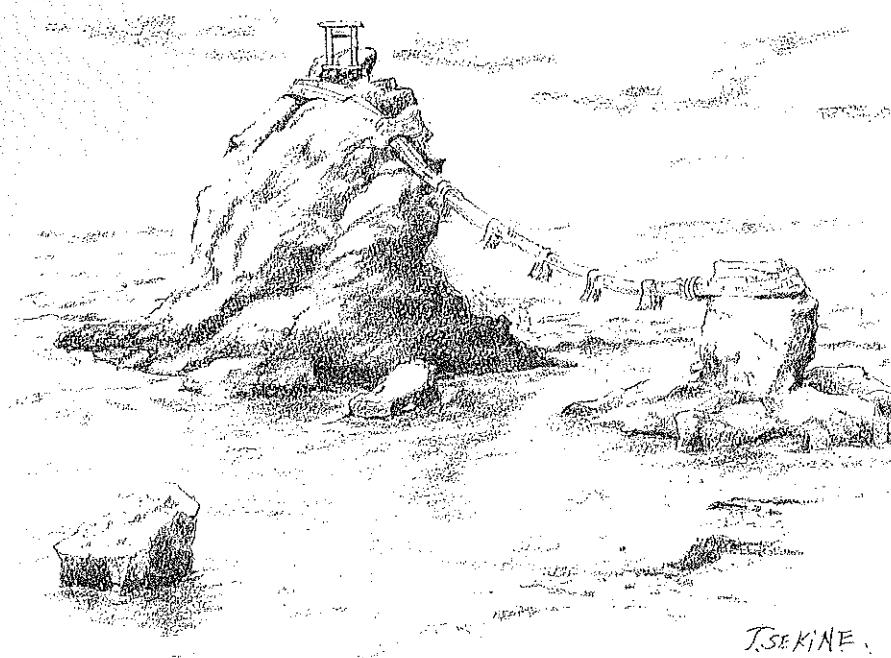
第65巻1号  
26年1月号

国会図書館永久保存書

山内 進  
今井 賢一  
瀬口 清之  
青山 慶二

経済の精神

[時局論壇] 技術革新軸に『再調整』を  
『影の銀行』リスク、吸収可能  
国際課税ルール見直し



T.SEKINE

夫婦岩（伊勢）

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続をできました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て發展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる發展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、一の普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と經濟活動を通して、さらに公私經濟の發展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

### 公益社団法人

### 昭和経済会の案内

(元財務省大臣官房所管)

### 創立と趣旨

会員制の企業家、經營者団体で我が国の「公私經濟の發展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

### 主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の經濟、政治、文化、學術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、稅務、經營相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

新  
春  
一  
月  
号  
·  
目  
次

A vertical column of 15 empty diamond-shaped boxes, likely for drawing or writing.

卷頭言  
佐々木誠吾・(5)

わが回想記（その二）…………堀江忠男（61）

山内進(17)

曾  
の  
物  
ラ  
シ  
ロ  
岩  
本  
6)

技術革新軸に再調整を 日本経済の羅針盤

〔時局論壇〕

潮口清之(35)

昭經集

ノエラノ草命 然昇調達見直ノ必要

後記隨想  
佐々木誠吾  
88)

陸中間頃至る發言

詩易論續

卷之三

国際譲渡ルート見直し 電子商取引の扱い  
青山慶二 (50)

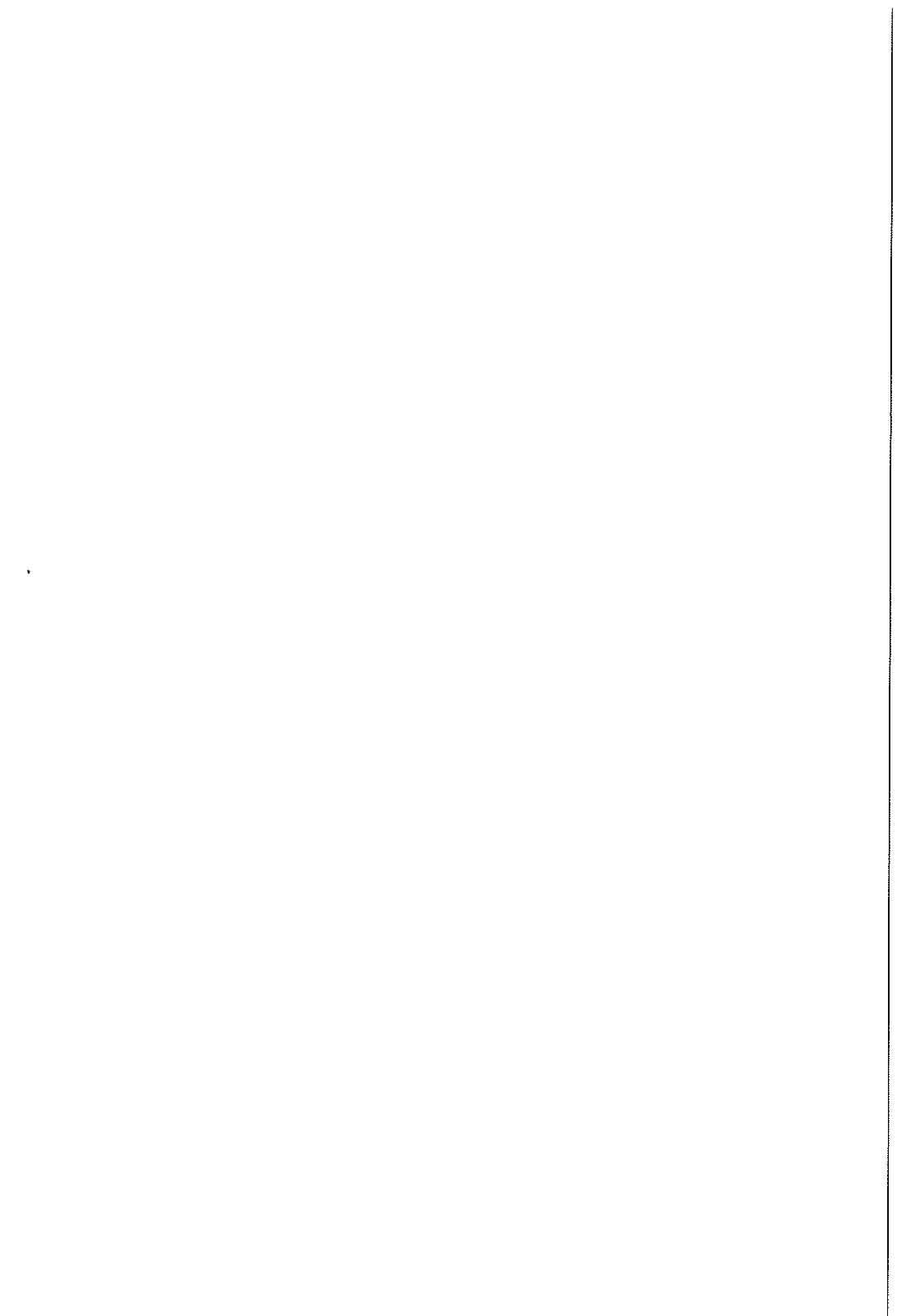
謹賀広告

**成長停滞の罠を回避され・雇用創出で**

卷之三

白石 隆一 (56)

特別賛助会員



謹賀新年

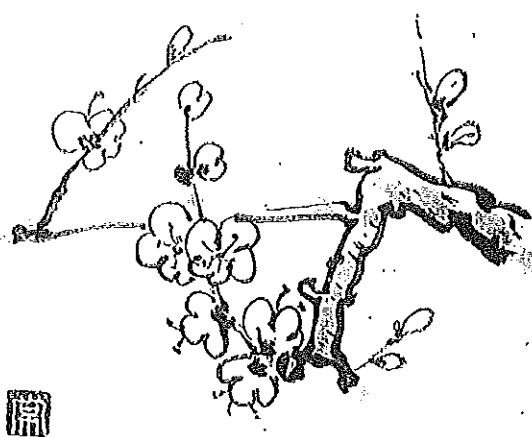
梅の香の匂ふ山路を登りきてはるかに  
あほぐ初春はつはるの富士

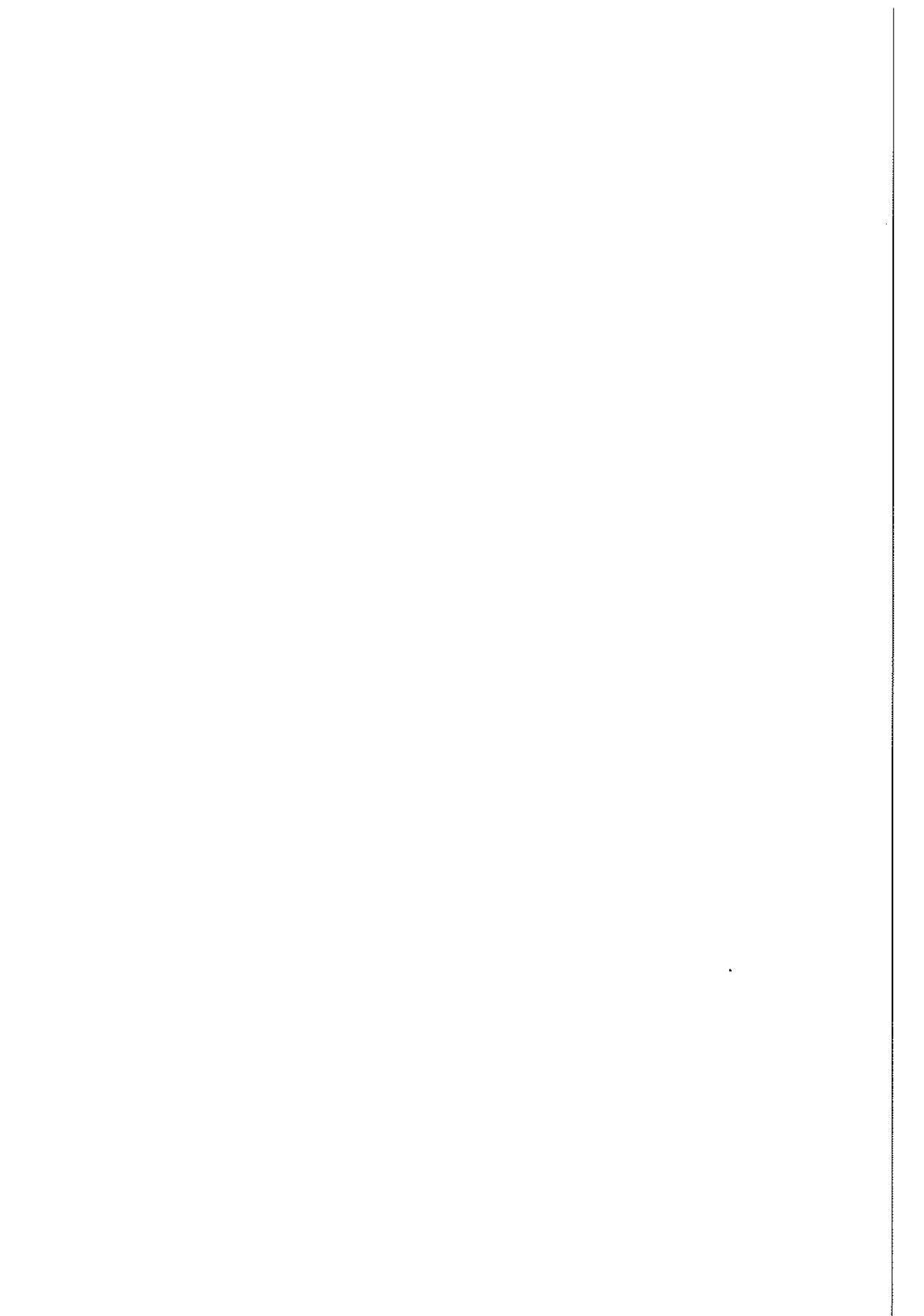
言論の自由を守り経世けいせいのさかえの道を  
進む国たみ

皆様のご多幸をお祈りいたします

平成二十六年 元旦

理事長 佐々木誠吾





## 卷頭言

佐々木誠吾

### 新しい駐日米国大使

キヤロライン・ケネディさんが在日米国大使として日本に着任して一週間がたつた。大使もようやく落ち着いたと思いきや、東北の被災地に行き何かと公務が目白押しのようで大変である。日米友好の絆を確たるものとしてキヤロラインさんの大使就任を心からお祝いしたい。

ジョン・F・ケネディのお嬢さんで毛並みは抜群であつて華やかさは行く先々で人気を生やしている。ジャクリーヌがお母さんだけに、その面影もあつて華やかである。ジャクリーヌ夫人は、夫のケネディ大統領が一九六三年十一月、凶弾に倒れて大きな悲しみにあつて久しく、その後ギリシャの海運王のアリストテレス・オナシスと一九六八年に結婚した。しかしオナシスが七年後に死亡し、孤独の身になつたジャッ

クリーヌだが莫大な遺産を継ぎ贅沢な生活を送つていたが、一九九四年ニューヨーク五番街のアパートで病氣のため息を引き取つた。名門であるがゆえに、悲喜こもごもの一生であつた。

キヤロライン大使は外交舞台で未知数と云われながら、会見では早速、中国が一方的に決めた防空識別圏を国際秩序を乱すものとして見逃すわけにはいかないと、強く非難した。いうなれば外交問題に触れた鮮やかな第一声である。日本の政府も安倍さんも、中国のこうした行動には強く抗議を申し入れており、尖閣諸島に絡んだ問題は、領海進出のみならず防空圏にまで及んできて一気に緊張感が高まつた感じである。領土問題についてアメリカは日中両国の問題として成り行きを注意深く見守つて來ていたが、ここにきて中国が問題をエスカレートさせてきている状況に苛立ちを示していた。防空識別圏を一方的に設けたことに就いてさすがに重い腰を上げた格好である。この

地域はアメリカの軍事演習の区域にもあたつてゐるからである。そこでアメリカは昨日（二月二十六日）この地域に予告なしにB52戦略爆撃機二機を訓練飛行させた。同機は中国本土に打撃力を持ち核兵器搭載の可能の爆撃機である。これは中国に対する強い警告である。中国がこれに対し如何に反応を示してくるか、気がかりである。尖閣諸島の東シナ海は、俄かに波浪が高くなってきた。十一月二十七日

### きわどい特定秘密保護法案

良識の参議院議会で特定秘密保護法案の取り扱いを巡つて議場が紛糾し、久しぶりに見た与野党の乱闘国会である。これでは良識の府が泣く。强行採決をした自民、公明であるが、審議の内容を見ても何か欣然としない。この法案については拙速に過ぎて、今まで絶好調で来た安倍さんの勇み足だと思つてゐる。中国が一方的に防空識別圏を設定して緊張状態にある昨

今、わが国の領土である尖閣諸島をめぐつても、中国の海洋進出が顕著になつて、軍事的な威嚇すれすれのところまで来ているので、わが国の領土、領海、領空を毅然として守らなければならぬ状況にあることも緊急の案件であり、それに呼応した国内の体制を確立しておくことは急務の事実である。同時に同様の立場に直面しているアジア諸国と連携して、中国の一方的海洋進出を阻止する体制を確立しておくことが必要である。防衛、外交問題に関わり、特定秘密保護法案が急速に浮上してきた背景が、そうちした国際情勢の変化に大きく関係している。注意すべきことは、そのことによつて国内の言論の自由や、表現の自由を過度に制約して、逆の悪しき現象を惹起せしめないよう法律の制定には十分配慮すべきである。日本経済の発展と国力の増大は、わが国の民主主義の堅持によるもので、国民の自由な発想と創意工夫と努力の結果であることを忘れてはならない。

地域はアメリカの軍事演習の区域にもあたつてゐるからである。そこでアメリカは昨日（二月二十六日）この地域に予告なしにB52戦略爆撃機二機を訓練飛行させた。同機は中国本土に打撃力を持ち核兵器搭載の可能の爆撃機である。これは中国に対する強い警告である。中国がこれに対し如何に反応を示してくるか、気がかりである。尖閣諸島の東シナ海は、俄かに波浪が高くなってきた。十一月二十七日

#### きわどい特定秘密保護法案

良識の参議院議会で特定秘密保護法案の取り扱いを巡つて議場が紛糾し、久しぶりに見た与野党の乱闘国会である。これでは良識の府が泣く。强行採決をした自民、公明であるが、審議の内容を見ても何か渋然としない。この法案については拙速に過ぎて、今まで絶好調で来た安倍さんの勇み足だと思つてゐる。中国が一方的に防空識別圏を設定して緊張状態にある昨

今、わが国の領土である尖閣諸島をめぐつても、中国の海洋進出が顕著になつて、軍事的な威嚇すれすれのところまで來ているので、わが国の領土、領海、領空を毅然として守らなければならぬ状況にあることも緊急の案件であり、それに呼応した国内の体制を確立しておくことは急務の事実である。同時に同様の立場に直面しているアジア諸国と連携して、中国の一方的海洋進出を阻止する体制を確立しておくことが必要である。防衛、外交問題に関わり、特定秘密保護法案が急速に浮上してきた背景が、そうした国際情勢の変化に大きく関係している。注意すべきことは、そのことによつて国内の言論の自由や、表現の自由を過度に制約して、逆の悪しき現象を惹起せしめないよう法律の制定には十分配慮すべきである。日本経済の発展と国力の増大は、わが国の民主主義の堅持によるもので、国民の自由な発想と創意工夫と努力の結果であることを忘れてはならない。

## ＴＰＰ国際会議

バリ島で開かれているＴＰＰ国際会議の模様が、連日のように新聞紙上に報道されているが、旗振り役であり、指導役のオバマ大統領が緊迫した議会の状況で欠席しているので、進捗状況がはかばかしくない。原則一〇〇%関税撤廃の中、各国の国内事情を反映して関税交渉も議論も試行錯誤して難航を極めている。大詰めにきて尚、一部品目で一致点を見いだせないでいる。年内妥結を目指して懸命の状況だが、ここにも主役を務めるオバマの不在が影響して強力な政治判断を得られないでいる。債務上限の引き上げなど、対議会対策に振り回されているが、賢明なアメリカ議会のこと、大局的見地に立つて妥協の線が得られることだろう。オバマの欠席は会議に協力してきた関係国に、失

望とマイナスの影響を与えないわけにはいかない。この広い地域に中国が、勢力拡大をもくろんでいる。オバマはこの国際会議に万難を排して出席するべきであった。並行するように開かれた　アイ・ペツクも然り、海洋進出をもくろむ中国の出席は漁夫の利を得て活発な展開を行つており、オバマの外交上の失政は明白である。しかしかる上は、オバマ欠席の穴埋めに日本が果たす役割こそ、重要な場面となつてきただ。

ところで、日本でもコメ、麦を初めとして聖城とされていた農産物五品目についても、完全な関税撤廃を前にしては、頑固な姿勢をとることは難しく、切り込んだ決断は不可避の状態である。各国とも利害が交錯して、完璧な条件を持ち帰ることはできないし、どこかで妥協点を見て会議としての結論を何とかして出さねばなるまい。お互いに多少の犠牲を払つて推進していくしかない。各国の協力のもと、平和的な

国際関係を維持発展していくために、協定は是非とも必要なことで、その一点に向かって日本の安倍さん初め関係者の賢明な努力の様子がうかがえる。この際、オバマに代わって安倍さんの獅子奮迅の活躍を世界に示す絶好の時である。

日本国憲法の前文には、次のように記してある。

「日本国と国民は、恒久の平和を念願し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼し、私たちの安全と生存を維持しようと決意したのである。そしていずれの国家も自國のことのみに専念して、他国を無視してはならないと確信した」と高らかに宣言している。

此の政治道徳の普遍的理念を、自らＴＰＰの国際会議で発揮して、日本の公正な普遍的な考え方と立場を強調して他国と連携し、安倍さんはオバマに代わって会議を大局的に指導して

いつてもいいのではないだろうか。そうすれば、日本国憲法の精神と理念が、これから国際社会に大いに發揮されて、平和と、安全と、生存を確保される国際社会の構築に、大いに寄与されて行くに違いない。

#### F R B 議長にイエレン女史

世界的に注目をあびて金融政策の舵取りをとるF R B米連邦準備制度理事会のバーナンキ議長の後任に、オバマ大統領は、女性で現在副議長を務めるジャネット・イエレン女史を指名した。思い切った素早い適切な人事の発表に、世界が安堵したのではないだろうか。思い切った人事と云うのは、既成概念にとらわれない指名だからである。一〇〇年の歴史を持つF R Bの人事で、女性の登用は初めてである。

バーナンキ議長のもとで副議長を務める女

子は、その活躍ぶりに定評があり、的確な経済分析と判断は衆目の一一致するところだそうである。政府の多くの金融財政策の立案にも加わっており、現在の課題山積の金融政策についても的確に手腕を發揮して、回復基調にある米経済のさらなる発展に結びつけて、成長戦略

の後押しをすることに、大きく期待して、株式市場も堅調な反応を示していることは結構なことであり、我々も大いに歓迎している。

#### アメリカの金融大緩和政策で世界に膨大な

資金がまかれて、新興国の経済発展を大いに促しているところであるが、先日も緩和を縮小することをほのめかしたバーナンキ議長の発言で、世界の株式市場が急落して動搖して不安を搔き立てたことがある。その後この量的緩和の縮小策を先送りしたことで、市場は落ち着きを取り戻してきているが、いずれは縮小政策をとらざるを得ない。徐々に資金を引き揚げる、いわゆる出口戦略を上手に誘導できるかどうか、

イエレン女史の腕の見せ所であろう。世界経済に波風が立つの仕方がないが、緩急を心得たスマートなかじ取りを以て、米国はじめ、世界の金融市场の安定的発展に尽力してもらいたいと切望している。 十月十日

#### アメリカ国債の債務不履行が・・・・

オバマ大統領が米国議会に対して、アメリカの国債発行の上限引き上げに協力するよう、十月十七日日の期限を目前にして、執拗かつ懸命な議会への説得工作を進めています。既に国内では、賃金の未払いと、一部政府系行政機能が停止するという事態に内外の経済に動搖が走つていて緊迫しています。万が一にもアメリカ国債のデフォルトするような事態になれば、アメリカ国債の格付けが下がり、世界金融市场に

与える影響は計り知れません。目を離せない緊迫した状況が続いている。

私もその後の状況を固唾をのんで見守っていますが、今日の日経夕刊のワールド・マーケットのランを見ると一昨日のアメリカニューヨーク市場のダウ平均はの三百二十三ドル高に続いて今日のダウはなお続伸して百十一ドル高の一万五二三七ドルで、この日の取引を終えていました。二日間で何と四一四ドルも続伸して終わっています。アメリカ経済の、オバマ政権の、そしてアメリカ議会の一挙手一投足が世界に及ぼすこと顕著な例ですが、マイナスの面がでたりすると、世界を飲み込んで震撼させないとも限りません。そのことを常に自覚しておかねばなりません。

ここ2日間の株価の動きは、議会工作が円滑に動き出した所以ですが、期待を込めた動きかもしれません。しかしもしかすると、これはオバマの議会工作が曲がりなりにも

成功して、オバマに少しでも有利に展開している証拠であります。と期待を以て信じたいのですが、事はそう簡単にいくものでもありません。未だ予断を許しませんが、兎に角デフォルトだけは何としても回避して、事が世界経済に及ぼすところが甚大であるがゆえに事態の好転を望むところですが、依然として緊張感が漂っています。

こうした中で、ワシントンで開かれている日・米・欧と新興国によるG20財務相、並びに中央銀行総裁会議は共同声明を発表して閉幕しましたが、「米国は緊急の行動をとる必要がある」と云う文言を以て明記したことは絶妙であります。会議でも、アメリカの財政問題に触れて米国国债の債務不履行の懸念を解消し、世界経済の悪影響を回避するためにとられたもので、この早期解決は世界の希望であることをアメリカ議会に要請したことでもあります。この共同声明は、苦渋の才

バマ政権にとつて追い風となつて、懸案の債務上限の引き上げを可能ならしめるという期待が、ニューヨーク・マーケットに大きく影響して動いた結果であります。アメリカは大局的見地に立つて、この目先の緊急性を英知を以て克服して、次の政策と行動にダイナミックに舵取りを行つて行くべきであります。

日本は今日から三連休が続きますが、幸い転向に恵まれ秋の行楽シーズンに多くの人が大挙して出かけていく気配です。と云うのも本格的に景気回復を示す各種のたーが発表されても堅調な家計と、企業の状況が生まれて来つつあります。企業の業績向上を見た経団連の米倉爺も重い腰を上げて、これからは極力賃金を上げるよう先ず大企業から呼びかけることにしたようです。日本の経済界が明けるさを取り戻し、経営拡大にも自信を取り戻してきた結果であります。私の周囲でも企業業績の向上を明かす人たちが実際に増えてきております。

### 秋晴れ、日本晴れ・・・の三連休

今日から始まつた三連休を利用して、楽しい行楽に出ていく人が増えてきておりますが、私は明日は終日働きに出かけます。第一部上場企業のD社と業務を提携し、出資して共同事業を行う発会式に臨むためです。東京駅発新幹線の「やまびこ」で、上野を11時32分に乗つて那須塩原市に出立します。行事を終了して時間があれば、紅葉で今が盛りの那須岳の連峰の様子を眺めて来たいと思つています。「そのまま塩原温泉か、那須温泉に泊まつて、たまにはゆっくりして來たらどうですか」と云う、ありがたいお神（上）の声がしました。さすれば連日働きくめの私にも、アベノミクスのありがたい恩恵にあやかることになります。今や、安倍さんと上さんを、粗末にできません。ああ、ありがたや、ありがたや・・・・のはやり歌が

賑やかに聞こえてきて、「いい湯だな、いい湯だな！」と歌いつぱなしの野天湯につかって、金を懷に今夜の座敷はさしずめ陽気になつて過ごせるかなと思いきや、これでは上さんのご託宣に背くことになり、身体の休養にはなりません。あらぬ期待は身の毒と、健康志向で行動することにしました。

それにもしても、この連休の間、まだ気がかりなアメリカの債務上限の引き上げ問題です。G20財務相・中央銀行総裁会議でも事態の深刻のあまり、成り行きに悲痛な叫びをオバマ政権に突き付けて何とかしてくれと云っています。我が国の財務大臣の麻生さんも、これはアメリカだけの問題ではなく、世界的課題だと、久しぶりに麻生節を聞かせて、存在感を示していく頼もしい限りです。憲法改正は触れないほうがよさそうです。過激で保守的な発言をすると、この方は間違ひを起こしやすいので、平和主義に徹したものの発言をした方が無難であり、自

然な感じがします。しかし世界経済の影響するところは大きいかもしませんが、経済人はこうした動きに矢鱈に翻弄されてします。「明日は我が道を行く」で、日本晴れの快晴日和で大安吉日、私は自分の事業の将来を期待して、勇躍して出張の目的を無事果たしてくる所存です。

それでもやはりオバマさんが議会対策に成功して、憑きが回つてくることを祈っています。大言壯語するわけではありませんが、オバマさんの政策次第は私の事業にも大きく影響してきます。ひいては世界経済の持続的発展を期するためにも。そして回復基調が鮮明になつてきた日本経済が、さらに躍進して、云うところの経済成長を達成させていくためにも、それがひいてはくだらない領土問題より経済を発展させて、民生の安定に繋げることが平和を維持していくことになる、そのことを立憲、技術、そして再び経済大国にならんとする若き日本

が、特にアジアにおいて中国や韓国に認識させ  
ることが大事ではないでしょうか。国際政治  
の王道を貫く積極的平和外交の真価を發揮し  
て、日本国憲法の前文を改めて想起し、そこに  
明記された人類の普遍的原則にのつとり、これ  
からの国際政治と経済外交を開拓していく  
もらいたいと念願して、安倍さんに何度もエー  
ルを送りたいのです。 十月十二日

ひさかたの那須たかはらにひとり来てくれな  
いもゆる秋のゆうぐれ

ひとひらの雲とどまりて那須岳の夕陽に赤く  
そめて暮れゆく

那須岳をはるかに望むすそのにもホテルのち  
さく並びたつなり

夕映えの那須の山なみむらさきに我はもう手  
を広げいだけり

朗らかに那須たかはらを早足で行く先に見る  
茶臼岳かな

燃えさかる山はだ紅の色あひに移ろひゆきし  
那須のたかはら

晴れわたる那須たかはらに山連みのくれない  
染むる秋はきにけり

小学校四年の時の思い出をわびしくつづるこ

野天湯につかりて宿と思いしも明日の仕事に  
帰郷するなり

との多きに

近く住む親しき寛先生の娘に淡き恋をよせし

に

秋風の吹くたかはらを訪ねきて若き血潮のわ  
きたちにけり

いつの間に姿を消して余の前ゆいづくに嫁ぎ  
ゆきしさだめと

秋空にひとひらの雲浮かびおり我に語るもい  
とほしきかな

ひとことの交わす言葉もなく消えし妹はいづ  
くに生きてをりしや

亡き母と那須たかららに宿をとり楽しみあへ  
る日のなつかしき

若き日の苦楽をしのぶ那須の地を知らずに買  
ひし時をしのべり

賃貸用住居を建てて事業化す地鎮の祓いに出  
でし我かな

ててははの背中を見つつ習ひゆく教えたつと  
き少年の日々

黒磯の神社の宮司が厳かに祓い清めて先を祝  
へり

建設にかかる人らのあまた出で清め祓ひて  
事に就くなり  
に過ぎず若き日

田園のしらべに深く身を魅かれ那須たかはら

若草の名にふさわしきこの街の山なみ眺む豊  
かなる地よ

さまざまに卑しきことも浮かび来て清住の土  
地手放しにけり

地の神の縁に授かり豊かなる恵みに浴し先を  
望めり

せせらぎの流るる音の聞こえきて風のそよぎ  
に秋は近きも

提携す一部上場の大東と那須若草に図る計画

余をだます人さまざまに世をさりて幾とせず  
きて空し跡かな  
地面師の話に乗りて詐欺にあひあとの始末に  
浪費するとは

清住はアイダ設計に売却す土地の広さに驚き  
にけり

詐欺に遭ふ土地も祓ひつ改めておのれながら  
に責を果たせり

新幹線車窓にはゆる半月の白く冴えたる光は  
なでり  
清住の土地に住宅建設の跡しみじみと見てう  
なづきぬ

積年の願いを果たし安堵しぬアイダ設計にこ  
れを託して

青き夜の甘きひかりのしづもりて音なくわた  
る秋の月かな

平成二十五年七月十七日

於・八重洲富士屋ホテル

### 経済の精神

一橋大学学長  
山内進



戦争で物をとると、奪うということは、これは一応「略奪」と表現しているわけですが、そういうことは当然のことであるということで、そういう時代の話としてありました。我々からすると大変奇妙なんですが、略奪は経済活動の一翼を担っていたのです。もちろん、商業というのはその時代もありますし、農業もありますから、いろいろなものをつくり取引きしたりはしてゐるわけで、そういう活動はありますけれども、それよりも一番生産性が低い時代では、真面目にそうしたもののをつくつているよりは、とつてきたほうがあ早いという時代があって、そういう考え方があく一般に流布していた時代があるということがあります。

そこで、皆さんに配つたもう一枚のコピーを見ていただきます。言葉で少し説明したいと思います。これは、私が昨年出した本の中に入っている論文の中から引いてきたもの

で、幾つかの論文を載せていました。私はこの中で、「文明は暴力を超えるか」というかなり高級な題をつけているのですけれども、この文明は暴力を超えていたかという題の中の、中の論文の一つです。コピーは、私が書いたもので第4章を（「文明化」と日本一拡大する「境界」）という題で書いております。それはもちろん最初に、暴力とその規制、リストリクションということで西洋文明という題で書いている部分があります。その中で、私は「略奪と経済」というように書いた項目がありますので、ちょっとそのあたりの中身についてお話ししたいと思います。

この本の中で言っている話に、オリエンタリズムという言葉がありますが、サイードは、オリエンタリズムに対比させる目的で、「東洋は乱暴だ、野蛮だと、西洋は文明的である」と、こういう意識が根底にあって、それが自

分たちにもあるし、ほかの人たちにもすり込まれていると言っています。すり込みがオリエンタリズムだというわけであります。この場合の西洋というのは、非常に文明的なので、平和的で理性的で理知的だと言っています。これに対して、野蛮な東洋の地区は乱暴であり、人をすぐ殺すし、物を奪うことを平気でやると言うのです。例えばそういう中の言葉として、「略奪するじゃないか」と、そういうことは平気でやっているというようなことを定常的に批判する文章がまず冒頭に書かれています。確かにそういう面はあるかもしれませんけれど、ヨーロッパも昔はそうだったのですよ。あなたは今違うと思つていいかも知れないけれど、昔は西洋の歴史のかで人を殺したり略奪したりしたことは、結構盛大にやつていたんだという実話が、沢山あるということを私はここで書いたわけであります。

先ほど言いましたように、そのような行為というのは、中世ヨーロッパやそれ以前のギリシャ、ローマにおいて、かなり広く見られます。「略奪」は立派な経済活動であつたのです。ギリシャやローマの経済は、戦争による略奪品なしには成り立たなかつたのです。そもそも奴隸の重要な源泉は、戦争捕虜や、敗北した都市・地域の女性や子供であつたとすることが書いてあります。それから、初期中世ヨーロッパについては、ジョルジュデュビーという大変有名なフランスの歴史学者がいますが、彼に言わせると、初期中世ヨーロッパの人々は、戦争と侵略の文化に染まつていたと言うのです。自由人とは、まず何よりも軍事遠征に参加し得るものであり、王権の第一の世俗的な指命は、軍隊、つまり攻撃のために集められた全人民を率いることであつたと言つています。なぜでしようか。戦争行為と略奪の間には、何の境界線もなかつ

たのです。これは、私が言つているのではなくて、デュビーがはつきりと言つております。というのも、自由人が戦争に参加するのではなくて、デュビーが言つた通り、略奪のためだと彼は言つているのです。戦争は、第一級の重要性を持つた経済活動の通常の形態がありました。これもデュビーが言つていることになります。そういうものだつたと言いつつあります。これもおもしろい話ですが、イングランドのウエセックスに、あるイネの法典という大体七世紀ごろの法典とされるものがあります。その第十三条に、七名までは窃盜、七名から三十五名までは盜賊団、それを超えるものが軍隊であるという規定がなされていました。だから、軍隊の場合は物をとつてもいいですよということを言うためにこれを書いていたというのです。ですから、幾ら何でも近隣から物を取つてくるのはとんでもないということなので、そういう規定があるわけです。そのぐらいの差し

かなかつたということが言えるわけです。

もともと、自由人というのは要するに、ゲルマンの農民的戦士と言うとわかりやすいと思います。ふだんはある程度農地を耕作している。何かあるとみんなで集まって、わあつと行つて、物をとつて帰つてくる。だからまるで、漁に行くようなものですね。そして奪つてきて、とつてきたぞつと言つて家に戻つてきて、よくやつたぞつという話になるわけです。ついでに言えば、よくやつたときにみんなで宴会をするわけですが、大宴会をしてみんなで喜びを分かち合うわけですが、そのときにはけちつてはいけないのが原則です。どんどんものを出してみんなに分け与えなければいけません。与えれば与えるほど、あの人には偉い人だということになるのです。

き上げるような感じでやる、そういう世界だつたということです。ですから、逆に農民的戦士というのは、かなり自立した自由人という事になります。王様はいるのですが、この王様は何のためにいるかというと、自分たちが物をとりに行つたときに、統率者がいないと困るので、あるいは敵が攻めてきたときに、逆にとられてしまう、そういうときに統率者がいないと困るので、王様を統率者として立てるわけです。優秀だとか、家柄がいいとかで、親分にするのに足りるということで親分にすることもありますが、だけどそれは、彼が彼のために彼を親分にするのではなくて、あくまでも自分たちのために親分にするのであります。

ゲルマンの王様というのは、基本的に選挙によつて選ばれるということになつていました。この伝統は長く続く形式的なものになりますが、長く続いたので、ドイツでは皆

さん御存じのように金印勅書というのがあります。十四世紀になつて出でますが、あれは皇帝を七人の選帝侯が選ぶという形をとっています。その前の段階でも、ドイツ国王を決めるのは選挙だということになつています。実態として言えば、必ずしもそうでない面多々ありますが、しかし、選ぶという行為があるとされているのは国王でした。国王はもちろん血統のいい人でなければなりません。しかし、自動的になれるわけでは必ずしもない、という伝統が長く続いていきました。ですから、そういう意味において国王はなぜそういうものとしてあつたのかというと、もともとはそういう戦士たちの同意と協力の上に国が成り立つていたのです。戦士たちが国王のもとで戦うのは、自分自身の経済活動を有効に機能させるためであつたのです。

当時の国家というのは現代の、今の国家と

いうものではないと言つていいと思います。

それから、ある人物の歴史を築いた、「フランク史」という題の六世紀後半に書かれた年代記という大変有名な書物があります。その書物の年代記の中に、幾つもおもしろい話が載っています。その中に例えばこういう話があります。ザクセン人、このころザクセン人は異教徒です、キリスト教徒では有りません。メルヴィング朝はもうこのときカトリック教徒になつていました。メルヴィング王朝は、ザクセン人から毎年税金を取つていました。ザクセン人は当時、可成の力をもつていてのですが一応抑えていました。税金と言えば聞こえはいいですが、要するに貢ぎ物を取つていたのです。ところが、よく反抗して貢物を持つてこないので。それで、雄牛五百頭を納めさせようとしたら納めないと、これをみんなで討とうといつて攻めていくことにしたのです。クロタールという人

がいて、そのときは、この人が五百十一年から六十一年ぐらいまで王様やつてた人ですが、やつてきたザクセン人はたくさんの規模で押しかけてきたら、これはたまらんと思つて、参りましたと、今までと同じように貢ぎ物を納めますと、こう言つたわけです。王様は、まあいいかと思つたんだが、ところが、一緒にやつてきたフランクの戦士たちは、それに賛成をしなかつたのです。なぜかというと、彼らは戦つて略奪することを欲していたからです。すると、今度そのザクセン人は、さらに自分たちの財産の半分を持つてきて、これで勘弁してくださいと言つたのです。戦士たちはなお納得しません。そうすると、ザクセン人はさらに衣類や家畜まで持つてきて、土地の半分を渡すとまで言つたと、そのようなことが「フランク史」には書いてあるわけです。それで、王様はもういいじやないかと言つたわけです。戦士たちが戦うと言つ

ても、自分はもうそれにはついていかないと王様は言つたのです。そのグレゴリウスという人が書いてある、六世紀の年代記にはこう書いています。彼らはクロタール王に対して怒りを発し、王に襲いかかり、王の天幕を引き裂き、王自身に悪口を浴びせかけて力によつて引き出し、もし王が彼らとともに行くことをちゅうちょするならば、彼を殺そようと望んだのです。クロタールはこれを見て、嫌々ながら彼らとともに出発したという話が、書かれてあるのです。王様はもちろん偉いのですが、こういう感じだったということがよくわかつて、大変おもしろい話だと思います。王はあくまでも、そういうものとして、戦士たちのトップにいる者として、戦士たちを率いて、戦士にたくさん配分しなきければいけないと、こういう使命を持つていたのです。これは、結構極端な例かという気はしますが、そういう世界があつたということでありま

す。

そういうことで、王様ということは、物惜しみをしてはいけないということになります。このころ、慣行が決まっていまして、戦争の際に、物を奪つて、それは自分のものにしていいという慣行があるのですが、ただその場合に、直ちにしてもいい場合と、そういう場合があつて、とりあえずみんなで略奪したものを集めましようとして、みんなで集めたものを今度は配分するということです。王様は幾らかとつてとかいう感じの配分があつて、そういう配分の規則というのはちゃんとあつたのです。それを破るということは認められないということがありまして、そういうようなことが一般に行われていました。そのことで、王様は自分の持ち分があつても、それをどんどんみんなに上げるということをしないと次は皆んながついていかないとということです。ほかのやつを王様にしようとする。

いうことになるんです。当時はこういう関係があつたということです。そういう関係が生きていて、王様がいて、領主がいて、親分がいてという話が続くのが、ゲルマンからフランス王国の時代にかけてあつたということになります。それが、だんだんと固定化され、封建制というものになります。すると、農民と領主の関係というのが固定化されて、農民が搾取されるという話が出てくるわけですが、それまではむしろ逆で、上のほうがたくさんばらまくというのが原則ということがあります。当時の社会ではそういうことが広く見られたということになります。

モンテスキューはなぜ、先ほど略奪ということを言つたかというと、念頭にあつたからだと思います。そういうことが念頭にあつたので略奪行為を法的に正当化するという話がそこにあつたと思うのです。皆さん、バイキングというものを知つてゐると思ひます。

バイキングというのは海賊で、わあつと行つて物をとつてきてるということで、よく映画内にも出でます。大変おもしろいのですが、あのバイキングも同じ行為として当時はありました。要するに、それをかなり激しくやつていたということなのです。彼らは海賊というよりは、ふだんはやつぱり農民でした。それで、農作業が終えて、暇になると、ある程度の時期になると、みんなで押しかけていつて、そして物をとつてくるということを繰り返していました。ちょうど今「ころ行けば、あの辺でもう麦ができるからって、昔だから、とつてこよう」ということで押しかけていたのでしよう。押しかけられた方も、とられては大変なので防衛するということは当然あるわけで、お互いに命がけでそういうことをするということになります。

命がけでするので、そういう命がけで物をとるということが、当時の男たちの、あるいは

は女にとつてもそうなのですが、倫理観からすると、それが最も立派な行為だと考えられていたのです。自分の命をかけて物をとつてくくるというのに比べて、命を惜しんで物をつくって、ひそひそと物をつくって生きしていくというのは立派な男のすることではないといふのが当時の考え方だったということです。言われてみると、何かそんな気もしてくるから、何か不思議なのですが、そういう時代なわけで、そういうものの上に乗つかつて色々な活動が行われていたのです。そういう伝統の中で、戦争というものをどんどん仕掛けっていました。もちろん組織化されていくますから、次第にそういう略奪行為の状態はどんどんなくなつていくのです。それでもヨーロッパの戦争の場合は、兵士が戦争に行つて、その際に戦利品、略奪品を自分のものにして、それを財産にするというのは当然のことと考えられる時代が長く続きます。

では、そういうものがよくないよというようになつてくるのは、大体、絶対主義国家が可成りできてきて、国王が力をつけてきたあたりからです。略奪というそういうことはなんだんよくないと思うようになつてきました。例えば軍隊も組織化されてくると、いうことから、略奪はだんだんよくなくなつてくるのですがしかし、それまではごく一般的に行われていましたし、それから十七世紀ぐらいになつても、なお行っていたのです。このころになると例えばグロティウスというような有名な国際法学者がつ出てきます。「戦争と平和の法」という本を書いた法学者です。「戦争と平和の法」という本の中でも彼は略奪といつたそういうものを合法であると言つています。即ち戦時略奪というのは合法であると。ただし、彼ぐらいの時代になると公然と本に、さすがに幾つか条件はもちろんついてくるのです。略奪が合法的であるという

ことを書いてますし、そもそも彼の「デビュ作」というのは若いときに書いた本で「捕獲法論」という題でした。要するに捕獲というのは戦争で物をとることを法律で捕獲というくらいに合法化してました。「捕獲法論」という題で、自然法の観点から見ても、国際法の観点から見ても、戦争の際の捕獲は合法であるということを言つてます。その一部が、それは実は未公刊の書物だったのです。このなかの一部が「自由海論」という形で公表されたということです。航海の自由についてあ興味深い話があります。航海の自由を否定しているのはポルトガルとスペインでした。ポルトガルとスペインに対し、オランダの商船が戦つて勝つた場合は、そのスペインの物を全部とつけても構わないと云う意見で、それは合法だということを言つています。それを売り払つて東インド会社などの重要な資本にしていくということを行つてい

ました。同じころエリザベス女王の艦隊、これが有名なキャプテン・ドレークというのですが、あれは一説によると海賊だったと言われています。確かに海賊なのですが、彼らに私掠、特許状、特許状を出すのですね。奪つてもいいという特許状を出したのです。特許状を持つて言うから合法的に奪えると言つて、スペインの艦隊を襲つて、そして物をとるということをして暮らしたといいます。

もちろん、この場合の合法というのは、特許状を出す根拠は、向こうがそもそも悪いことをしてイングランドの人から物をとつていたということを根柢に。だから、それと同じものを違うどこからスペインに属するものであれば誰でもいいから、その人からとつていいというのが、その特許状の意味するものだつたのです。そういうものを盛んに出して行つたということが言われています。そういう形で展開したということです。

こうした話が好きなので、こちらのほうばつかり長くなってしまいました。もうちょっとと付足しますと、確かに理屈を述べれば一理あるのですが、そういう考え方というのは駄目だということで国際法上みんなで約束したのが、1899年のハーグ条約といわれるものです。ハーグ陸戦法規条約、というのです。十九世紀の終わりぎりぎりのところ、二十世紀の始まりぎりぎりのところです。ところがおもしろい話がありまして、1900年に義和団の乱というのがありました。中国で義和団というのが出てきて、西洋人や外国人を追い出せと言つて反乱を起こしたのです。そして、北京を攻め入るということの、事件がありました。皆さんも、「北京の55日」という映画御存じかと思います。チャールトン・ヘストンが出てきて、襲つてきた義和団の連中に對して、自分たちを守つて、そして助けにきた兵隊たちのおかげで解放されました。そ

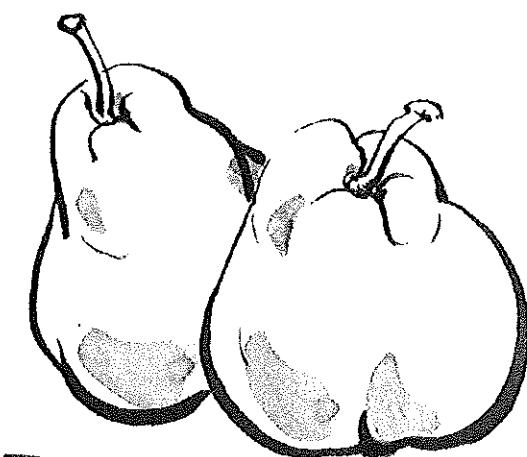
の間、彼は英雄として自由に立派に戦つたという話で、当然、そういう観点で書かれているので、義和団は悪くて、ばかのように描かれるわけですが、しかし、考えてみると、勝手に外国人が入つて行つているわけですから、出てけつていうのも無理はないということはあるので、このときに、4万5,000人の連合軍の兵士が助けに来たというのです。

龍城した者もいましたが、もちろん数は少なく。そのときに有名な話がありまして、その兵士たちが首都で大変な略奪行為を働いて、いろんな物をとつていったと言われています。このとき、この軍隊の中核をなしていたのは、実は日本軍だったのです。日本が地理的に一番近かつたということもあって、日本が中核をなしていたのですが、唯一日本軍だけが略奪をしなかつたと言われています。このころは日本の軍規が非常にしつかりし

ていて、そういうことをしてはいけないと言っていたのでしなかつたと言われています。実際は多少あつたかもしれませんのが、基本的にはしなかつたといってよいのだろうと思います。日本軍は、ハーグ陸戦法規条約で決めたことをきちつと守つたわけです。守るということを示して、自分たちは国際法を守り、文明国家であると云うことを見証しようとしたのかも知れません。

だから、非常に厳しく略奪行為を排除するということをしたのですが、ヨーロッパの軍隊で一番盛大に略奪したのはロシア軍だつたという話が残っています。そういう行為を行つたけれど、彼らは割と平氣だつたと言わされています。なぜかというと、そういう伝統があつたのです。しかも、ハーグ陸戦法規条約が条約なので、条約締結国でなければその効力は出てこないし、國でそれを批准しなければなりません。まだ、批准している状態で

もなかつたし、中国はそのころ、そういう条約締結国ではなかつたのでした。つまり、国際法が及ばないところだつたのです。国際法が及ばないところであつては、要するに何をしても構わないと云うことになります。つまり、国際法上の規定には反しないということです、そういう行為が行われたということで、まさに、ある意味では中世的世界がそのままそこで展開されていたというようなことが言えると思うわけであります。 続く



作品 関根常雄

〔時局論壇〕

技術革新軸に『再調整』を  
日本経済の羅針盤

スタンフォード大学  
名誉シニアファロー

今井 賢一

ケインズはかつて、「われわれを苦しめて  
いるのは老人性リューマチではなく、速すぎ  
た変化による成長神経痛、一つの経済時代と  
もう一つの経済時代との間の再調整に伴う  
痛みなのだ」と書いた。

グローバル産業組織の大変化の中で、日本の産業・企業の多くは苦戦を強いられている。確かにその背景には、企業の高齢化に伴う老人性リューマチ的な「組織の硬直化」もあるが、直接の原因は、経済のグローバル化が複雑に生み出す金融と為替の遠すぎた変化による痛みなのである。

ここで問うべきは、現在の日本にとって  
「もう一つの経済への再調整」とは何かとい  
う本質的な問題である。ケインズの意をくんで私流に述べれば、それは実体経済から遊離して金融が経済を動かす金融資本主義から、世界の人々のニーズに真に応えるイノベーション（技術革新）を軸とする資本主義への



再調整である。その過程で日本流の長所を維持しグローバルな骨組みとの調整を図つていくことが、日本が目指すべき針路に他ならない。

シェンペーターが「資本主義は生き延びうるのか」という問いに、「否」と答えたことはよく知られている。しかし彼は、次に来るべき経済体制に関しては「資本主義が何か別のものに変化する過程である」と言うにとどめた。

この「何か別のもの」の中に金融資本主義が含まれないことは明らかだが、私はここでシェンペーターが残した「資本主義は本来共生すべき『職人』をも立ち退かせてしまった」という警告を重視して、あるべき賢本主義の姿を考えたい。

＊＊＊＊＊  
資本主義がまず取り組まなければならぬ課題は、70億人を超えた地球人口が必要

とするエネルギー、水、食料をどのように生産・調達し配分するかという問題であり、その解決の仕方に今後の資本主義のあり方がかかっている。

19世紀から20世紀にかけ、世界大戦の悲惨をへても平和な経済を作り見なかつたのは、結局、石油資源の争奪戦と、それに起因する領土主権の争いが原因だった。

### 日本人の「職人」を生かせ

#### シェール革命、新たな意義

しかし幸いなことに、石油と軍事に支えられた資本主義は、徐々に後退する見通しが出てきた。新しいエネルギー源「シェールガス」の時代の到来はどうやら本物のようであり、ギャンブル的で金融投機の対象となつた石油産業とは別の姿になりつつある。

例えば高圧の水で岩盤を砕くフランキン

グ技術などを開発したベンチャーエンtrepreneur企業家のジョージ・ミツチエル氏が、その特許を取らず一般公開したことが象徴的だ。これは独占の論理を基盤とした従来の石油産業とは大きく異なる。

ただ、私は單にこうした事実だけからシェール革命の意義を強調しているのではない。シェールガス発掘の奥に、新しい経済論的基礎があることが確認できたからである。

実はシェール革命を支える技術は、自然と人間が作る「行為者ネットワーク」を研究するパリ政治学院のブルノー・ラトウール教授の発想に原点があることが諸文献からわかった。彼の理論の特色は、ネットワークを動かすのは人間だけでなく、ロボットやセンサーも行為者であり、両者が共同して調査・探索対象を記録してゆくという点にある。

シェールガスでいえば、ガスが含まれる頁岩（けつがん）とその環境を個別

に記録し、頁岩に印やセンサーを付ける。こうした「刻印」から得られる情報を分析して発掘の場所や方法を選んでいく。情報を単なる集計量として捉えるのではなく、個別のデータ（ミクロ）と環境全体（マクロ）の有機的な関係（ミクロとマクロの技術のループ）を捉えうる画期的な方法なのである。

従来の石油採掘でも、油田の発見には膨大なデータが集められるが、いつたん見つかると自動的に石油が噴き出すため莫大な収益を生む。このため石油資産は金融投機の絶好的の対象であり、軍事ともからんで金融資本主義の蹂躪（じゅうりん）を許した。これに対しシェールガスは金融資本主義とは異なる産業基盤を作るのである。

シェールガスの発掘では排水処理に多くの薬品を使う。日本の栗田工業、荏原などは、世界有数の水処理技術で貢献できるだろう。また、東京都水道局の水処理ノウハウは世界

一の実績をもち、彼らはシェンペーターのいう本来共生すべき「職人」なのである。

もちろん「ミクロとマクロの技術のループ」をつくるには、コンピューター、ロボット、センサーの高度技術も不可欠だ。日本はここにも高学識の技術者による世界一の技術蓄積がある。この場合にも、技術の細部を開発し、保守し、運営してゆくのは、創造的な職人たちである。かくてシェール革命は、シェンペーターが望んだ方向に実体経済を作り直す。

\*

\*

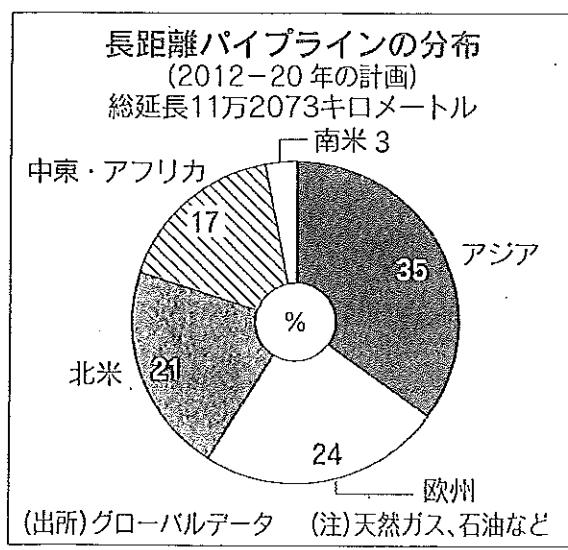
\*

\*

新しい資本主義にとって、もう一つの重要な着眼点は、エネルギーや水の輸送のパイプライン網の建設にともなう「国家主権のシェア」という枠組みである。

石油・天然ガスのパイプラインは、単なる輸送手段から、国家間の利害・協力関係を調整する手段になりつつある。多くの国が、そ

の意味でのパイプラインの重要性に気づいており、グローバルデータの調査によると2020年までに157の長距離パイプラインが世界に張り巡らされるという。図のように、アジアの比率が高いことが注目される。



日本の場合には、かねて計画されていたロシア・サハリンからの天然ガス・パイプライン構想にも復括の機運があり、それを契機に懸案の北方蘭土問題解決の運が開かれる可能性もある。

もちろん、今でもパイプラインの利用や建設が国際紛争に振り回される例はある。ただ、米スタンフォード大学のステイレブン・クラズナー教授が、17世紀のウエストファリア条約で成立した「国家主権」の概念が実態と乖離（かいり）していると批判して以来、多様な方法で主権概念を柔軟化する必要性が意識されるようになった。

現在、世界では「戦略的」と銘打ったパイプラインが10カ所程度、計画されているが、これらはパイプラインでつながる国々の平和的な関係を深める狙いを含んでいる。エネルギー供給という国家の生存に関わる利害関係の調整を軸に、互いが自らの主権を制限

し合い、新しい関係を築こうとしているのである。

\* \* \*

ケインズの「もう一つの経済」という言葉を出発点として、シェール革命を機軸とする新しい資本主義のポイントを論じてきたが、最後に、この時代を切り開いた起業家の性格に注目しておきたい。先にジョージ・ミッチェルが特許権を放棄したことを述べたが、彼は若いころ米テキサス州の「ウッドランド」という広大なコミュニティに多様な雇用をつくつた地域プランナーだったのであり、これまでの石油資源系の創業者とはまったく異なる。不幸にしてミッチェルは最近他界したが、晩年の彼は中国のシェールガス開発に強い関心を持つていたという。

彼がどういう資本主義を志向したのかは分からぬが、彼の経歴を読む限り、本稿で述べてきた考え方と親近性を持つことは確か

である。そうであれば、彼の志を継いで、中國のシェールガス開発に隣国の日本が協力することは、絶好のチャンスであり、同じ志を持つ者の責任でもある。

一橋大学名誉教授。専門は産業組織論

今月  
ルミ  
一



作品 関根常雄

## 〔時局論壇〕

『影の銀行』リスク、吸収可能

キヤノングローバル戦略研究所

研究主幹　瀬口　清之

6月下旬、金融市場では中国のシャドーバンキング（影の銀行）が崩壊し、7月中にも「中国発リーマン・ショック」が発生して世界経済に大きな影響を及ぼすのではないかというリスクが強く懸念された。このように中国経済に対する懸念が過剰に意識される背景には、中国経済の現状に対する誤解や統計データに対する不信感がある。

\* \* \* \*

その第一は、不良債権問題の深刻さに対する誤解である。2カ月前にシャドーバンキングが崩壊すると予想した日米欧の専門家の判断の根拠は、銀行預金よりも高利の「理財商品」を通じて集めた資金の運用対象資産の価格が暴落し、不良債権問題が深刻化するという見方だった。

一般に、深刻な不良債権問題を引き起こすのは株価や不動産価格の暴落によるバブル経済の崩壊である。現在の中国の株価は20



07年10月のピーク時と比べ3分の1程度の水準で低迷している。これがさらに暴落するとの見方は少ない。主に懸念されているのは不動産価格の方である。

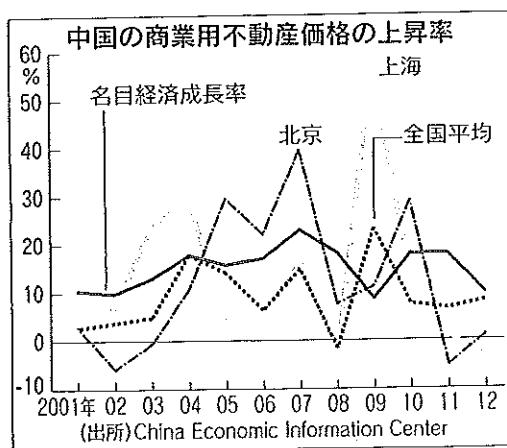
かつて日本で不動産バブルが発生した時、

東京の住宅地は1985～87年に約3倍に暴騰した。六大都市の商業地は85～91年の間に4倍に高騰した。その間、日本の80年代後半の平均名目成長率は6・1%だった。当時の不動産価格上昇率は名目成長率を大幅に上回っていた町である。

これに対して、最近の中国の主要都市における不動産価格の上昇率は中国の名目成長率並みか、下回って推移している(図参照)。

オリンピック前年の北京、万博前年の上海など、以前は一時的に高騰したこともある。しかし2010年以降、そうした不動産価格の著しい高騰は見られなくなっている。10～12年の中国の平均名目経済成長率は1

5%である。それに対して住宅価格の平均上昇率は全国ベースで7%台前半。北京、上海はそれすら下回り、比較的高い上昇率を示した内陸部の湖北省、重慶市でも名目成長率並みか、それを下回った。



8月18日に公表された新築住宅価格は、昨年まで2年連続で伸びが抑えられていた北京と上海がそれぞれ18・3%、16・5%と2ケタの伸びを示したが、内陸部の武漢、重慶など主要都市の伸び率はいずれも1ケタ台にとどまつた。

このように中国の不動産価格は都市によつて多少の振れはあるが、日本のバブル時代のように名目成長率を大幅に上回つて上昇し続けることはなく、安定的に推移している。当面、バブルが崩壊し金融危機が起きるリスクはほとんどないと見るべきであろう。

ゴーストタウン化している地域もごく一部に見られるが、不動産市場全体の中では例外的なケースである。余談であるが、中国ではマンションの内装は建物の完成後に各自が業者に発注するため、入居まで1年以上かかるることは珍しくない。転売目的で購入し内装工事をしないまま保有することも多い。そ

の事情をよく知らない外国人が新築後のマシンションに入居者がいないのを見て不良債権化していると誤解していることもある。

以上のような前提に立つて、中国におけるシャドーバンкиングのリスクの大きさについて確認してみよう。

シャドーバンкиングの総量については定義の仕方により諸税があるが、大ざっぱなイメージでは国内総生産（GDP）の約半分、二十数兆元（約400兆円）と見られる。その運用先は手形、委託貸し付け、不動産開発、インフラ建設などが主なものである。手形や貸し付けの多くは担保がついているほか、不動産開発、インフラ建設については政府の監視の目が厳しく、経済情勢さえ安定していれば不良債権化するリスクは小さい。

08年のリーマン・ショック後の景気刺激策として実施された4兆元の緊急経済対策により多額の不良債権が発生し、昨年と今年、

その処理のピークを迎えていた。このため政府の金融機関に対する監視は通常以上に厳しく、金融機関にも自制が働いている。

こうした状況下で、二十数兆元のシャドーバンキングのうち焦げ付きリスクのあるものは多めに見て約2割、そのうち実際に焦げ付く比率を高めに見て1割と想定したとしても、全体の2%にすぎない。金額にすれば5000億元（約8兆円）程度である。昨年の中国の銀行の純利益は大手5行だけの合計で7700億元（約12兆円）に達していることを考慮すれば、この程度のリスクは十分吸収可能と考えられる。

\* \* \*

第二の問題は、中国のマクロ彊情勢に対する誤解である。シャドーバンキングのリスクがコントロールできる範囲内と判断する前提条件は、経済が安定を保持していることである。中国経済の失速リスクが大きいと見れ

ば、シャドーバンキングに対する懸念も高まる。実際はどうか。

中国经济は本年に入つてから2四半期統計で成長率が低下した（実質成長率の前年同期比は12年10～12月期が7.9%、13年1～3月期が7.7%、4～6月期が7.5%）。現在も緩やかな下降局面にあるとみられている。しかし、これは中国政府の意図した方向に沿つたものであり、現在のマクロ経済情勢は良好な状態にあると考えられている。万一、失速しそうになれば即座に景気刺激策を実施することも可能であり、当面、失速のリスクは小さい。

中国政府内部では、以前は8%成長を確保しないと雇用面での不安が高まるとの認識から、8%成長を防衛ラインと考える「保8」という見方が多かつた。しかし、最近は7%台の成長率が続く中、雇用面では都市部の新規雇用者数900万人（年間）確保、物価面

では消費者物価前年比3・5%以下を保持という目標を十分クリアしている。この状況を眺め、今年3月に発足した新政権では雇用の安定さえ確保されていれば7%成長を防衛

ラインと考える「保7」という考え方が新たなスタンダードとなつてている。

第三に、中国の経済統計に対する不信感がある。中国の経済統計の多くが日米欧諸国の統計とは異なるため、単純な比較ができないのは事実である。その差異がどこから生じるのかきちんと理解し、その理解に基づいて中国経済を分析することが求められる。

中国政府のマクロ経済政策運営の中枢にいる優秀なエコノミストは、その理解と分析に基づいて中国经济の情勢判断を行い、経済政策を運営している。実際に彼らと意見交換すれば、中国经济統計の不備を関連統計の詳しい分析や地方視察による実体経済の実情把握などによつて補い、経済情勢を的確に

判断していることがわかる。中国经济統計の不備の問題は誇張され過ぎていると考えられる。

\* \* \* \*

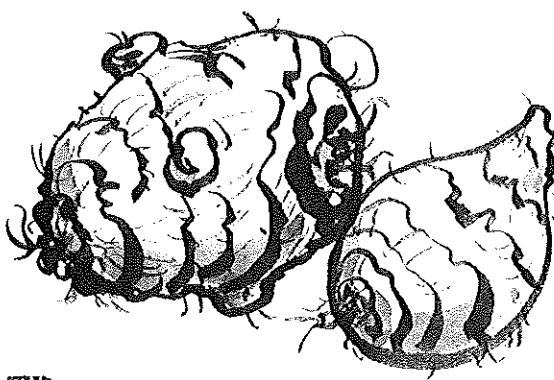
中国经济の先行きに対する懸念は相変わらず根強い。しかし、そうした懸念の一定部分は、以上のような誤解や不信感を背景とする根拠の希薄な懸念であると思われる。確かに中国经济が直面するリスクは色々ある。しかし、現在の中国经济の安定した状況を客観的に見れば、中国经济が当面ハードランディングに陥るリスクはほとんどない。

中国政府の経済政策関係者が現在深い悩みを抱えているのは、絏済の発展途上で競争力が低下し成長が停滞する「中所得国の罠（わな）」に陥らないため必要な構造問題の解決をどこまで実現できるかという問題である。もちろん100%の解決はあり得ない。しかし何とか6～7割は解決しないと、

2020年代の中国経済は深刻な経済停滞に直面するリスクが高まる。残された時間は短く、構造改革の加速を躊躇（ちゅうちょ）している余裕はない。

東大経済卒。元日銀北京事務所長。  
専門は中国経済

瀬  
口  
清  
之



瀬  
口  
清  
之

作品 関根常雄

## 明日を探る

東京大学先端科学技術

研究センター准教授

菅原琢

甲子園が終わると、いよいよ夏も終わりか

という寂寥感が漂い始める。夏の高校野球が春のそれに比べて盛り上るのは、47都道府県の代表校が競うためだろう。東京の居酒屋でも、故郷代表の善戦話に花を咲かせているのを聞く。

競争はわれわれの社会に寓や幸福をもたらす好ましいものだという議論は、一定の説得力を持つ。競争により企業は素晴らしい製

品を、学者は新しい発見を、子供は新たな知識や技能を得る。イノベーションや未知の知見、人間の能力は際限がなく、競争が意味を持つ。

ただ、競争は常に素晴らしい結果をもたらすとは限らない。敗者を生み、無駄を生み、挫折を生むのも競争である。本来、この競争による不都合を緩和するのが政治の役割である。さまざまな社会保障制度が競争から排除された人々の生活を支えているのはその例である。

だが、この国では政治が率先して競争を行い、さまざまな不都合を生み出している。現代の日本に生きるわれわれは、こうした例をそれと気づかぬうちに目撃している。

たとえば東京では地方の工業団地の広告を見かける。進出企業が少なく土地が余っているのである。雇用や税収の確保を理由とし、全国各地で工業用地が造成され企業の誘致

が試みられている。もつとも、土地を平らに

すれば工場が生えてくるわけでもなく、他の自治体、そして海外との誘致合戦となつていい。その結果が、田畠や自然環境を潰して造られた広大な空き地である。

企業の進出を促し、地元産品を全国に流通させるためとして、高規格な道路も縦横に造られる。競争で優位に立つため、他地域に遅れないためにと論じられるが、一方で道路は地域に競争を呼び込む。国道バイパス沿いに全国チェーンのロードサイド型店舗が並び、地元の商店街が寂れる。今や旅の立ち寄りスポットとして定着した道の駅も競争の產物である。隣町が造るならうちもと、同じ道路沿いで補助金を投入し意地を張る。その脇で、民間のドライブインや飲食店の廃墟が連なる。土地を転用したい、売りたい農家が道路をもとめ、クルマ社会が訪れ、地場の商業が廃れ、競争の敗者が大都市に追い出されると

いう物語である。

衰退した自治体は町おこしを狙う。その象徴であるご当地B級グルメやゆるキャラに悪い印象を抱いている人は少ない。だが、B級グルメは観光客の財布と胃袋を奪い合うための武器である。ゆるキャラはその自治体の名前を売るために必死に踊り、メディアに宣伝の場を確保する先兵である。もつともこの戦争で日の目を見るのは一握りに過ぎない。ギヨーザが戦っているのはよその焼きそばでなく同じ市内のうな重かもしれない。あのキャラが売っているのはその町のプライドだろうか？

自治体が競争しても、日本全体で企業や観光客の数が増えるわけではない。だから競争が激化しても勝者は増えず敗者が増え続ける。「均衡ある発展」が幻想だというのはみんな知っている。それでも、多くの自治体は競争から下りようとしない。

町のにぎわいが消えた地方都市では、空き

著書に『世論の曲解』など)

テナントばかりの駅前で進学塾の存在がひときわ目立つ。長い列車待ちの時間に練習問題を解く高校生の姿を見かける。若者の能力は、誰にも奪われることなく伸ばすことができる。小さなパイの奪い合いに一生を費やすより、自らに投資し、町を去るのが賢明である。甲子園での一打は、有名大学に招かれるチャンスを広げるものだ。

こうして若者が去った地域では、従来のやり方で成功してきた人々ばかりが残り、奪い合いの政治への依存が深まり、後戻りできなくなっている。「故郷のため」が金科玉条となり、競争からの離脱を許さない空気が地域を支配する。そして、似たような「故郷」とのチキンゲームを、夏が終わっても続けてくる。

(すがわら・たく 1978年生まれ。)

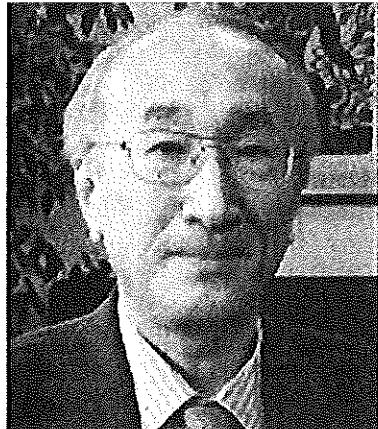
東京大学准教授・政治過程論。

メールにてご了承頂きました

## シェールガス革命 燃料調達見直し必要

日本エネルギー経済研究所  
特別顧問

田中伸男



国際エネルギー機関の著名なチーフエコノミスト、ファティ・ビロル氏は、シェール革命を見誤ると個人、会社、国家を問わず負け組になると警告する。

北米のシェールガス革命は近い将来、アメリカを世界一のガス生産国、液化天然ガス（LNG）輸出国にするだろう。中東やロシアなど従来型ガス輸出国にとり脅威となりつつある。余った中東産ガスや米国炭のせいで欧州から値下げ攻勢を受けたロシア国営ガスプロムは、先行きを読み違えた負け組の一人だ。

シェール革命は、さらにガスから石油に広がり、米国を世界一の石油生産国に押し上げる。こうなると北米はエネルギー自立状態になり、エネルギー開発と利用による国内経済の活性化や雇用拡大が目覚ましい。産業競争力は世界の中で独り勝ちになる。

産油国で作る石油輸出国機構（OPEC）

も、石油から安価なガスへの本格的な燃料転換が起きることに脅威を感じている。日本のようすに石油もガスもない国が原発を止めたままではとても勝ち目はないだろう。

影響は経済にとどまらない。中東石油を必要としない米国は、これまで通りペルシャ湾の安全に深く関与し続けるだろうか。アジア太平洋に軸足を移した米国に代わり、中国がより大きな役割を果たせばペルシャ湾からインド洋、マラッカ海峡に至るシーレーン（海上要路）防衛に地政学的变化が起こる。同時にそれは、中国のエネルギー調達コストの増加を意味する。

最近、北京を訪問してスマッグのひどさに驚いた。解消するには石炭に代わる安価でクリーンな天然ガスが必要になる。シェールガス埋蔵量で中国は米国を上回るが、深い地層に存在し、水も不足がちで従来の技術では開発が進まない。ロシアからの輸入も価

格がまだ折り合わない。中国のエネルギー需給はますます逼迫するだろう。

シェールガスが安いのは、供給量が多いことと、同時に出てくる液体部分を高い石油の価格で売れるからだ。石油価格が高いほど、ガスが安くなるのがシェール革命である。ガスを石油価格にリンクさせた長期輸入契約を結んでいるようでは、日本は負け組になる。

北米からのLNG輸入は調達価格を下げる好機だ。今こそ、日本やアジアの消費国は団結して新しい価格の交渉・形成システムを求めるべきだ。

欧洲では各国がパイプラインや電力系統線を繋ぎ、集団でエネルギー安全保障を図っている。LNGとパイplineの両方でガスを輸入し、価格を競わせてアジアの約半分まで値下げに成功している。

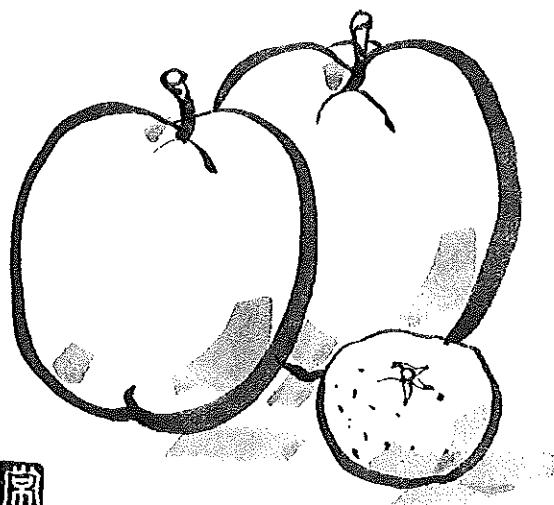
中国や韓国はいずれ地続きのロシアからパイplineでガスを買うだろう。日本だけ

がLNGでの輸入一本に頼るのは危険だ。ロシア国営石油最大手のロスネフチと、パイプラインでのガス輸入を交渉してみたらどうか。足元を見られないためには早急に原発も再稼働すべきだ。

シェール革命は日本が勝ち残る好機だが、それには知恵と勇気と何よりも戦略が必要である。

(2007年から4年間国際エネルギー機関IEA事務局長を務めた)

田中伸也



作品 関根常雄

常雄

外交問題化回避を

歴史問題巡る発言

宮本 雄一



「歴史」というものは大事だが、実に厄介なものだ。個々の人間、人間の集団、社会や国家の存在や生きざまと関わつてくるからだ。世界の民族は、ほぼ例外なく自分たちの始まりを叙述する物語、つまり国造り神話を作り上げた。歴史は、ある意味で「物語」であり、すべての民族が、この「物語」を必要としている。

国や民族により、「歴史」という言責の持つ意味も感覚も違う。歴史上の事案なるものは無数にあり、何を選択し、選択された事実と事実の組み合わせをどう解釈するのかも、国や民族によつて異なる。

よく言われるようになつて、歴史とは勝者の歴史である。勝者により選択された事実と解釈が、人類の歴史として書き残されてきた。NHK大河ドラマ「八重の桜」を見た人は、初めて会津藩側に立つた歴史を知つて驚いている。我々が教えてきたのは、勝者の明治政府

側の歴史であつて、敗者の歴史ではなかつたからだ。

第2次大戦後の世界秩序と呼ばれるものも、日独伊のファシズム国家を連合国が打ち負かして作り上げたのが戦後の国際秩序だという「物語」だ。そういう中で敗者側の歴史を主張すればするほど、彼らがつくりあげた戦後世界秩序に対する挑戦と映る。中国や韓国だけではなく、米国や欧州も日本発の歴史問題に関する発言に批判的なのは、そういう理由なのだ。中国の最近の宣伝も、ここをついてきている。

歴史問題は、外交問題となつた途端に政治問題となり、各との政治がそれを判断する。今日の世界では、各との政治判断は国民世論の影響を受け、その国民の多くは、先の大戦を知らず、歴史学者でもなく、今日の平和と繁栄の時代の価値観で生きている。現在の世界秩序や価値観と深く関わっている歴史問題

題を、このような政治的言論空間に放り込んで外交的に勝ち目はない。だから私は、日本から歴史問題を持ちだし、外交問題にするべきではないと考えている。

過去の一時期、中国は、日本からの経済援助に対する心理的負担を、賠償放棄や歴史問題を提起することでバランスさせようとした。最近も国際正義は我にありといわんばかりに歴史問題に言及する。挑戦されれば冷静に、世界に通用する論理で、しっかりと反論していくべきいい。日本から主導して歴史問題を外交問題にすべきではない。

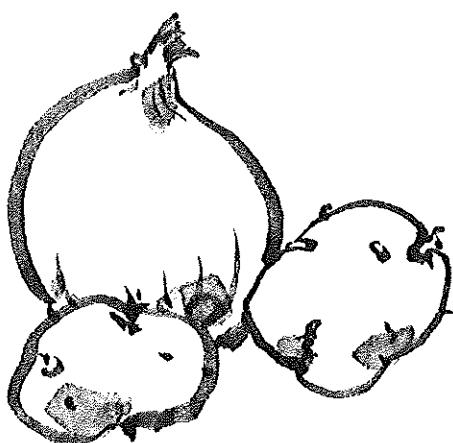
ユダヤの民が成し遂げたように、敗者も歴史を語り継ぎ、書き残すことはできる。気の遠くなるような長い歳月を経て、ユダヤの民は復権し、彼らの歴史は世界の歴史に再登場した。

我々が今なすべきことは、数百年後に訪れる歴史の審判の定め、牢獄とした事実と厳し

い学問的検証に堪えうる歴史解釈を多言語で書き残すことである。そのために資源と人材を使うことに何の反対もない。それが安倍首相の「歴史認識問題について政治の場で議論することが、結果として外交、政治問題に発展していくからこそ、歴史家、専門家に任せらるべきだと判断している」という発言の意味だと理解している。

元中国大使。中国公使、ミャンマー大使、沖縄担当大使を経て、2006年から10年まで駐中国大使。京大法卒

吉本 雄二



作品 関根常雄

## 〔時局論壇〕

国際課税ルール見直し  
電子商取引の扱いに課題

早稲田大学教授  
青山 慶一



経済のグローバル化の中で、国家間の課税権配分を規律してきた既存ルールが抜本的な見直しを求められている。経済協力開発機構（OECD）が7月19日に公表した「税率侵食と利益移転（B E P S）行動計画」は、多国籍企業による行き過ぎた課税回避に対して、各国当局の協調した取り組みを目指したものである。そこでは、15項目にわたって各国内外法や条約の間隙を利用して課税回避への対処を取り扱っている。

その作業は、従来の国際課税の伝統的ルールの抜本的な見直しにつながる可能性を秘めている。国際課税の伝統的ルールについて、B E P Sプロジェクト以前からすでに制度疲労が懸念され、各ステークホルダー（利害関係者）の立場から改正の必要性が議論されてきた。

以下では、B E P Sに至る経緯を概観して我が国にとつての課題を明確にしたうえで、

最後に日本企業や日本政府はどのように対応すべきかを考察する。

\* \* \* \*

もともと通商・金融などの分野と異なり、

国際取引に関する課税に影響を及ぼす多国間条約は例外的にしか存在しない。二重課税の負担を軽減して投資・貿易を促進しながら国家間の課税権を調整する二国間の租税条約は、基本的に締約国の利害関係を反映した個別交渉によって、いわば政治的判断を経て締結してきた。

## 二国間租税条約の枠組みについての国際

協調は、1920年代の国際連盟におけるモデル租税条約の起草に始まり、第2次大戦後はOECDによってモデル租税条約が改定されている。それに準拠した租税条約ネットワークが形成され、条約および各国の国内法を支配する「国際課税原則」とも称される体系ができあがつた。

これらはグローバル化の進展による多様な試練に生き抜いてきた強固な原則であつたが、昨今は従来にない困難な課題をつきつけられている。

\* \* \*

まず、全世界所得主義の下でも、事業活動の現地（源泉地）での成果である子会社から

その中核に位置するものが

①企業の本社所在地国の課税権を尊重した課税権配分と二重課税調整（全世界所得主義）

②事業活動から生まれる付加価値に対する課税権配分を、企業活動の拠点となる現地工場などの物理的施設が存在するか否かで決める考え方（恒久的施設||P E ||帰属主義）

③本社と海外子会社との取引など関連者間所得を配分する際に、独立企業同士の取引価格を前提とする考え方（独立企業原則）の3点である。

の配当に対して源泉地で課税し、本社の所在国では課税しない「領域主義的二重課税排除措置」が普及してきた。多国籍企業が国際的なサプライチェーン（供給網）マネジメントの効率化で競争している現在、グループ全体としての利益は各拠点に割り当てられた機能の貢献の集約として生み出されている。課税所得配分の公平性を付加価値ベースで検証すべきだとする最近の税制ポリシーによつて、本社所在地の課税権に重点を置いた伝統的理念はチャレンジを受けている。

P E帰属主義は、現地に工場など一定の物理的施設をもち、一定の滞在期間が経過するまでは、市場における利潤獲得活動前の準備的段階とみなし、その段階では源泉地国の課税権はないという考え方が背景となつている。そしてこれまで厳格な物理的施設の枠を超えて、建設工事現場や代理人なども対象に加えたり、解釈を柔軟化したりして、グロ

ーバルビジネスの変化に一定程度対応してきた。

しかし、ハイテク技術者などの専門家による短期完結の高価な役務提供や、消費者のパソコンに直接提供される電子商取引など、物理的施設を介さない国際取引の拡大は、課税権配分結果の不公正さを浮き彫りにしつつあるともいえる。

国際課税をめぐるモデル条約の主な相違点

	OECDモデル条約	日欧ECAルール
(P E)の扱い	12カ月超存続の建設工事現場はP E	6カ月超存続の建設工事現場はP E
	サービスPEはオプション	サービスPEを認容
	倉庫による引き渡しは非P E	倉庫による引き渡しはP E扱い
	PE帰属所得のみ課税対象	一定のPE非帰属所得の課税対象化
人的役務	自由職業所得を事業所得と同一扱い	自由職業所得の独立規定の存在
投資所得	使用料の源泉地国免税	使用料の源泉地国課税
独立企業原則	OECDガイドラインによる	OECDガイドラインとは一線

さらに、親子会社間の移転価格のみならず、本支店間取引にも適用されてきた独立企業

原則も、長い間その困難さと直面してきた。

国境を越えて分割対象とすべきグループの超過収益は、主として特許や商標などユニークな無形資産の貢献によるものであるが、そのような無形資産には第三者間の取引市場はなく、独立企業原則による所得配分の決定には大きな困難が伴う。現在もB E P Sと並行してO E C Dで無形資産の定義や課税手法に関する見直しプロジェクトが進行中だ。

これまでサプライチェーン構築過程における無形資産の共同開発・利用については、費用分担契約による所得配分など「O E C D 移転価格ガイドライン」が一定の処方箋を提供してきた。だがB E P Sプロジェクトで指摘しているように、多国籍企業の低税率地への不当な無形資産移転を抑止するには限界がある。米国では当局の訴訟敗北を受けて財

務省規則を強化改定するなど、その対応は後追いを余儀なくされている。

欧洲連合（E U）が域内グループ法人への適用を提案している「共通統合法人税課税ベース」指令案では、資産・人件費・売上高によって定式配分する方式を採用しており、独立企業原則に対する代替案として注目を集めている。

今や、こうしたルール見直しはO E C D加盟国間のリーダーシップのみで決定できる状況ではない。源泉地国課税権について大きな利害をもつ新興国を巻き込まなければ政策協調の実は結ばない。

1 1年に刊行された改訂国連モデル条（途上国・先進国間の租税条約のモデル）では、源泉地国の課税権をO E C Dモデル条約よりも強化する条項（より広範なP E概念、自由職業所得課税条項の独立、使用料の源泉地課税権の承認など）が維持された。さらに、

同モデルの下での移転価格マニュアルでは、製造コストや市場規制など源泉地国市場の特殊性に起因する超過収益の帰属を主張する新興国の独自の見解を「国別実施例」として紹介している。課税権配分方針で実質的な対立が残る先進国と新興国との政策協調は、粘り強い折衝が必要とされよう。

\* \* \* \*

最後に、このような国際課税ルールの見直し動向に対し、我が国当局および我が国納税者がいかに対応すべきかについて提言したい。

国における課税強化の動きを考慮すると、新興国を巻き込んだ合意形成の最大の受益者は我が国であるともいえる。

財務省の浅川雅嗣総括審議官がO E C D 租税委員会議長を務める我が国には、欧米と新興国との調整役としての役割も期待されよう。欧米諸国との間で国際課税制度について、現在の新興国と同様の立場を70～90年代に経験した我が国は、利害調整役として適任と考える。

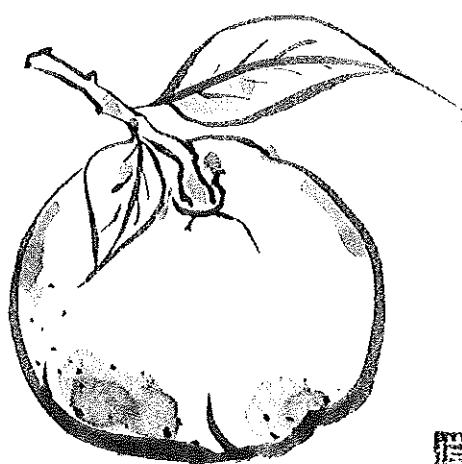
B E P Sで指摘しているような多国籍企業の過激な課税回避は、目下のところ日本企業にはあまりないように見える。しかし、移転価格税制やタツクスヘイブン（租税回避地）税制など、国内規定の課題はB E P Sプロジェクトの一部を構成している。加えて、本邦企業の主要進出先であるアジアの新興

ルール改定に際しては、日本企業もステークホルダーとして幅広く各論にコメントし意見を反映させるべきである。一部の行儀の悪い多国籍企業への対応のため、多くの善良な多国籍企業に比例原則に見合わない負担（移転価格の過大な情報申告義務など）を求める場合には経団連などを通じて毅然とした意見表明すべきであろう。各社ベースで取り組む税務訴訟分野のみならず、産業界全

体として取り組む税制立法分野においても、日本の多国籍企業の機能強化は不可欠である。

東大修士。国税庁審議官、筑波大教授など  
を経て現職

青山慶二



作品 関根常雄

## A S E A N の課題

東南アジアへの関心が高まっている。安倍首相は年内にラオスとカンボジアを訪問する予定だが、そうなれば一年で東南アジア諸国連合（A S E A N）十か国全てを訪れることになる。

成長停滞の罠 回避図れ  
雇用創出 政治の指導力で

政策研究大学院大学長

白 石 隆



二〇一三年上半期の日本企業の東南アジア向け直接投資は、前年同期比四倍増の約一兆円。中国向け投資の一倍である。これを受けて、東南アジアでも日本への期待は高まっている。日本が東南アジアにどう協力するかは、日本の経済再生にもつながるだけに重要である。

東南アジアは、世界経済の成長を引っ張る新興地域の一つである。十か国合計で人口は六億人、国内総生産（G D P）は二・三兆ドル（十二年）。中国と比べて人口は四四%、G D Pは二八%だが、インドと比べると人口は四九%、G D Pは一・五倍である。日本と比べるとG D Pは三八%だが、十八年には六

三%に上昇する見込みだ。

経済協力開発機構（O E C D）による十四～十八年にかけての中期経済予測によれば、ASEAN十か国の平均成長率は五・四%、国別ではインドネシアとフィリピンが六%、五・八%。これからも順調に成長すると予測されている。

東南アジアの特徴の一つは多様性にある。一人当たり国内所得が五万ドル超のシンガポールから千ドル以下のカンボジア、ミャンマーまで格差五十倍以上。だが、域内格差はASEANの経済統合にとって必ずしもマイナスではない。

一九九〇年代以降、多くの多国籍企業は、情報通信技術（I T）革命と貿易自由化を踏まえ、経営、生産、マーケティングのノウハウを分解し、再結合することで、生産工程を細分化し、地域的に分散して、業務の海外展開を行ってきた。

その結果、生産の特化は、最終財の比較優位ではなく、国・地域が国際的価値連鎖の中でどのような「仕事」に比較優位をもつかで決まるようになった。これがASEAN経済共同体を支える地域的生産ネットワークを生み出した。一人当たりの所得格差に見るように、ASEAN諸国の比較優位はそれぞれ違く、国際的価値連鎖の中でこれらの国々が占める位置もそれぞれ違うからである。

タイのバンコク周辺、ベトナムのホーチミン市周辺などに産業集積が成立する一方、大メコン圏（メコン川流域六か国）で国境を超えたインフラ整備が進み、それに伴い生産工程の一部が賃金の安いラオス、カンボジア、ミャンマーに移転している。域内格差が経済統合を加速させている。またシンガポールが物流、金融サービスのハブとなり、フィリピンが国外からの事務処理委託の担い手となっている。

東南アジアはこれからも成長する。それに伴い都市化も進む。国連推計では二〇三〇年、都市に住む人の比率は、インドネシアが六〇%台、マレーシア、フィリピンが七〇%台、人口二〇〇万～一〇〇〇万人の地方大都市の成長の時代となる。

富裕層、中間層も拡大する。十七年に世帯年収三・五万<sup>ドル</sup>以上の富裕層は東南アジア全体で五〇〇〇万人となる。その一方、「みんなが中流」という社会は三十年においても実現されない。都市と農村の格差、所得格差などはこれからも残る。しかし、人々は、自分の子どもたちは自分たちよりも豊かになると期待する。「増大する期待の革命」はますます顕著となる。

この革命に応えるには、経済を成長させ、雇用を創出し、所得水準を上げなければならない。格差是正にとりくみ、政治を安定化させなければならない。しかし、一人当たりの

国内所得が四〇〇〇～一万二〇〇〇<sup>ドル</sup>辺りで伸び悩み、先進国になれない、それどころか、政治が不安定化する国が少なくない。このような「中所得国の罠」に陥らないようになるのが課題である。

処方箋にはすでに大きな合意がある。人材育成、インフラ整備、そして、多くの質の良い雇用を生み人々の所得が増える「包括的成長」である。どの国も、限られた資源をどう配分するかは政治の問題である。政治体制が民主的であるほど、「生産性」対「再配分」の対立は厳しくなる。

これが一般的な構図である。もう少し具体的に見るとどうか。インドネシアとフィリピンを考えよう。

インドネシアは、〇八年の世界金融危機以降、米国の量的金融緩和と、石炭、パーム油など一次産品の高値に支えられ、高い経済成長を享受した。タイやマレーシアほど地域的

生産ネットワークに組み込まれていなかつたため、金融危機の打撃も小さかつた。

しかし、米国の量的緩和は近い将来終了する。一次產品も下落している。インドネシアは大きな貿易赤字を計上し、通貨ルピアは今年、対ドルで十七%安、株式市場と債券市場も大幅に下げている。

同国は、生産年齢人口の増加が経済成長にプラスとなる「人口ボーナス」を享受しているが、十分な雇用を創れなければ、それは呪いとなる。質の良い雇用を生み、外貨を稼ぐには、もつと域内生産ネットワークに自国を組み込み、国際的価値連鎖の中で大層な付加価値を取れる製造業を育成するしかない。それには電力供給、物流、工場用地取得等のインフラ整備や規制緩和、人材育成が必須だ。

ユドヨノ大統領は〇四年以降、政治的安定を実現し、インドネシア経済を成長軌道に乗せた。しかし、規制構造改革、投資環境整備、

産業政策はほとんど実施してこなかつた。そのつけが今来ている。来年四月に国會議員選挙、七月に大統領選挙が予定される。次期大統領候補も浮上しつつある。次期大統領の下、人材育成、インフラ整備、規制緩和、製造業育成によって包括的成長を実現できるかどうか。これによりインドネシアの長期的展望が左右される。

フィリピン経済は非常に調子が良い。約一〇〇〇万人の海外出稼ぎ労働者の年間二兆円超の送金で、GDPの七割を占める個人消費を刺激している。コールセンター、金融、法律業務の事務処理委託など、サービス産業も伸びている。

今ひとつ理由は、アキノ政権下で財政改革が進み、インフラ投資が始まり、海外からの直接投資も伸びたことだ。一二年の直接投資額は二八億ドルで前年比五四%も増えた。ただこれはインドネシアの一九九億ドル、タイの

八七億ドルよりも小さい。

失業率は七%前後で高止まりし、労働人口の増加に国内雇用の創出が追いつかない。十四歳以下の若年人口は全人口の三五%に上る。

質の良い雇用を創るには、インフラ整備、規制改革を進め、投資環境を整備し、人材育成にもつと投資する必要がある。アキノ大統領の下で事態は改善されたが、アキノ氏の任期が切れる三年後、次の大統領の下で政策の継続性が確保されかがカギになる。

いかに附加価値を高め、質の良い雇用を創つていくか、政治の指導性によるところが大きい。その中で、日本がどう協力していくかが問われる。

米コーンELL大、京大教授などを経て、二〇一一年四月より現職。日本貿易振興機構アジア経済研究所所長を兼任。

## わが回想記（その二）

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

た学生寮があり、そこが同じく学生のクラブ活動の場になつてゐる。私はハーヴィアード滞在中に、Harard and Radcliff World Federationists (Radcliffe College) といふ世界連邦主義の学生グループと知りあいになった。その幹事長（早稲田式にいえば）のいる Quincy House という学寮では、週一回「軍縮問題研究会」を開いていた。私もそれに出席させてもらつていたが、一二月の最後の会合で「軍縮と日本経済」という話をした。「正月になつたら、ケンブリッジ大学へ移るから、これで、さよなら！」と学生たちと握手を交して別れた。

早稲田大学にはケンブリッジやハーヴィアードのような学寮はない。しかし、さかんでも様なクラブ活動が、正規の授業だけでは足りないものを消す役割を果してゐる点では同じだ。ことに、早稲田の教師は、教育のマ

中共びいきで知られる彼女は、「西」の開発途上国遠助の偽善性を強硬な口調で攻撃した。学生との質疑応答のあとで、私も意見を求められたので、女史の見解がやや極端にすぎるのではないか、西側の援助も一〇〇%偽善とはいえないし、中共の教条主義にも眼に余るものがある——というようなことを述べた。女史も私のコメントを諒承してくれたし、学生たちは一人のやりとりを興味探そうに聞いていた

ハーヴィアードは、ケンブリッジ出身のバーヴィアード氏がニュー・イングランドに創設した大学だから、ケンブリッジのカレッジに似

ス・プロ化による精神的な疎外状況を痛感しており、それをなんとかして補つてやりたいと念じている。多くの同僚が、キャンパス内で課外の時間に、あるいは遠く追分セミナー・ハウスやその他で、「同じカマの飯」を食べて、学生たちと心の通いあう場をつくりだしている。

私自身は、朝日新聞社本務の政経学部外来講師から同社を辞任して専任講師になつた昭和二六年に、アメリカ研究会という小さなクラブができて、その会長になつた。この会は、昭和四六年、学園第二次紛争のあらしのなかで自然消滅するまで、二〇年間続いた。

「アメ研」の主なメンバーはたいてい学部ゼミのメンバーでもあった。ゼミ合宿、アメ研合宿で、軽井沢の安部寮、追分の油屋、湯檜曾の奥利根荘、湯が野の福田屋（川端康成の『伊豆の踊り子』の宿）……へ合宿した。学生たちと勉強会、山登り、海水浴などに過し

た時間の充実感と楽しきは心にしみついている。

いまでもゼミの学生とは夏休みの終りころ、追分のセミナー・ハウスで合宿して、いつしょに学問・人生を語り、草野球をやることにしているが、今年度の三年ゼミには、さる一二月三日、全国大学選手権大会の決勝戦で法政を破つて優勝したときのレギュラー・メンバーが二人いる。サッカー部長兼現役監督の私は、この二人とは、追分合宿だけでなく、菅平寮での夏休みの強化合宿もいつもよだし、平素、研究室でのゼミと東伏見グラウンドとで週に数回、顔を合わせることになる。

ゼミ生兼サッカー部員もこんどが始めてではない。昭和二六年、私が最初に監督をやつた年に関東リーグで優勝した。そのときのレギュラーの一人とマネジャーが私のゼミ講義を聞き、グラウンドでも私に“しばられ

た』プレーヤーは大ぜいいる。アメ研、ゼミ、サッカーなどで心の通じあつた諸君とは、卒業後もあたたかいつきあいがながく続く。早稲田大学キャンパスとその四年間の学生生活の、空間と時間の制約を乗りこえた、無形の早稲田大学のひろがりを感じている。続く

などと雑談しているうちに、

「君たちの学部の空気は仲よしクラブみたいにのんびりしていてけつこう (happy)だ」と、彼独特の毒舌まじりの話が始まった。

「うちではね、ある高名な教授にやめでもらったことがある。その人物はすはらしくできるんだが、学外からいろいろクチがかかるものだから、講義やゼミが休みだらけだった。学生から抗議があつてね。教授会では委員会を作つて、この問題を審議した。ポクが委員長をやらされたが、結論は、やめてもらう、ということになつた。」

大学 자체がこういう厳しい措置をとるという例はめつたにない。バーヴアードにも不評教授というのいたが、以下のような程度の話だつた。

教師と学生との関係について、私の友人、ロンドン大学経済学部 (London School of Economics) のピーター・ワイルズ教授から次のような話を聞いた。一昨年の秋、学園に創設された国際交流基金の招へい者第一号で、彼が大学院の経済学研究科に来て連続講義をしていたときのことだ。大隈会館の「書院」で、いつしょに昼食をしていた。

「美しい庭だね」

「なんとかという大名の下屋敷だったそ  
うだ。古典的な日本庭園だよ」

第一例。中国語の某老教授。講座はもつて  
いるが、全然講義はしない。毎年、題旨は掲  
示されるが、一人も受講者がない。二、三の

知らない学生が申しこむと、「あのつまらない講義はよせ」とか、だれかが教えて、やめさせてしまう。

第二例。某教授があまりできもしない美人のフランス人大学院生をアシスタント（早稲田の教務補助みたいなもの）に採用したが、教室で学生に全く評判が悪い。その年かぎりでやめになるだろう、といわれていた。

エリート教授とエリート学生の集りだということになつて、いるバーヴィードにもこんなことがあるのかと思つて、大学人でないアメリカ人の知りあいに、その件を話してみた。彼がニヤリと笑つていった。

“Those who can—do. Who cannot—teach.”

能のある人間は、ことをする。能のないやつが人を教える——とでも訳すべきか。“象牙の塔”の外できびしい現実と取りくんでいる人間の側からの痛烈な皮肉である。

日本の大学の例では、浦松佐美太郎氏の書

いた一橋の思い出に、次のような話がでてくる。一西洋史の某教授の講義があまり貧弱だったので、その先生の種本を探しだして、手分けして勉強し、教室で先生と論争して、ついにその先生にやめもらつた（前掲「天学の庭」七ページ）。

うちの政経学部にも、戦前に似たような事件があつた。

「○○先生は授業時間中に、アメリカ留学時代に見た映画の話や、いかに女性にモテたかの話など、およそ場ちがいの話で時間をつぶされ、……ある授業時間に、自分の担当している○○政策は極大な学問の体系であつて、君たちには門前のチリを払うぐらいの講義しかできないといわれた。クラス委員のわたくしは、それではこのクラスは経済学科の学生だから、主として経済学に関連するところを講述していただけないか、と申し出たところ、いきなり、君は僕の講義を批判するの

か、とたいへんな見幕で応酬された。……ク

ラス内が騒然となり、……『』いう〇〇政策などは廃講にせよとまで迫るいきおいとなつておさまらない。けつきよく学部当局との

接衝で選択科目とすることに落ち着いた（時子山草二郎元総長の『早稲田生活半世紀』、一二三ページ参照）。

幸い——と、いうべきであろう——戦後には、こういう事件がおこつていかない。だが、ゲバ棒が横行した一〇年前の学生紛争は、これと正面から対決した大学人にとっては、全人格的な試練であり、自己検証であつた。大学改革を口実に、いつの間にやら大学解体、日本革命、世界革命と、狂氣をつのらせていつた学生運動の「理論」など、批判しさるのに手間ひまのいらない粗末きわまるものであつた。しかし、そういう運動を生みだす基盤となつた大学 자체の沈滯、ぬるま湯状況にたいして、われわれ大学人は、学生運動のアラシが沈静

したからといって、免責されているわけではない。研究と教育の実践において、そのことをつねに肝に銘じていなければなるまい。

続く

## 贈り物

ランコ 岩本

(米国ジャーナリスト)

この世の出来事は「happen for a reason」(起こるべくして起こる)と口にする友人が増えてきた。主としてアメリカ人の友達

ズ・フィロソファー」という綽名をつけた学友がいた。  
古代ギリシャやローマの賢人の人生論にとりつかれていた彼女は、良く私の傍に来て、文化論をふつかけて私を閉口させた。当時の私は異文化思考の研究中で、確信に至る私見を持つにはまだまだ程遠かつたし、理論的に意見をのべる技術など身についていなかつたからだ。

である。なかなか哲学的な言葉で、私は感慨無量となってしまう。「アメリカ」のたどつて来た旅路に想いがはせるからだらう。

ノーマ・ジーン・シザーという名のこの学友は、生きることで試行錯誤していくに違いない。別世界から来たこの私に、何か違った生き方の雰囲気を感じて、それを追求したかったのだろう。思うようにはかどらないので、フラストレートし、「愛すべき」という気分をこめて私を「チャイニーズ・フィロソファー」とよんだのだだらう。

六十年代の米社会ではフィロソファー(哲学者)は、夢想的で足が地についていない非現実な人間(ばか者)という認識が世相だつた。留学生時代、日米の伝統的思考の違いの解明にやつきになつていた私に、「チャイニー

## Blessed Season（祝福の季節）

感謝祭から年末にかけての期間は「祝福の季節」と認識されている。

子供、家族、友人たちへのクリスマス・プレゼントを考え、その買い物に人々は忙しくなる。また、越し方を振り返り、「無事に過せてよかつた」「来年もよろしくね」という心境となり、そのやり取りが増加する。いずれも気ぜわしい平常の生活で、ともすれば忘れがちな大事な心情、「思いやり」、が最優先となるシーズンだ。

クリスマスという待ち遠しい楽しみに満ちた日を真近にして、乱射事件でコネチカットの小学生二十人を含む二十七人が命を落としたことなどで、私は祝福からほど遠い滅入った気分からなかなか抜け出せないでいた。

しかし、クリスマスカードや謹賀新年のメールが届き出し、私もそれらを発送しはじめる。と、少しづつ減入った気分が持ち直しました。私は市販のカードではなく、手製の絵や写真入りの年賀状を手間をかけてつくって出す習慣となっている。そして殆どみな、手書きでひと言書き加えるのも習慣化している。

この作業の過程で、気が滅入っている時は、まず「動く」のが大事と再確認することになった。何はともかく、手でも身体でも動かしていると、良い方への気分転換となるということ。手製の年賀状を準備し始めた頃から、私の気分はどんどん良くなつて、楽しくさえなり、ふと「祝福の季節」自体が「贈り物」と意識するに至つた。

私達は「プレゼント」は綺麗に包装されたモノ、と意識しているが、そうではない、「無

形」の様々な贈り物がある・・・先人が遺した「言葉」や人の「親切」「思いやり」、旅の道連れや先導してくれる有難い「人との出会い」、と考え出すとキリが無いほど私達の周りには贈り物が溢れているのではないだろうか？

人生行路でいろいろな贈り物を貰つても、贈り物と気づかなかつたりすることも多いのではないかだろうか？



作品 関根常雄

# 懸賞論文 優秀賞

テーマ

「昭和の経済史を踏まえた今後の  
日本・世界のビジョンについて」

戸田 悅造



「参考文献」

(注1) 雑誌「世界07年8月号、P184

表12、伊東光晴氏論文より

(注2) 朝日新聞、13年3月27日(水)

「記者有論・神田明美氏」より

(注3) 朝日新聞、13年1月15日(火)

「雪国まいたけ グラミンと協力」より

(注4) 神戸新聞、13年2月24日(日)

「キヌアで飢餓撲滅」より

(注5) 朝日新聞、13年4月9日(火)

「近大マグロ勝負の日本1号店」

より

(注6) 労働経済自書 厚生労働省編

平成24年版 P—130

#### 1・はじめに

資料出所 厚生労働省「賃金構造  
基本統計調査」(2011年)より

(注7) (財)厚生労働統計協会発行 国立  
社会保障・人口問題研究所編集  
日本の将来推計人口 平成24  
年1月推計 P—2より

(注8) 労働経済白書 厚生労働省編

平成24年版 P—130

資料出所 厚生労働省「賃金構造  
基本統計調査」(2011年)より

日本の昭和時代は、アジア・太平洋戦争の動乱と戦後の経済復興（経済成長）に象徴される。明治時代の日清、日露戦争で勝利した日本は、更なる経済的利益を求めてアジア・太平洋地域へ侵攻（第2次世界大戦）し、結果として日本人三百万人以上アジア・太平洋戦争の十五年間で二千万人以上と言われる戦争犠牲者を生むこととなつた歴史がある。敗戦後、焼け野原となつた日本の経済復興を、救うこととなつたのは、皮肉にも当時の敵国である米国占領軍（GHQ）であつた。非軍国主義化と民主化を柱としたポツダム宣言を受諾した日本は、米国占領軍（GHQ）の対日占領政策を基本上に、1950年代～1970年代に亘り、「高度成長」と名付けられる、稀にみる経済発展を果たすこととなつた。1970年代～1980年代においても

日本経済は順調に成長していたが、平成時代（1989年）に入り、米国の経済力に陰りが見え、日本国内においても、1990年代後半の、住宅バブルの崩壊にかかる「金融危機（住専破綻、銀行破綻）」が発生し、失業者が増大した。21世紀初頭（2000年）（2007年）には、中国経済の成長もあり、輸出産業については好調であったが、2008年秋に発生した「リーマン・ショック（金融危機）」により、内外産業（輸出産業も）は大きなダメージを受けた。このように、1990年代当初以来、長期（失われた20年とも呼ばれる）にわたる「デフレ経済」が続いている。

私は最初に、戦後の日本経済の復興を概観する。次に、IT技術の進化するグローバル社会において、「虚」「実」の経済について述べる。三番目に、グローバル経済の現状を概観する。四番目には、新しいグロ

ーバル社会の課題として、①発展途上国への（第1次、2次、3次）産業援助、ODA（政府開発援助）の効果的援助、フェア・トレード、グラミン銀行、国際連帯税構想、トビン税構想について。②食料の分かち合いと養殖について。③世界連邦政府の樹立。④宇宙船地球号の乗組員を意識した、「地球人生活基準（アース・ミニマム）」について。など、私論を述べる。

## 2・戦後日本の経済復興

敗戦後の10数年間で、飛躍的な経済成長を遂げることの出来た理由として、第1に、占領国が米国であったこと。第2に、米国対アジア政策（反共）としての地理的価値（北朝鮮、中国、ソ連に近い）があつたこと。第3に、朝鮮戦争（1950年勃発）、ベトナム戦争（1960年代初頭勃発）による特需

があつたこと。第4に、日本国憲法施行（1947年）により労働者の権利が保障され、勤労意欲が増大したこと。……が挙げられる。第1の理由（占領国が米国）は、米国が占領国であつたことにより、日本の「分割統治」が避けられたこと。イデオロギーとして、労働者にとっては理想とされるソ連邦社会主義国の体制において、当時は民主化が不十分な環境（資本主義国との競争で、軍事力を主体に国力を注ぐ環境）であり、自由と民主主義を実践する米国の対日政策には一歩遅れていたこと。など、国民が「豊かで自由な米国」を歓迎したことである。第2の理由（地理的価値）は、『ばかりそのもので、日本列島（特に沖縄）が、朝鮮半島、中国、ソ連を監視できる位置にあり、反共政策をとる米国にとって「役に立つ位置的存在」であった』こと。

第3の理由（戦争特需）は、平和主義、戦争放棄を謳う現日本国憲法からみると、悩ましい一面もあるが、戦争遂行には衣食住物資、兵器（日本では素材提供）の確保、補充が必要不可欠であり、両戦争による経済的特需が、日本経済の高度成長への足掛かりとなつたことは歴史的事実である。

1964年の東京オリンピック開催に合わせ、当時のインフラ整備として、世界銀行などの支援のもと、高速道路、新幹線（高速鉄道）、橋梁・高層ビル・環状鉄道・公園などの都市整備（東京都及び近隣都市を中心に）が急ピッチで進められ、人もコンクリートも大量動員・消費の社会環境であつた（映画 ALWAYS 三丁目の夕日を鑑賞すると分かりやすい）。当時の国民は、「明日はもっと便利で良くなる」ことが実感できたのである。国民の家庭生活では、洗濯機、冷蔵庫、白黒テレビなどの電化製品（三種の神器）が普及を始め、1965年（昭和40年代）頃からは、「3C時代（自動車、エアコン、カラーテ

TV)」が華々しく登場した。当時の国民の意識に、「もはや戦後ではない」と思わせる高度な経済成長が、山場を迎えたのである。国民の「強力な勤労意欲と、消費需要」が展開し、「需要増大→増産のための設備投資→労働者賃金上昇→需要増大」という拡大再生産の循環を生み出したのである。

この高度経済成長は、対外的には「ニクソンショック」と呼ばれる1971年の「金一ドル交換停止」、1973年から勃発した「第1次・第2次石油ショック」により、冷水を浴びさせられることとなり、「国内では、「狂乱物価」「大幅賃上げ要求」の嵐が吹きすぎ社会環境となつた。また、高度経済成長路線の付けとして環境問題（大気・水質汚染や廃棄物処理）が発生し、1970年の「公害国会」で各種の污染防治法が施行され、国も企業も公害対策費の増大に振り回されたこととなつたが、企業、国民の努力によつて、

「省エネ、節エネ、新技術開発」が実を結び、成長を維持することに成功した。やがて、日本の大企業が米国企業を買収するニュースが流れ、「ジャパン・アズ・ナンバー1」の言葉が飛び交う環境であつたが、1985年のプラザ合意以降、日本円の円高（米国ドル安）政策と相まって、高度成長経済の終焉が到来した。1970年代から続いてきた「不動産神話（値上がりしても値下がりしない）」に陰りが見え、1995年前後から発生した「金融危機（住専破綻、銀行破綻）」へと変遷した。日本経済の凋落（デフレ経済）を防ごうと、当時の日本政府（宮沢、小渕総理）の金融緩和、財政出動政策が執り行われ、後々1000兆円にも上る借金（国債発行）大国に繋がることとなり、2013年の今日でさえ、国家破綻を防ぐ「名案」が求められている。

ところで、1980年代に英国（サッチャヤ

—政権）、米国（レーガン政権）で執られた「小さな政府」政策は、やがて日本にも及び、「構造改革」を旗印とする総理大臣（小泉首相）が誕生し、国家財政の緊縮策に応じて、国民に「相応の痛み」を求めることとなつた。

この時期（2000年～2007年）、大企業（特に自動車、IT関連）の利益が莫大なものとなり、投資家や企業の役員などには高率の利益をもたらしたが、一般労働者の賃金アップには繋がらず、消費需要が減少し、デフレ経済継続の原因となつた。参考として2004年～2005年の財政金融環境を見ると、大企業（資本金10億円以上）のデータ（2004年度と2005年度の財政金融統計月報より算出）では、04年度に比し、05年度の内部留保は71%増、配当は61%増、一人当たり役員賞与は80%増と大幅な増加となつてゐる。ところが、一人当たり従業員給与は0・99%増であり、ほとん

ど上昇していない（注1）。この事例を見る限り、「企業が儲かれば、従業員にも恩恵（給与アップ）がもたらされる」という「トリクルダウン理論」は、当てはまらない。

2013年の政権交代（民主党から自民党へ）後、安倍首相の「アベノミクス」政策で、円安・株高の環境にあり、「好景気への期待」が膨らんでいるが、04年と05年の事例を振り返ると、従業員（労働者）に恩恵がもたらされるのかは疑問であり、国民にとつては、円安による輸入品価格高騰と、それに伴う諸物価の高騰が心配である。

### 3・「虚」の経済と「実」の経済

1929年に米国で発生した金融恐慌を出発点として、金融危機は「バブル期」→「リセッション（景気後退）」→「リカバリ（回復期）」→「バブル期」を繰り返してゐる。

しかし、金融に関する利害得失に直接携わるのは、全世界の人口70億人のうち、15%程度とされる先進資本主義国の人々であり、その中でも、一握りの企業経営者、投資家などである（米国の1対99運動にあるように）から、残りの60数億人は、これら一握りの人々に振り回されていることになる。

経済評論家「内橋克人」は、投資家、投機家、トレーダーなどの活動を「虚の経済」と呼び、また、企業経営者、労働者（公務員、自由業を含む）は、一般的には肉体的な汗をかき、社会に有用な「物」もしくは「直接サービス」を生産することから、これらの活動を「実の経済」と呼ぶ。

視点を転じ、2011年3月11日の東日本大震災は、約2万名の死者、行方不明者を出すこととなつた。ご冥福をお祈りし、被災地域の早期復興を望むが、被災者の希望、意見を最大限尊重した復興計画が肝心である。

復興事業による資材不足、労働者不足であるとか、不動産売買の過熱（バブル）などで復興マネーが飛び交い、「虚の経済」が必要以上に幅を利かせることは避けるべきであり、被災者の希望に反するような事業（復興目的外の予算流用）や行政施策が行われないよう、政府は監視と指導をすべきである。津波により、工場が壊滅的損壊を被った（某）経営者は、被災した従業員の生活を守ろうと、震災後半年足らずで「工場生産を再開」した事例がある。このような地元企業（地場産業）を応援し、被災者に寄り添う形での「実の復興事業」が施行されるべきである。

#### 4・グローバル経済の現状

世界の貿易並びに人的交流は、コンピューター、パソコン、インターネットが普及する以前は、船舶、航空機などで直接交流する（電

話、電信を除く）必要があり、時間、コストが嵩んでいた。ところが、1980年代になり、先進資本主義国を中心に、国際的なインターネット網が広がり、21世紀初頭（2013年）の今、情報（通信連絡）については、瞬時に世界を駆け巡る環境（グローバル経済）となっている。このよう人に、モノ、金、情報が世界中を駆け巡るグローバル経済社会は、私たちにどのような恵みをもたらすのであろうか。グローバル経済の発展が、世界中の人々に恩恵を与えるものとして、直ぐに思い浮かぶのは、「教育、医療、文化、スポーツ」などの情報交換においてであり、「視覚」「聴覚」に働きかけることに優位性を見出すものである。例えば、国家間でリアルタイムの映像を見ながら「医科手術」や「デイベート」が出来ることなどである。また、「世界経済の交流」には、国際的な為替取引や決済が必要であり、インターネット取引（電子

マネー）が普及することは、グローバル経済社会の成り行きであるとも考えるが、反面、注意を要するのは、2008年秋の「米国発のリーマン・ショック」に見られるように、「虚の経済」の国際化であり、「マネーラゲームに世界中の人々が踊らされる」心配がある。単純に言うと、一部の投機家や投資家の金融取引で、ある国家が破綻寸前（ギリシャの事例）になるような巨大な影響を引き起こすことである。このような「負」の部分を無くし、グローバル経済社会を「人間の幸せに繋ぐ」ためには、「金（マネー）がすべて」ではなく、「人間の命を大切にし、環境に配慮した持続可能な社会の中で平和に暮らす」社会風土を築き上げることだと考える。

## 5・新しいグローバル社会

近年、日本は「成熟社会」であると言われ

る。確かにGDPや、国民生活におけるインフラ整備については、戦後60数年経過した今、「成熟」しているといえる。国内産業の技術レベル（テクニカル・スキル）は、常に先進資本主義国の上位であり、エネルギー技術についても、事故後の原発対応に多くの問題を抱えつつ、自然エネルギー、バイオマスエネルギーなどのエネルギー・ベスト・ミックス実用化一步手前にある。国民の更なる「省エネ」「節エネ」意識が高揚すれば、世界の模範生となれる状況にある。（4）の末尾に、人、モノ、金、情報が飛び交うグローバル経済において、「人間の幸せは金のみにあらず」と述べたが、単に日本国民だけでなく、世界中の人々を幸せにするための「新しいグローバル社会」を築くための方策を考えたい。先進国の中の市場（実の経済マーケット）が「成熟」環境にある今、拡大再生産による「過剰生産恐慌」を防止するため、

第1には、「発展途上国の成長に寄与」すればよいのである。一つは、日本で言うところの第1次産業（農・林・漁業）、第2次産業（鉱・工業、製造業）、第3次産業（商業・サービス業）への更なる貢献（企業の現地移転による現地の人々の採用、技術指導）などである。二つには、従来から実績のあるODA（政府開発援助）の更なる効果的支援（教育、医療、文化、芸術、スポーツなどの多面的援助の充実）である。三つには、フェア・トレード（公平な取引条件による交易）の理念を世界中で実践することである。先進国が発展途上国との交易で、所謂、先進国との「いい叩き」を止め、公平な価格取引で交易を行い、発展途上国の国民生活向上に寄与する理念であるが、「フェア・トレード商品価格」は高めであるから、諸費者の購買意欲は低いのが現実である。最近では、森永製菓の「板チョコ」の販売事例があるが、商品価格が特

売品の2倍」であり、購買意欲の課題があるとする（注2）。同じく発展途上国の国民生活の「自立的発展」に寄与する運動として、グラミン銀行（06年ノーベル平和賞受賞者、ムハマド・ユヌス氏創設）がある。「マイクロクレジット（無担保小額融資）で農村部の貧しい人々の自立を支援」することが目的で、近年では日本の食品メーカー「雪国まいたけ（新潟県）」がグラミン銀行と協力し、バングラデシュの国産緑豆から育てた「もやし」を、日本で販売する計画がある（注3）。

以上の途上国支援運動の他、国際的に合法な「税金」で途上国の人々に役立てようとする動きもある。「国際連帯税構想」あるいは「トービン税構想」の実現である。どちらも、国際的な活動（金融取引、交通機関（燃料・運賃など）に課税し、その税収を国際的な貧困問題や環境問題などの対策に資することを目的としている。「国際連帯税構想」「ト

ービン税構想」は、国際的に飛び交う金融活動の異常な加熱を防ぐ意味もあり、日本では、2009年に「国際連帯税推進協議会」が設立されたが、本格的な議論はこれからとなる。ている。

第2に、視点を変え、今世紀中に到達すると予想される世界人口90億人を見据え、世界的な食料不足についても考えなければならぬことである。その一つは「農林・水産資源の分かち合い」であり、二つには「養殖技術の向上」である。人口が増大し、食料資源の獲得競争に敗れた人々は、どのように食料を確保すればよいのであろうか。モアイ像で知られる「イースター島」が、なぜ無人島となってしまったのか。一説には、「畜産と養殖」の発想がなかつたため、島内の野草、野生動物、浅瀬の魚介類などを獲りつくした結果、島民は「餓死」した……との推測がある。他山の石とすべきである。また、一般に

「食料は気候変動に左右される」から、軍事力の強い国であるとか、食料増産に恵まれた自然環境を保持する国が「食料を独占」すれば、もともと軍事的にも自然環境にも恵まれない国（北半球の軍事独裁国や発展途上国が該当する）の国民は、生きてゆけない。前者については国連食料農業機関（FAO）など組織にあるように、安全で、豊富な食料を、「国連指導」のもとで「分かち合う」ことが現実的な施策である。また、自然界の農林・水産資源を「単に採取する」のではなく、やがて「枯渇」を迎える危険性があるので、後者に關して結論を言うと、まず農林については、「穀物・植物種の確保」「植林」が必要であり、穀物の増産については、一例として、南米原産の“黄金穀物”として注目されている「キヌア」（国連によると、すべての必須アミノ酸を含み、ビタミンも豊富。氷点下8度から38度の環境で生育でき、乾燥しやせた土

地でも栽培可能という）」が期待される（注4）。次に漁業については、「養殖技術の更なる向上」が不可欠である。近年では、我が国の近畿大学が成功した「まぐろ養殖（注5）」が挙げられる。ここで注意を要するのは「養鶏、養豚、酪農」などで発生した、「病気罹患（鳥インフルエンザ、狂牛病など）」への対処である。狭いケージに大量の家畜・ブロイラーなどを押し込めるとか、禁断の餌（肉骨粉）を与えることなどは、世界的に反省すべき「失敗例」である。人間の口に入るものは、「安全第一」でなければならぬ。

第3は、「世界連邦政府の樹立」についてである。国際紛争、内戦、テロなど、人類は武器を持つようになつてから、千数百年もの間「武力紛争」「侵略行為」を繰り返してきた。武力紛争を無くするために、私は「世界連邦政府の樹立」を提案する。世界連邦政府が発足すれば、①世界中の武器・兵器を没収

する（一國家の警察・治安活動用の輕機関銃、ライフル程度は所有を認める）。②没収した武器・兵器のうち、スクラップしない「高性能兵器」は、世界連邦政府が所有・維持管理する（世界の平和を乱す国家、集団の戦争、テロ行為に対しては、世界連邦安全保障決議機関の決定に基づき、世界連邦政府軍が鎮圧する）。③将来、人類の安定的な平和が確保された時、世界連邦政府軍は、「国際救助隊」に変革する。…これが期待できるからである。

現、国際連合組織の発展的改編に向けて人類

は「知恵」を出すべきである。

第4は、人類の生活保障としての、世界共通の「ミニマム・スタンダード」の普及につながる「地球人生活基準（私はアース・ミニマムと呼ぶ）」についてである。

食料、エネルギー、水などの不平等（不均等）な取引を防止し、地球人であれば、「何人（なんびと）」も「安心、安定した生活を

「保障」できないものか。一例として（2、）で紹介したように、映画 ALWAYS（三丁目の夕日）の中にある時代風景の「ミニマム・スタンダード」である。別の言い方をすると、世界中の人々が、①「衣食住」が確保されている。②人間の生きがいや尊厳にもつながる「職業」を持つている。③他人を「思いやる」心が持てる。…このような社会を、私は「アース・ミニマム」と呼ぶ。

## 6・おわりに

以上、昭和における日本経済の動向について、主に戦後（敗戦後）の動きを振り返つて、主に戦後（敗戦後）の動きを振り返つてきた。なんといっても、米国が占領国であつたことが、「日本の復興と経済成長」の礎であつたこと。日米安全保障条約による「軽武装自衛隊」であつたことが、経済成長に専念できる環境をもたらしたことである。今日、

日本の繁栄（現在は成熟）をもたらしたのは、国民の創意、努力の賜物であると同時に、「二度と侵略戦争はしない（憲法9条）」といふ恒久平和主義の対外姿勢が、近隣諸国に好感と安心感を与え、交易（貿易）を活発にし、加工貿易を主体とする「貿易立国日本」を支えてきたと考える。経済高度成長期から長期デフレ期を経て、2013年の今、アベノミクスの期待感による株価上昇」期」とあるように経済環境の変動は激しいものがあるが、国民の生活環境を見ると、戦後の貧しい時期に比べ、福祉施策の不十分な面を考慮したとしても、「物質的繁栄を謳歌」「教育レベル（識字率）の高さ」「福祉レベルの上昇（生活保護制度）」など、世界でもトップクラスの先進国に変貌しているのである。もつとも、小泉政権時代の「構造改革路線」による後遺症としての非正規労働者（45歳前後の貸金は正社員の約半分という事例）（注

6）が、働く人の3分の1を超えており、「今日の、明日の生活に困窮」する人々も少なくないことから、「社会的富の適正な分配（給与のアップ）」を実行することが求められている。この理念は、先程述べたように世界中の人々に共通の理念「アース・ミニマム」を実現することによって果たされる。

最期に、日本の将来人口についてである。世界人口が、増加を続け、今世紀中には約90億人になると推定されているのに対し、日本は2048年には一億人を割り、2060年には、9460万人（7997万人になる（注7）とする。2013年現在、65歳以上の高齢者が3000万人を超え……とのニュースもある中で、日本の将来が心配である。少子高齢化が避けられないのであれば、対策を考えたい。

第1に、退職後、心身とも「元気な高齢者」に「若者のアドバイザー」として、有給（お

小遣い程度)で各業種の職場へ関与してもらうことである。人生、職場経験豊富な「達人」を眠らせることはない。

第2には、子どもを「生み、育てやすい社会」の実現である。①保育園数と保育内容の充実(保母さんの適正確保)。②両親の生活力確保(就職先と適切な収入の確保)。③医療体制の拡充(医師・看護士数確保と医師・看護士自身の健康への配慮)。などが求められる。最近の報道によれば、安倍内閣の成長戦略表明に、「女性の力を活用するため、保育所などの待機児童解消に努める」とのことである。しかし、「幼・保育園の運営」に利益を目的とする株式会社の参入を認めているため、赤字運営時に安易な「事業閉鎖」をされないか心配なので、「幼・保育園の運営」が安定・安心できる「法的拘束力」を加味した方策が肝要である。

第3には、若者が結婚して「家庭が築ける

環境」が必要である。①若者の「失業からの開放(政治の責任で対処)」。②結婚して家庭の持てる資金(27歳前後の非正規社員と正規社員との給与差は、年間約70万円)(注8)の確保。などである。

第4には、若者の自殺者増を防止するため、若者の精神的力量のアップを支援することである。具体的には、家庭、地域、学校、会社などで、「人間の命の大切さや、仲間を思いやる気持ちを持つこと」「健常者も障害者も、一人一人が社会の役に立つ仕事が出来る」となどについて話し合い、認め合うことである。今の社会環境は、「自己責任原則」「他人に頼るな」「市場が一番(規制緩和)」「就職難(不採用が続き、自分は社会に不必要な人間と感じてしまう)」など、反対の方向である。解決策の代表は、「政治力」である。振り返ると、4年ほど前、母子加算廃止があつたが、政権交代で復活(一部ではあつ

ても)したことを思い出す。政治の指向性と、

お金の使い方（国家予算の使い道）が大切である。

経済の本質は、「經世濟民」の言葉にあるように、「世の中の台所を整理整頓して、わが身も他者も幸せになれる」ことを、現社会で実現することであると考える。

以上

筆者は、戦後日本の復興から日本のバブル経済、グローバル経済についての独自の分析を踏まえた上で、今後の世界経済について、途上国の成長への貢献、人口爆発に伴う資源の共有、国連機能を発展させた機能の強化等を提言している。

また、「ミニマムスタンダード」として、人類全てが「衣食住」と職業を確保し、他人を思いやる精神を共有することも重要視し、貧富の差が拡大しつつあるグローバル経済の状況に警鐘を鳴らしている。また我が国については、高齢者の活用、子どもを産みやすい環境、医療体制の拡充、結婚しやすい社会保障制度の向上等の重要性を掲げている。参考文献等も適宜整理し、わかり易く簡潔な論文として、評価に値するものである。

書評

戸田悦造

昭 経 俳 壇

選者 佐々木 誠 吾

三 郎

悟 風

大熊手肩に伸見世通るなり

ゆつくりと落葉搔きゆく巫女二人

かまきりの身を折りたたみ枯れにけり

威嚇銃こちらで撃てばあちらから

身を空からに鳴きつくしたり秋の蟬

松茸の相場は山に入りてより

真砂女とは知らでうけたる今年酒

好きなことして居て勤労感謝の日

初孫のひとみつぶらや今朝の春

教会につづく寺院の落葉踏み

周りより夕闇迫る焚火かな

落人の住む宿一つ山紅葉

海釣りの七ツ道具に懐炉あり

月に吠ゆ狼の血と知らぬ犬

剣太郎

最果の斗南藩址は枯野かな

信濃川千曲となりて草紅葉

いづくまでせ枯野か風の果て

用を足し案山子朗朗誌を吟ず

長谷川

片足の鳩生き延びて暮の秋

みの虫や己がいのちをはかりつつ

栢の実の屋根打つ音や一つ宿

身の丈を柱にしるす秋日和

桜島噴煙高く年暮るる

千鶴子

山人

鳥渡る夫<sup>夫</sup>との旅を果さざりき

鰯雲浮桟橋に老婆立つ

小鳥来ぬ路地のあかるき教会に

穏やかな日和に暮る、木守柿

多摩川の流れゆたかに冬茜

地震<sup>なみ</sup>あの山肌あれで冬ざる、

秋の暮ひとは静かに立ち去りぬ

ひとりきて湖畔の宿に年惜しむ

胸中に蹲くまるもの冬の鳥

どんぐり

富喜男

里神樂おもてをとれば若き女ひと

冬うらら流れの遅き高瀬川

うれしきことかなしきことを里神樂

京極の店のぞきもし年の暮

年越の蕎麦に明るき母屋かな

八つ橋のみやげ匂へる初時雨

雜草として稻を刈る野分あと

山の端の五重の塔に雲かな

不作田に用なき案山子凜と立つ

小春日やどつしりと建つ東大寺

## 後記隨想

### 佐々木誠吾

アメリカ国債の債務不履行・・・・?

経済的にも、科学技術的にも、あの馬鹿でかい規模の超大国のアメリカの国債が、デフォルトに、つまり債務不履行になるという話……。これって現実の話なんですかと訝しく思う人たちが世界で多いのではないか。ギリシャやポーランドみたいな糞みたいな国なら考えられますが、広大な国土と資源を以て、金融超大国を任じて世界に君臨する国です。その国が借金をして、もろもろの経済活動を行つて、自國だけでなく、広く海外に展開している地球規模と云つてもいいくらいの国・アメリカです。そこに集まる人々や、人々にあらゆる生活と活動の場を提供している国が、借金の返済が出来なくなってしまつて、国としての活動が停止してしまつたら、われわれホモサピエンスの生活

자체に支障をきたして、ほとんど致命的打撃を受けてしまうことになります。アメリカが借錢して、そのかたにとつた証文が、紙くず同様になるなんて考えられることでしょうか。そのアメリカ経済は今、地球の隅々までに力が行き渡つてるので、アメリカ経済の機能停止は全世界に、もろに直撃して大混乱に陥つてしまします。この話は架空のものではなく現実の話として、ここ一か月ほど前から問題視されてきました。そしてこの問題が、経済的に世界に対し大混乱をもたらすのではないかと、人々はそれが現実的になつた場合について深刻にうるたえる状況となつてきていました。アメリカの政府機関の業務停止に入つてから、二週間が経過して、消費経済や生産活動に及ぼす影響が深刻に案じられてきました。

政府機関が全面的に閉鎖されて活動停止に追い込まれる事態は、既に現実になつています。財務省のお金が底をついているのです。そのた

めの資金が必要なのですが、一時的借金の枠が尽きて閉鎖されてしまつて、職員たちに払う金が底をついてしまつてゐる状態です。ニューヨークの自由の女神の観光も、スミソニアン美術館の観光もそうですが、入り口の門を固く閉じてしまつて当て込んできた観光客が途方に暮れています。これがさらに広がつていけば、アメリカの空港の管制塔の指令もなくなつて飛行機も飛べないし、ひよつとするとアメリカ連邦準備制度理事会も開かれず、金融政策の旗振りがいなくなつて、民間銀行が開店していられるでしようか。マンガみたいな世界を想像するのがやつとです。およそ凡人の知恵を以てしては、測り知れない世界であります。

そもそも借り入れる金額に限度を決めて、それをかたくなに守つてゐるからこうした事態に遭遇してしまつのです。それが正しいか、結果的に間違つているかの判断ではないでしょ  
うか。節操を欠いたことになりますが、事の性

格、事態によりよりきりであつて、金なんて言うのは余りけちけちしないで出せるだけ出したらしいのです。借金の限度額など決めないで、必要に応じて出せるだけ出せばいいのです。それは生きたお金として役立つのです。そうすれば事態の打開につながつて好転し、借金を返済していく力を蓄える結果にもなります。人間もそうですが、自ずと自制心が働いて、ある限度まで来ると借金などしなくなるものです。ましてや国となればなおさらでしょう。こんなに騒いで周囲の人たちに迷惑をかけるものとなるのでしたら、考えを改めるべきでしよう。それが知恵と云うものです。

借金の限度を決めて、それを頑なに守ろうとする国で起きてゐる事件ですが、オバマと政府与党の民主党、そして野党の共和党のこの問題に対する対応に大きな差があつて解決の道が閉ざされたままでしたが、このほどようやく話し合いがついて、問題が先送りされた形で落着

しました。米議会の上下両院が国債発行を容認する法案を可決したからです。つまり限度の引き上げを一時棚上げしてどうしても必要な借金を容認し、4か月後にその問題を論じようとするようになりました。つまり政府が国債を発行できるのは、向こう四か月間に限られています。その後は又同じような問題で混乱が繰り返される可能性がありますが、それまでに何とかこの財政問題について解決の道が開かれることを祈つて止みません。並行して限度額を取り払つてしまふことも真剣に論議して、撤廃に持つていくことでしょう。片や小さな政府の実現に向けた真摯な努力を続けていくのがいいのでないでしょうか。

この問題を中心に、アメリカの議会対策でオバマも翻弄させていくつかの重要な国際会議にも出席できず、国内を混乱させ、対外信用を落し、尚、米国国債の信認を気づける結果となり損害は計り知れません。債務上限の引き上げ

は来年一月十五日にまたぞろ浮上して物議を醸すことになりますが、しかしそれまでに何とか道筋をつけて抜本的な解決策を作つておくべきではないでしょうか。下院で勢力を持つ共和党の中でも、ティーパーティーのように最近勢力を拡大してきていますが、特に極端な保守主義を標榜するグループがあつてオバマの政策に強く反対しています。

十四年一月からは全ての米国人に保険加入が義務付けられます。アメリカの医療費がしば抜けて高いことは承知されていますが、そのため治療を受けられない低所得者層がアメリカの市民生活の不安定要素でもあります。全ての人が等しく、健康的な治療を受けられる社会の実現は、国民の正当な権利であり、政権の果たさねばならない義務であります。しかしながらアメリカ社会にとつても必須なこの種の財政支出に反対する市民も多く、共和党が再び反対の攻勢をかけてくる可能性があります。

積年の課題である「大きな政府か、小さな政府か」は、政治的哲学につながる問題として、新たな論議を呼ぶことになります。財政再建が、一つに歳出削減の問題であり、政府支出の削減を図り、行政機能の簡素化をめざし、市民サービスに寄与することが眼目であります。これは日本の場合とも共通するところです。債務引き上げの上限が再び論じられるまでに、混乱の起きないような抜本的な解決策をまとめておくべきでしよう。

まずは今回政府・与党民主党と、野党共和党との間で期限ぎりぎりになつて「国債発行の猶予期間が設定される」旨の合意がなされ、債務不履行を回避することができ、そしてまた政府機関の機能が2週間ぶりに回復したことは幸いででした。世界の金融市場の大混乱は、多くの人の犠牲をもたらし、世界中で政情不安をかきたてる原因にしかなりません。オバマは我慢強く、土壇場で危機回避に成功しました。こ

のところの内外の政治経済の活動についてもオバマのちょっととしたミスが、オバマ自身の求心力が取り沙汰されるように、政治日程が分割みのスケジュールには違ひありませんが、ギリギリの瀬戸際外交や手法が、あたかも窮地に追い込まれた印象では、得策ではありません。この教訓をもとに、余力を絶やさず、これから行政局運営に生かしてもらいたいものです。

思うに、今の状況になつて、債務上限など設けていること 자체無意味であつて、いつそのことこれを撤廃することに全力を挙げてみたらどうでしょうか。何度も同じことを繰り返して世界をおののかせていたのでは時間の無駄であつて、いつまでたつても埒があきません。無駄にしてしまう時間をもつと建設的な論議に費やしたらどうでしょうか。たとえば、無駄を省いた行政改革の一歩でも二歩でも踏み出して、歳出削減に乗り出してみるとことです。小さな政府、小回りの効く政府こそ、これから

政治課題であります。土壇場まで解決を見ずに大混乱した債務上限の引き上げの問題は、アメリカの政治の弱点をさらけ出したもので得策ではありません。その損失こそ甚大であつて、国内はもとより対外的信用の失墜など、はかりにかけたら馬鹿馬鹿しいことに気が付くはずでしよう。

十月十八日日

### 今日から始まつた国会論戦

自宅に見えて所要を済ます客人がいたので、またま先ほどの九時から始まつた衆議院予算委員会の質疑応答をテレビで見ておりました。質問に立つたのは自民党幹事長の石破氏であります。答弁に立つのはもとより安倍首相です。今や両巨頭ともいうべき人の存在感を示すだけに、その内容については明快的確を得て、圧巻でした。この論議を踏まえて、これから政権運営に邁進してもらいたいと願つております。

午後からは野党民主党を初め各政党の議員

ます。二人とも健康には聊かの不安も感じないところは政治家としての自信にもつながるところですが、激務こそ身に応えることになる故、周りの人が気を配るといった配慮が必要であります。

集中審議に似て、氣力充実、白熱する議論にかんがみエネルギーの消耗、心身の疲労もあって当然のこと、健康管理にも気を置き、ストレス解消が目的ならしいのですが、不必要的飲食の会合は極力避けて、疲労はその日に抜き取るよう十分な睡眠をとることが肝要であります。ストレス解消のための飲み食い、歓談の席もありますが、さはさりながら、健康維持のために過労にブレーキをかけるを良しとして、私の拙い経験から敢えて進言するところであります。一般的にも貝原益軒が云うまでもなく、働き盛りの人にとっても充分な睡眠をとることは、簡単、安価で、一番の大切な健康法であります。

の質問が行われますが、安定した数もまた然り、重量感を以て現実的に対応する政府与党にとって逆説的に説得、主張しえる材料を得て、より強力な政策遂行にまたとないチャンスでもあります。国民にとつて実効的な政策遂行に少しでも有益な結果をもたらすものであつてほしいと、逆に又、野党諸君の批判のための批判ではなく、より建設的な議論となつて、政府諸君の奮起を促す結果をもたらすものとなることを願っています。いずれにしても現在のところ岩にコップをぶつけるとまでは云いませんが、デフレ脱却に成功して三つの矢を放った安倍政権に世評は大きな評価を与えていることは確かであります。

これからさき、経済の上向きは徐々に波及効果を發揮して既に企業業績に反映されており、賃金の上昇におよぶことも射程距離に入ってきたといつてもいいのではないでしょか。この現実をとやかく言う人もいないで

自らのことではなく、人様のことを煩つて心穏やかならざる心境が立て続けのせいでしょうか、

しよう。予算委員会の様子を見ていても、安倍さんに従つて並んでいる大臣諸侯も、安倍さんの専らの孤軍奮闘のひとり舞台で、あなた任せの大臣席で実際にのんびりしたもので、明るくなつてきた世の中で天下泰平をむさぼつている感じの、まあめでたしめでたしと云つたところではないでしょうか。久しぶりに見た天気晴朗、波静かの日本の予算委員会であります。

十月二十一日

変動もあつてくしゃみ、せきなどが止まらず、結果のどを痛め普段起きたこともない痰などが出でやまず、近所の耳鼻咽喉科に行つたりしていましたが、思わしくありません。長年お世話になつてゐる慶應医大の菊池先生のところに行つたついでに症状を伝えて呼吸器内科の先生を紹介してもらいました。一ヶ月前に、造影剤を使ってMRIをとつてほぼ全身を検査しているので異常がないことははつきりしていましたが、念のため呼吸内科を通して、胸部検査をしてもらうことになりました。午前中からの診察で、心電図をとりさらに聴診器を当ててもらつた結果、喘息気味の傾向が分かつて午後の診察に続けて見てもらうことになりました。午後からの診察の循環器内科では胸部レントゲン写真を撮り、やはり聴診器を胸に当てて診察を受けました。胸に聴診器を当てて受けたのは久しぶりであります。幸いレントゲン検査の結果は胸の異常はありませんでした。医者

からの処方箋による投薬をもらつて、夕方に病院を出ました。

私は小さいころから小児ぜんそくを頗り、これが大学を卒業するまで続いていたので、長じてから私独特の鍛錬もあつて幸いに完治して、日常、健常な体を自慢するほどになつたので、もし喘息が繰り返し出て来たとしたら大変なことだと思つていました。成人からの喘息は極めて厄介であり、体力を消耗すること甚だしきものです。そこで軽いうちにこれを消してしまいたいと思って、この二か月間ほど苦慮していました。たまたま那須塩原に出張した折にも、仕事でやつてきた皆と別れて勝手に別行動をとり、林の中を出来るだけかけずり回つておりました。私はこの時、若い頃にとつてきた自分の行動は間違つていなかつたと思ったのです。地鎮祭に臨んでお祓いをしてくださつた黒磯神社の宮司がいみじく申されていましたが、これだけのいい場所に、これだけの広い土

地を持つてること自体立派なことですと太鼓判を押してくださいました。此の先の土地もずーっと向こうの疎水までの山林が続いてありますと云いました。綺麗な雜木林を見通して気持ちがおおらかになりました。畏れ多くもかしこくも、宮司殿を温泉に誘つて大地の神々らしい話を聞きながら、他の土地についてもお祓いをして清めていただこうかなと、ついおこがましいことなども浮かんできました。近ごろは那須温泉に限らず、座敷にきれいどころを呼んでしつとりと酒を飲むような酔客が少なくなつたようです。そもそもきれいどころがいなくなつてしまつたことがあります。客人の質も大いに問われるところがあります。茶の方も、酒の飲み方も心得ず、ただ騒ぐばかりで、体が欲望をさらけ出すのみにて醜態であります。極めつけは一気飲みとか、カラオケ直通となつて愚劣な終末に終わってしまうのです。その道の達人の言をもつてすれば、落ち着い

てみると小唄、端唄、都都逸、新内と云つた喉ためし、つつみ、三味線、笛、太鼓と云つた小道具を使つた粹な遊び方があつて、これが洗練されていくと、これらまた世界に誇る日本の文化であつてみると、最近は、昔からの伝統的な所作、作法を引き継いでいくような世の中ではなくなつてしまつたことが又さびしい限りであります。地方に僅かに残る郷土芸能にしても、祭りにしても、これを継承していく若者と、教育と云つたものが失われていく感じがします。機械化されて合理化された社会になると一層のこと、社会の発展に追いつくことばかり考えてしまい、ゆっくりとした乙な遊びどころが奪われていくような感じのする生活にならされて息が詰まるような毎日になつてしまつようです。マスゲーム化された社会がはびこつて、チヤツプリンの殺人狂時代の再来に身をガードしながら風の中を行く心境です。

社会の進歩の中につれて医学的にも進歩の

先端を突き進んでいく治療方法が多くの人を病から救済して、人間は多くの恩恵の中にあることをまず感謝しなければなりません。そうしたうえで現代科学の進歩から取り残されて、遠くから見がちな自然環境も又大切な要件であり、いかにホモサピエンスがそのたぐいまれなる恩恵の中に育まれてきているかを忘れずにいることが大切であります。例えば一例ですが喘息には昔から転地療法があつて、これはかなり効果的です。そんな意識があるので、転地先での新鮮な空気を胸いっぱいに吸い込んで、その効果を最大限に活用しようと思つてのことです。最近とみに仕事が激しく重なつていてとてもあり、又心身の労費が重なつていたことも事実であります。身体の検査と診察と治療を目的に、今日はそうした医者の各部門を渡り歩いて、一日が終わつてしまい、オフィスに出ても時間の締め切りの状況とわかつたので、信濃町からJR経由で自由が丘に電車を乗り継いで

帰つきました。会社や、オフィスに行かなければこれが初めてです。どんな形にせよ一度はオフィスに顔を出さないと自分の責任を果たしたことにならないので、今日は今までのうちでも特別の日に当たります。

そこで今日は午後の循環器内科の処方は、先ず四時から二四時間継続の心電器を胸に装着して、自分の体がまるで機械人間のようでもあり、ロボットのような感覚で動いております。心電図を正確に計測するには、一日の生活、活動を通して記録することが、より確実であることに間違いありません。大事をとつて事前に予防できることであればよいことであつて、タイミングよく体の状態を検査、調査することが出来ました。血圧、血管、肺、心臓と云つた臓器は、成人病を早くから食い止める大切な機能であります。心臓を緩急を以て活動させ、その結果の心拍数や血圧等を計測して、以後の治療の判断に供するのですが、このトレッキングは

かなり過激な内容なので、もちろん医師の万全の注意を払うことは当然ですが、検査中に異常な事態の発生が無きにしもあらずなので、事前に本人の厳しい承諾書を取られることになります。その検査中に起きる死亡の確率は千分の一と云われています。千分の一にあたつてしまつた人は氣の毒と云うか、むしろ間抜けと云うしかありません。隕石に当たつて死んだも同然です。

そこで 横着せずに、こうしたチャンスを生かして事前に疾患を発見して早めに治療しておくことは健康維持と、日々の楽しい勤労のためにも肝要なことと思つています。明日又24時間計測の心電器を取り外しに、病院に出向くことになっています。そのついでに今度はトレッドミル運動負荷の心電図検査と云う検査を受けることになっています。これは計測器具を体に取り付けてベルトの上をトレッキングしながら心電図をとる方法です。心臓を緩急を

得て活動させ、その間の心拍数、血圧などの諸症状を観察して疾患を早期に発見したりして、尚データ化するものです。先生方の迅速な配慮で、徹底的に検査をして疾患があれば直ちに治療を施すということで、これを済まして異常を確かめておけばこれから先少なくとも誤った判断をしたりすることがないわけで、不安一掃の心境にて精神衛生上にも大いにプラスであり、自信を以て日常の勤務に臨むことができるわけで益することまことに大であります。明日の検査を無事に終え、気分一新、たまたま誘いの手紙をもらつてるので自分の一日の仕事の責任を果たしたあとに、銀座の店に立ち寄つてダンサーのパールちゃんに会うために一杯飲みに行こうと思つています。

十月二十二日

## シリアの化学兵器

アメリカの諜報機関によつて早くから握られていたシリアの化学兵器の所在は、シリアの執拗な

隠ぺい工作が続かず不発に終わつて、アサド

に対しブーチンが、米軍の奇襲攻撃を回避するためにも、世論に従うべきだと説得した結果にもよるが、国連の査察を受け入れざるを得なくなつた。この点においてブーチンは極道もののアサドを化学兵器の所在を明かすべく説得したことは立派であつた。願わくばもう一步踏み込んでアサド退陣への花道をつけてやればもつと良かつたであろう。別段欲をかけて云うわけではないが、アサドを話し合いによつて説得しうる人物はブーチンしかいないことが分かつた。シリアに軍地基地の提供を受けているロシアであるがゆえに、政治的圧力をかけられるのは目下のところブーチンしかいない。オバマ

大統領も又、シリアのアサドが早くから化学兵器を保有し使つていたとして軍事行動を起こそうとしたが、戦争を嫌う世論の圧力にあつて思いどまつた。このこと 자체は正しかつた。しかしアサドの凶暴さは白日の下にさらけ出された。

イラクのフセインが少数民族クルド人に大量の化学兵器使つて多くの虐殺を行なつたのと同様、シリアのアサドも反政府側に対して化学兵器を使って女、子供を容赦なく虐殺していたことが明るみになつた。この蛮行を許すことはできない。これをしきりに擁護してきたのがロシアのブーチンであり、中国の習近平であった。大国の威儀はおろか、指導者の人品にかかる由々しき問題として、世界の歴史に汚点を残したことになる。政治家としての識見と品格の欠如にかかる問題でもある。そもそも政治家に識見と品格などあるはずがないと云つてしまえばそれまでだが、権力の行使を委譲して

いる我々としては、国民にとつては、それでは困るのである。しかしよくよく考えてみれば、中国は然りロシアにしても半ば共産国であり、通常我々が当然と思っている民主主義国家ではなく、一党独裁政治が敷かれている国に過ぎない。民衆の意見は遮断されているも同然だからである。言論の自由を以て民意をくみ上げることができない国家である。民意が分厚い官僚主義によつて遮断されてしまうので、暴動などが実際に起きてみないと指導者に通じない国家である。

安保理で、シリアのアサドの反人道的な行動を糾弾しようとする行動が妨害されてきた、そうした困難な状況にもかかわらず、化学兵器禁止機関と、国連の合同派遣団の調査の結果が、国連の安保理に提出された。それによると化学兵器の関連施設が 23 か所であり、化学兵器はサリンなど推定 1300 トンにおよんだ。いま、シリアは内戦状態なので廃棄に向けた作業は、

扱い方によつては危険をはらむもので、万一手に出せない状態である。イラクのフセインもそうであつたが、シリアのアサドも冷血非情な性格だから、こうした人物を一国の政治の舞台に残しておくわけにいかない。内戦終結に向けて、政府側の軍需施設や物資の輸送ルートの壊滅をはかり、アサドの戦闘能力を喪失せしめないと、民衆の犠牲は更なる拡大につながり、悲惨である。反政府勢力の戦闘能力には限度がある。こうしたさなかでも戦闘状態は続けられたまま、多くの犠牲者を出しているのである。国連の活躍舞台をさらに強固なものとして、内乱に巻き込まれている民衆を困難、悲惨な状況から一刻も早く救い出さねばならない。そのためにも米欧の強力な軍事支援と攻撃を以てアサドの首を政権から外さなければならぬ。極悪非道の独裁者がいる限り、多くの民衆が毎日その吸血鬼の犠牲になつていくのである。捕

捉するか、退陣させるかであるが、アサドの断末魔の姿は目前である。早くしないと更に何の罪もない多くの民衆を困窮の底に叩きつけ、沢山の死者を荒野の砂漠に投げ出す結果になってしまうのである。国際社会がシリアのアサドに対してこれ以上に何の打つ手もないとしたら、正義の味方アンパンマンが大空たかく飛んで行つて、アサド攻略に行つてもらおう。

十月二九日

### 列島が日本シリーズに沸騰

東北の仙台市で行われた、2013年度のプロ野球日本シリーズは、楽天が追撃する巨人を3対0で下し、対戦成績を4対3とし見事日本一の王座を獲得しました。楽天がプロ球団の成以来、悲願としてきた日本一の座は、星野監督のもと選手が一丸となつて宿敵、王者巨人を

破り、球団創立以来、9シーズン振りに手中に收めることができました。称賛すべき初勝利であり、震災に苦しむ東北地方の人々に勇気と、喜びと、希望をもたらして余りある歴史的快挙であります。東北人の根性に徹した大和魂をまざまざと実感し、力溢れる演技の大舞台を見る感じがしました。中でも私が大好きな投手、田中将太君の力投が冴えてめざましく、日本一の王座を射止める推進力となつて今日の栄冠を手に収めた功績は誠に大きなものがあります。田中選手の愛称をマー君と云うそうですが、飾り気ない将太君の風貌は素朴で力強く、男らしさは粗削りな東北の大地を踏みしめてですがしきく、年は若くともどつしりとしており、まさに日本一の風格であります。一球を投げる際の面構えは、青年の意氣髪髪として巨人の打者を圧倒する気迫にみなぎっています。日頃の私は地元で巨人ファンでありますが、将太君のいつの間にか頑丈に大きくなつた身体が象徴

するように、人間的な成長ぶりと合わせ、マウンドに立つた将太君の闘志むき出しの力投と努力の姿は、一般の人たちにも魅力的に、多くの共通した教訓を与えるものがあります。あの素朴な野性味を自分の姿に置き換えて見るとき、フィジカル＆メンタルに爽快な気分になります。おのづから青春の気溌溢して力がみなぎつてきて30歳は若返つてくるようになります。最後の力投で打者を三振で打ち取った時には、喜びの将太君がマウンドでジャンプする前に、私の方が高々と両手を上げて先にジャンプしているのを見て妻が、「すごい跳躍力ね」と、私の若さの力にびっくりしていました。日本一の将太君のお株をとつてしまつた形ですが、これぞまさしく勝利の感動を共有した結果にはかなりません。

日本中の野球ファンが等しく、王者となつた楽天の勝利の歓喜に酔うこと出来ました。3勝3敗のタイに持ち込んだ激闘の試合は、手

に汗を握る展開となりました。その熱戦に惹きつけられて敵、味方なく白球を追つて、野球の醍醐味を堪能した一日でした。地元では感動を共有し大観衆の喜びのうねりが、クリネット・スタジアムから大きな希望の輪となつて東北の空に広がつていきました。それは震災から3年半、いまだ艱難辛苦と戦つている東北の被災地の、明日への復興と建設の力強い第一歩となつて、地域の躍進と発展の基礎を作ることになります。勇気と、努力と、忍耐と、喜び、そして成功への道しるべをはつきりと示してくれた楽天の選手諸君に感謝して万歳を三唱し、心から勝利を祝福しています。

一方アメリカ大リーグで活躍する上原浩治投手が、所属するレッドソックスで対するカージナルスを6対1で打ち勝ち通算4勝2敗として、実に6年ぶりに8度目の優勝へと導きました。上原投手は、最後の打者を空振りの三振

に撃ちとめ優勝を飾りました。レッドソックスに勝利をもたらした上原はMVP、最優秀選手に輝きました。体の大きな選手にまじつて、大活躍する日本選手の逞しさに、大リーガーも翻弄されている様子は見ていて痛快であります。野球選手に限らず、世界のあらゆる分野に進出して活躍する日本人に、世界の人々が称賛と尊敬の念を以て注目しています。

私たちも自国内に閉じこまらずに、世界に大きく羽ばたいて、実力を思う存分に發揮して地域の発展に貢献していくことは、平和外交を掲げる日本の姿勢に合致するものであります。若い諸君はしっかりと目的を以て、どしどし世界に羽ばたいていくべきであります。それにはまず英語の基本を身に着けて現地で実際に活用することが一番の近道であり、現実的であります。先に自身アメリカに渡った先陣の野茂投手がいますが、トルネード、竜巻の異名をとつた投球で大リーガーの選手たちを震いあが

らせました。今また、上原投手の健闘でもらつた沢山の勇気こそ大切であります。開拓者精神を掲げて、こうしたことにも早くから気づいて実践することは若者にあたえられた特権であり、青春を謳歌して余りあるものだと確信しています。

11月5日

稼ぐ力をつけたトヨタ自

2013年度、上場企業の上期決算は相次いで発表になっていますが、その6割が売り上げを伸ばし、利益を伸ばす成長型に変わり始めています。三年ぶりの高水準で、円安による輸出採算の好転、さらには内需拡大の風に乗つて企業業績はうなぎのぼりに好転してきています。

リストラと、設備更新による合理化が奏功し、売上好調が追い風となつて一気に企業収益を取り戻してきたのが特徴です。ちなみにトヨタ自の1014年3月期の税引き前の利益が2兆2900億円となる見通しです。これは前年同期比63パーセント増しとなります。これは円安効果に加え、北米市場が活況を呈し、企業改革の断行で一段と増した体质強化の努力によるものですが、こうした傾向は一般企業にも及んで、トヨタ自の復活は産業経済の裾野に広く広がつて、一般企業の回復を象徴するものであります。

最近の経済回復の特徴は、国の税収をも押し上げることになつています。財務省によると、今年度上半期の国の税収は約13,5兆円となり、前年比4パーセントの増加となつています。企業業績の上振れに伴う法人税収の増加は約3兆円増えるも込です。したがつて新規国債の発行を見合わせる状況も夢ではなくなりまし

た。景気上昇と企業業績の向上、結果税収の増加によって財政再建の道筋が立てば経済運営はこれ以上のものはありません。同時に行政改革を進めて、国の財政負担を軽減していくべき長期的に財政再建の健全な道筋が確立されることになります。経済と財政の好循環で、このまま続いて行くようであれば、日本経済は飛躍的に伸長していく路線に乗つていると推論してもいいのではないでしようか。一般企業に稼ぐ素質が定着することが重要ですが、最早その射程距離に入つてきたといつても過言ではありません。

資産効果も加わつて、堅調な株価の上昇、確実な地価の上昇がその裏付けとなり家計も、企業も自己資金、自己資産の増加となり、特に自信を取り戻した日本企業の基盤強化こそ重要なことです。銀行の不良債権の増加と経営悪化は、専ら資産価値の暴落によつて発生したもので、何らの手も加えずに、これが適正価格に

戻つて、さらに含み益が生じるような状態になれば、願つたつたり叶つたりとなつて、企業は投資に、家計は消費に余力が生じてくることになり、資金の流れも円滑に、信用の向上に寄与し、かくして全体的な購買力の増加につながってきます。

更にはまた経済活動に活力を注入するためにも、規制緩和を進めることができが肝要です。私自身、実際に企業活動に従事していると依然として無駄な、無意味な、古臭い規制や制度がある、これが企業活動を阻害している場合を具体的に色々と体験することができます。ちなみに証券業務に携わる人たちは、たとえば東証の取引規制や監視が無駄で、無意味を感じることが多々あるとのことです。更には、投機的な動きをすると直ちに規制がかかつたりしますが、そもそもそうした動きは市場が開催されている以上避けがたいものであり、寧ろ自然的な現象であつて、それがあるときには市場の硬直化し

た動きを破る潤滑油の役割も果たしていると考慮すべきであります。これらを是正、排除することによって更なる証券市場の活性化が期待できるのではないでしようか。今は世界的に資金の流通があつて、瞬時にお金が地球上を回っている時代です。国は大きく広く開放されているのに、経済の役割の中枢を占める証券取引所が、旧態然としたことでは、世界に立ち向かっていくことはできません。いつまでも尊王攘夷の思想を抱いていたでは前途に暗雲の立ちはだかるばかりです。保守的傾向を排除し、東証幹部の斬新な改革意識の涵養が必要であります。

ちなみに過去のグラフを見てみると、バブル絶頂期に就けた日本の株式、日経ダウは38,915円でしたが、その時のニューヨークダウは2,800ドルあたりを推移していました。アメリカでもバブルに似た状況は度々あつて、今日に至っています。現在、日本の株価は過去

の高値の 24,000 円も下の、14,000 円台を未だにうろちょろして、いまだ低い水準に甘んじてはいるのに対し、アメリカの株価は高値更新を続け、15,000 ドル台をつけて、その奔騰力は確実であり力強いものがあります。この落差はいつたいどこからきているのか、ちなみに東京証券取引所の機構そのものを再検討すべきであります。およそ投資家にとって魅力に欠ける点がさまざまにあって、これが日本経済の実体的実力を表現できない要因になつてていることは明白であります。くだらない規制が前近代的組織を背負つて投資家の目をだましている節があつて、これが日本人の金融資産 1400 兆円の一部すら大胆明白、且つ安全に活用できないう理由にもなつて、足元で市場に呼び込めなでいるのです。

片や企業はこうした背景に立つて、これを彈みに、引き続きコスト削減と競争力強化の技術革新の努力を怠つてはなりません。必要かつ最

低限の規制は必要なことは論を俟ちません。反社会的人物や団体の追放、排除は強力であつてしかるべきです。いずれにしても経済拡大、市場拡張は、経済のグローバル化に合わせ、念願である日本の経済の輝かしい未来につながつていくことでしょう。予想が楽観的に過ぎるかもしれません、そうした時に留意すべきことは有頂天にならず、過去の歴史の教訓を思い起こし、自制した行動が望られます。

十一月十七日

念願の景気回復を実現すいまだ助走の域なればなほ

この先の景気回復を確信し企業の奮起を促すの時

經濟の暗やみを出で世の中の明るく成りぬ昨日けふかな  
くにたみがアベノミクスを選択す思い当りて  
ともにかくにも

消費税値上げに庶民のふところのやりくり厳し世ともなりぬる

昨日けふ人はなしに弾みつき地方経済におよぶよしとす

晩秋のあほひの空にまふ鶴の富士の高嶺をして飛びゆく

### 中学校の同期会

中学時代の同期会が昨日、日曜日のお昼から、渋谷エクセル東急のマークシティで開かれた。このところ楽しみにしている土曜、日曜の休日が仕事のためにつぶされて、謀殺のみとなつているが、アベノミクスの恩恵であればぜいたくは言えないと一般的な解釈をしている。健康だから休みも取らず仕事に従事できるのだと思えば感謝するしかない。一般的には人生の大半

を厳しい競争に打ち勝つて恙なく仕事を果たしてきた人たちであるが、その後の状況次第では人が変わったように変貌を遂げて、少年時代を髪髪とさせることができない人もいるに違いない。矢鱈と多い昨今の同期会だが、時間的になかなか付き合え切れない場合が多くなってきた。身体に異常をきたす年齢なので、その影響が随所に散見されることもある。緊張の続く人生のありがたさを実感する昨今である。厳しかつた勤務から解放されてゆつくりするうちに、そうした時間に慣れてしまつて、暇から抜け出せなくなつた人もいる。暇が昂じてくると怠惰な生活が身について、ぶらぶらするようになり非生産的地位に陥つて誰からも相手にされなくなつてしまつことが怖い。自己疎外に陥つて、外部からも粗大ごみ扱いである。挙げ句に制御不能になつて、御巣鷹山に激突した日航機みたいになつては困るのである。

先日の同期会では、がんを患つて余命いくば

くもないと医者から宣言されて、がりがりになつた体で杖を突いて、力を振り絞つて出席した人がいた。みんなと会えるのもこれが最後の身納めと云うことであつた。見るからに痛々しく、人生の無常を感じたのである。そんなことはないと励まし合つたが、言つている方もなんだか嘘をついている感じで空々しさがあつてたまらなかつた。重病患者を迎えてだから、静まり返つてしまい、同期会の雰囲気はこれで完全にぶち壊しである。余命いくばくもない人から元氣で達者でなあと励まし合つたりして集まつた全員が、余命いくばくもない連中で、与えられた時間を充分に楽しんでと云うことで合意したようだ、なんだか変な同期会で、何のために出てきたのかわからなかつた。飲む酒もすんなりと飲めず、食べ物も喉を通らず、騒ぐわけにもいかない会場で、みんなが余命一ヶ月の重病患者に付き合つて、本人出席のお別れ会みたいなものになつてしまつた。司会者も会場にあ

つて打つ手を知らずに困惑していた。こうなつたら自然に任せることしかない。そのうち当意即妙の技に出てくるに違いない。援護射撃に加わつた人もいたが、結局同じような病気に悩まされて復元に頑張つているといつた激励とも、注意喚起ともつかないスピーチに終わつた。いつ起ころかしれない成人病について医者の一人が話をしてくれたが、あまり芳しい話題ではなかつた。かくして楽しいはずの同期会は、しめやかなお別れ会となつて、重苦しい会場から抜け出す始末であつた。期待したどんちゃん騒ぎは、ならずじまいだつたのである。みんなに会いに来た人は予告通り一ヶ月後に冥途に旅立つた。

渋谷で開かれた中学時代の同期会であるが、戦後のどさくさに生きた連中で、平和国家、日本再建が叫ばれた時期で、食い物もなく教材にも事欠く時代であった。そうした中で早稲田精

神を目指していったかどうか知らないが、兎に角、戦争の辛酸をなめてきた親父の意向もあって、これから社会は、自由主義、平和主義に徹していくという思いで、在野精神旺盛の早稲田を選んだようである。だから三つ下の弟も早稲田中学に入ってきた。弟は兄貴の行く早稲田は大したことないということで、そのまま受験校だった高校に進み東大に行つた。私は中学から楽な道を選んで高等学院に受験して運よく入つて、そのまま戦争反対の自由思想を謳歌する早稲田精神を身に着けて、社会のために立とうと誇大妄想ではないが、猛烈に勉強した。

学院では素晴らしい教育勉学の機会を与えられて、特に立派な教授に恵まれて、その名も枚挙にいとまがないが、自分でも猛勉強して、自慢にもならないが卒業の時は右総代で式に臨んだ。これが変な自信となつて大学では大限奨学資金をもらつてタダで大学を出た。当時バンクロフト奨学資金なるものがあつてドイツのハングルク大学に留学許可をもらつたが、持病の喘息が災いして断念した。残念だった。そんな負い目もあつて母校に目を配る情熱は人後に落ちないつもりだが、縁とは変なもので社会に出てからの付き合いの方がいよいよ勝つて、師弟関係は雑ながら何かと得をしてきている。才覚もないのに商売をしながら生計を立て、片や、昭和経済の月刊誌を編集発刊して世に送り出しており、もちろん母校にも贈呈している。又母校が生んだ会津八一の短歌同人誌・淵を編集発刊してその名を広く世間にひろしめている。強いて言えば母校にいたときに平田教授の財政学のゼミをとつて長く、O.B.諸君からなる平田会の会長を務めてきている。又早稲田大学の名誉教授の大内義一先生とは不遜ながら肝胆相照らす仲となつて、先生には昭和経済の巻頭随筆を毎月執筆頂き35年近くにも及んだ。その間、九冊の大内義一隨筆集となつて世に送り出すことができた。また名誉教授の植田重雄

先生は社会に出てから知り合つてご本人が会津八一の愛弟子でその流れをくむ短歌同人誌の淵に入れもらつた。

学院時代、文芸評論家の浅見淵先生から「君の短歌は万葉調で素晴らしい調べがあつていね」と云われたこともあるつて、得意に詠んでいたが、植田先生もそれは認めてくれたが、君は速射砲みたいに詠んでくるから圧倒されてしまうと皮肉られたことがある。先生が8年前に亡くなられた後、淵を引きつぐことになってしまつたが、しかし、めぐりあわせをありがたく思つてゐる。遠くからいつも温かく見守つて下さつていた遠藤嘉徳先生がいる。学院時代に英語の教授を受け、二年、三年の時の担任の先生であつた。俳句の世界では重鎮的存在であり俳句の作品は抒情的で優雅であり、「蘆穂俳論集成」は人生をかけた力作である。長いこと昭和経済の「昭経俳壇」の選者としてご指導をいただいてきたが、一昨年の夏に94歳で他界さ

れた。寂寥の感、拭いがたきものがある。又経済学博士で名譽教授の堀江忠男先生の寄稿は今以て続けられている。既に鬼籍に入られたが、いただいている遺稿を感銘深く昭和経済に発表して多くの社会人の勉学に供している。先生が求めて標榜するものは「一つの世界」であり、座右の銘は「真理は単純にして平凡である」の言葉のとおりであつて、延長した先にはまさしく、今を時めく「グローバル」の世界である。こうして尊敬に満ちた教育思想は、母校に限るものではなく、社会に広く受け継がれて、人の世に役立つてゐるのである。

予想したように世の中はグローバルの波に洗われて常に厳しい試練に立たされてゐるが、間接的に母校の建学の精神と理念を普及すべく努めてきてゐる。そうした活動は母校のためのみならず、世界に通じた日本の思想と学問と文化を広く伝えるためでもある。又月刊誌昭和経済は内容充実はもとより、各界各層の著名な

執筆、論文を掲載し権威ある主張を広く啓発に供しているが、自論公論として、他紙に勝る内容は搖るぎないものとして注目されているところである。日本は世界に冠たる自由民権思想に立つ国であり、平和と安寧を求めて世界の模範的国家である。國による誘惑と詐欺と怠惰を排し、これからもこの姿勢を貫徹して搖るぎないもとしていかなければならない。中央、地方に限らず、この理念と志を忘却している政治家が多く散見されることは、慙愧に耐えぬところである。日々鍛錬して勉学に努め、天に恥じぬ信念と行動を以て人のため、國のため、そして國際社会のために尽力してもらいたいものである。

中学の同期会はそうした心境の毎日であるがゆえに、久しぶりで出席するのを楽しみにしていた。近い距離にあるにもかかわらず、渋谷に出る機会はあまりない。家内は何だかんだの

用事で渋谷に出ることが頻繁のようであるが、生き生きとした雰囲気の街だし、若者から大いに刺激を受けてきて達者の条件でもあるから結構なことだと思つていて。ところが最近渋谷に行くことが大変苦労のようである。東横線が今まで渋谷止まりであつたが、今年になつてから東横線が通称、副都心線を経て西武池袋線につながっていく路線が出来た関係で、渋谷駅が地下5階にもぐつてしまい、地上に出るまでが大変な苦労であると云つていたので、覚悟しながら出かけたのである。川越や、飯能、小手指行きの特急電車が走っているので、そちら方面に行く時は大層便利になつたが、おかげで渋谷を素通りしていく客も増えたのではないかと地元では心配しているようである。私は従来通り自由が丘駅から特急に乗ると中目黒まで止まらずに行つてくれるから快適な思いをしている。中目黒からは始発の日比谷線に乗つて銀座までくればいいから、極めて楽な思いをし

て助かっている。案の定、渋谷界隈は、継ぎ足し継ぎ足しで大きくなってきた街だと思つた。最初から大規模開発で計画的に建設されてきたなら整然としてわかりやすいのだが、そうでもないところが欠点である。渋谷駅に降りてから地上に出るまでが大変だつた。地下に張り巡らされた何本もの電車の線が交錯して、案内板を見ているだけで目が回りそうである。おまけに矢鱈と歩かされて、渋谷は老人子供にとつては苦難の場所である。二度ばかり駅員に聞いて出口5番を探し当て、地上に出ることができた。しかしここからが又大変わかりにくい。渋谷と云う奴は、扱いにくく厄介な盛り場である。こんなところをなぜ会場を選んだのか、素直に目的の場所に着けないところは幹事諸君の勘の悪さが目についた。しかしこの日は全員が無事に到着したところを見ると、方向感覚未だ作動中と云うことで、知能判断テストは合格と云うことには相成るか。

当日は四十四名の出席であつた。いつも見る高木新二郎君が見えなかつたので心配して家に確かめたところ、奥さんが出て所用のために朝ニューヨークに立つていつたとのことで安心した。現役で働いているのは彼と僕の二人かもしれない。会場は思い思い好き勝手に座るのではなく、くじ引きで席があてがわれたので自分の意志で決めるものでなかつたので、席の場所も曖昧で滅茶苦茶な会合となつたが、それはそれで酒が入りさえすれば、どうにか雰囲気が保てたようである。小生は早中から学院に行つてしまつたので高校の連中とは顔見知りがないので、ミキサーでまわしたような席の決め方にはどうも都合が悪く合点がいかなかつた。両方に座つた同期の友は幸い隣の一人が早く同じクラスなので助かつた。その彼も最初は誰であつたかわからなかつた。彼は背骨に腫瘍が拳大にできて摘出手術を行つて、悪性では

なかつたが抗がん剤を飲んでいたので頭がすつかり丸剥げになつてしまつたので最初は誰だか分らなかつた。一方の人は初めて会つた人で元気そうに見えたが、うつ病で夜が眠れなかつたり、歯が大体なくなつてしまい総入れ歯で食欲が出なかつたりで、様子から見る限り、そんな風には見えないが、云うことがちよつと外れたような感じがするところを見ると、本人が言う通り、うつ病？ かもしれないと思つた。うつ病の人は壮になることもあつて、ハイテンションになると気分的に元気が出過ぎてこれもまた困るらしい。かなりはつきりして大きな声で喋つているところを見ると、今日は鬱の反対に、壮の高ぶる気分の病であるらしい。しかしこの病は結構本人が自覚しているらしく、全部が全部わからぬことを云つたりしたりするものでもないらしい。知り合いの一人の奥さんがうつ病にかかる、病院通いをしていてかなり経つが、病院を出たり入つたりしていく、現

在は入院しているそうである。私も付き合つていてよく知つてゐるので、その人の病氣については実のところ心配している。ハイになると確かに精神が高ぶつて、人の家にやたらと電話をしてきて話が止まらないらしい。たまたま電話に出たときがあつたが、面白い話を交わしたりして長談義になつてしまつたが、奥方とみんなに愉快に話し合つたことはあまりないので楽しい思いをして喜んでいたのである。比較的裕福な家なので、奥さんがハイテンションの時は注意していないといけないらしい。買い物も気前よく、衝動的に高価なものを何でも買いまくつてしまい、あとで旦那が困つてしまふらしい。大きなダイヤを指に着けているので、いまさら結婚指輪もあるまいにと思うかもしれないが、ハイテンションになると気分が高揚してやたらと見境なく買い込んでくるらしい。懐にも通帳にも、うかつに金を持たせられないということである。そうすると本人は鬱になつて、そ

れが昂じてくると入院することになるらしい。そうした循環も止めようもなく、困つたものである。旦那はひとり嘆いている。如何にも現実離れした話に聞こえるが、本当の話で、先日のNHKのクローズアップ現代でも取り上げられていたが、日本には今、潜在的患者を含めて五百万人近くもいるそうである。世の中にはたくさん症例がありメンタルな治療である故、個人差があつて治療はなかなか難しいようである。

そういえば隣の御仁は如何にも高揚して一方的に大きな声で喋っているし、うつだとすると、次は壯にスワイチして隣で止まらなくなつても困ると思つたのである。色々なメンタルな病気もあるものだと、当日の同期会の席は両脇に座つた連中がすでに斯様な状況であるから、八人が丸テーブルで向き合つてはいるものの、彼らの様子に何かしら病の感じがしたりしていたので、話題はガキの頃の悪さにおよぶので

はなく、深刻な現状のような気がしたので、私はここぞとばかりワインをがぶがぶ飲んで気分を高揚させ、暗い話題は極力避け、生真面目な話は極力聞かないことにして、面白おかしく話を下げて自分をも惑わしていたのである。そういう私も胸に圧迫感を感じていたので、慶應病院に行つて徹底的に検査してもらつたばかりで、一時的にもらつてきた薬を飲んでいたら直つてしまつた。その後の診察では、心配するデータの結果ではないとのことで、先のようないい症状は仕事のストレスからきているものだといわれて、納得する面が多くあつたことに気が付いた。うつだという友人は10年前に医者からタバコと酒を絶てと云われて、以来タバコは無論酒もたつてしているので一滴も飲まなかつた。がぶがぶワインを飲んでいる小生を見て、随分飲むなあ、酒に強いなあと感心していたが、そんな様子を見て連中は僕のことをうつにかかつた人間だとみていたかも知れない。そして

この時は、壯状がたまたま出でしまつて喜色満面となつて騒いでいるところでも思つたかもしれない。だとしたらそれは酒がもたらす光明であつて、こんな愉快なことはない。うつ病は壯状の面もあつて微妙なメンタルの問題である。ストレスもその中に入るとしたら、感情論としては微妙になつてくる。貴方の性格と神経なら、そうした病にはならないわよと、ありがたいお上の御託宣である。色々と症状があつて、人によって千差万別なので誤解されてきたかもしれないが、しかし現代医学がかかわつてもこの病気は治るのがなかなか難しいようである。簡単なようで、どうもつける薬はないみたいである。

会場を出た私は酔いも十分まわつて渋谷のハチ公の銅像の前に座り、若者の歩く様子を眺めていたら、人混みの中を若い女の子たちが派手な衣裳をこらして、思いきり着飾つて堂々として人混みの中を行く姿を、まるで仮装舞台を

見るようなつもりで、しばらく楽しんでいたのである。自分自身をありつたけ着飾つて見せびらかしていく若い女の子には、どこかあどけなさがあつたりして、しかし中には色氣の匂いを発散させながら大人びたところは表現力も確かに立派なものだと感心していたのである。ハチ公前のトライアングルの交差点は、その昔映画、「天井桟敷の人々」で見た、「パリのタンブル通り」、通称、「犯罪通り」の人混みを見るような感じがした。芝居で観たものだから比較にはならないが、絶世の美女ガランスはいかど、やおら雑踏に交じつてみると、昼間から居た居た、目を見張る美女が沢山に出くわしたので、芝居で観たタンブルの犯罪通りは決して仮想のものではなく現実にあるんだと理解したのである。そこで渋谷の人気ぶりが分かつたような気がして、この日の収穫は早々と同期会を抜け出して、潰刺とした若者たちと行動を共にして若返り、友人のうつ病ではなく正真正

銘の若さとハイがいっぱいになつておのずか

ら意氣高揚し、その意味するところ誠に大きなものがあつた。席が予めくじで決めたものな

ので、逆な意味で滅茶苦茶だったので、この日の同期会ではだれと会つて誰と話したのかさ

っぱりわからなかつた。他の連中にはどう映つたかしれないが、こんな滅茶苦茶な同期会は

今までに経験しなかつたことである。演出いっぞいに真面目くさつた話が合つて聞き飽きて

いたが、みんなのくだらない話を面白おかしく話し合つて過ごしたほうがよっぽど楽しいの

にと思いながら、部屋を出た私は、晴れ上がつた空のもと、パリのタンブル通りではないが、

渋谷の犯罪通りの雑踏の中の散策が、ことのほか愉快に感じて帰ってきたのである。

十一

月十一日

\*

渋谷駅迷路に入りて会場へ五番出口に這ひ出して来ぬ

群衆の群れのなか行く一人にてしばし疎外の思い起きてく

交通の網の目地下にめぐらしてむしろ過大に疲れ覚へし

学び舎の友集まりでけんたんを競ひあへしは人生の半ばを過ぎてそれぞれに道を選びて味わいふかし

友がきの隣におれば少年のまなこ相みて思ひ出ふかし

相まみえ戦後どさくさの生活に学びし友とたゞぎる思ひ出

早中の歌高らかに歌ひつぎ誠のなさけ今に燃え立つ

早中より学院に行く学び舎の豪氣に満ちて日々を過ごしぬ

教壇に立つ大学教授らに授業を受けて栄えた

つなり

小学校より早中に入りしどき世界のがらりと  
すさぶ心地す

学問の自由独立を理念とし睨みを利かす大隈  
老侯

建学の心を活かし世に臨む我が人生の大きいな  
るかな

さすらいの旅人に似て啄木の悲しみの歌うた  
ふ時あり

東海の打ち寄るす波に手を浸し秋の悲しき調  
べ覚えへん

難難と辛苦にたえて少年の日をおおらかに過  
ごしみたせり

病弱の身体を覚へ改めの道を探りて奮起する  
日々

逆境に身をさらしつつ奮起して己ながらの道  
を行く良し

少年の頃に見初めし魚屋の娘にいつの日にか

会はめや

何かにと思ひめぐらしその時の願いを瞬時に  
詠みし我がうた

初恋の乙女はいづく在りしやと秋の明かりに  
探し求めん

シユトルムの恋物語る少年の「みずうみ」を読  
む芦ノ湖の岸

ウェルテルの恋の悩みを打ち明かす人妻ゆへ  
に望み絶ちける

人の世のいづこにも欲望の限りを求め生  
きる人らよ

誘惑に落ちゆく人のあはれなり己が信念のか  
るがしきゆへ

正直に世をわたりゆく鉄則をててははに就き  
学びとるなり

学び舎へ都電に乗りて通学す広き世界に経つ  
心地して

あちこちに体の故障を訴える友の多きに驚き  
にけり

天命を知る年ごろに色に墮ち命を絶てる人の

多きに

東海道五十三次の日本橋初めの歌の初のぼり

かな

口づさむお江戸日本橋七つ立ち羽織はほりて

粹に行かむや

絶世の美女を探してハチ公前どきもを抜かれ  
見とれおるなり

たくさんの美女が過ぎ行くハチ公前最前線の

衣裳凝らして

絶世の美女ガランスをためさんと目を凝らし  
行く雜踏の中  
人込みに絶世の美女見つけたり惜しくも風の  
ごとく過ぎ行く

目鼻立ちはつきり刻む面立ちの色彩化粧につ

やめき映る

ほう友の身体に変なできものの摘出のあと頭

はげおり

うつ病と云いし隣の同期生饒舌なれば仮病と

も思ふ

そうちうつの病と云え巴この席の若衆もみな持  
ち添えてをり

躁鬱に気分の激しさ加わりし友よりはなれ酒  
を飲むなり

飲み過ぎがもとに肝臓を患いし老いの一徹が  
さらに昂じて  
心身の健康なるを良しとせり氣遣ふ妻に口に  
出さねど

青空をはるかにながむ果てに飛ぶ飛行機雲を  
白く残して

おさなごにわれを重ねて在りし日をしのびて  
つきぬてでははのかげ

めずらしき病ひにふれて朋友の話にしばし耳  
をかたむく

物故者の既に七十余名なりまるで葬儀の同期  
会とも

早中の少年時代を物語る成瀬の恩師の見方正  
しき

以下 百十首 続

## 草紅葉

庭の紅葉が鮮やかである。それに今年は柿の実が大豊作である。庭には次郎柿と富有柿の二本があつて、この秋は大粒の丸い実をたくさんつけて赤く染まり、見るだけでも絵のように鮮やかに輝いている。昨日の強い風で紅葉した葉っぱのほとんど落ちてしまつた。柿の実だけが枝にへばり付いて、鉢なりである。澄み切った空をバツクに、見るからに絵のようである。毎日もぎ取つて食べているが、柿の実のお尻に丸い縞模様をつけているのは、中味が飴色にこがぶいて甘く、しまつた実は堅く、噛んでもゆるゆると崩れることなく歯ごたえは十分である。うちの柿は天下一品だといつて、訪ねてくる人にもぎ取つた柿を洗つて皮をむかずに、そのまま天然の風情を味わいながら食べていただいている。庭に出て柿をもぎ取つてはその場でかぶりついているのが私である。熟した柿はメジ

ロが来てさかんにつついている。柿をもぎろうとして庭に出て行つた私は、柿の木の下でメジロが一生懸命に柿の実をつついている様子を下から眺めて楽しんでいる。三四匹来ている。メジロたちは夢中になっているので私が静かに近づいてきていることに全く気が付いていない。腹いっぱい食べるだけ食べさせてやろうと思つてるので、こちらも木の下で静かにして動かないでいる。鳥は甘い柿を見分けるのが上手である。つついた柿の実は見るからに甘そうで、中身が飴色に光つてゐる。食べ残して飛んで行つたが、夕方頃には又やってきて、ほとんど形をとどめないままに食べつくしていつてしまふ。十一月二十七日

## 海洋進出の中国

### 力による高圧的姿勢

海洋進出を図る中国に対し、周辺諸国が警戒をしている。領海侵犯すれすことをしているので、現場での方が一の予期せぬ衝突があつてはならないと、神経をとがらしている。日本でも尖閣諸島の領有権の争いで近年この地に緊張があつて、日本は連日のように、中国の領海侵犯に對して警告を發して領海外へ退去をさせているが、中国の艦艇の執拗な行動に緊張が高まつていて。中国の意図するところは、尖閣諸島は自國の領土に組み入れようとすることであり、力づくでの勝手な行動は許されない。日本は歴史的に見ても日本の領土だと以前から主張しており日本の主権が及んでいることは明白である。中国の複雑な国内事情もあつて外部に對して挑発的などころを示していくが、大国にあるまじき行動は理解に苦し

むが、否、むしろでかい国だけに将来を見越した資源獲得に出でてきていることであつて、国際法規を遵守する国にとつては派手さはないが、かつての帝国主義的政策の亡靈としか映らないのである。しかしまかり間違えば、武器の進歩は質、規模ともに格段の違い故に、当事者にとつては致命的ともなりかねない時代である。しかも中国の軍事的圧力が日増しに増してきていることを考えると、挑発に乗らず慎重かつ賢明な対応をしていかなければならぬ。

こうした状況で中国国防省が東シナ海に尖閣諸島を含む 防空識別圏を設定した。日本がすでに設定している防空識別圏と大きく重なつてくる。中国はこの防空識別圏に入つてくる航空機には、軍用機で対応することも示している。日本も同じ立場である。理屈の上では、物理的に野、双方から緊急発進した軍用機が衝突しないという確信はない。こうなると常時、尖閣諸島の上空の侵犯事象について日中の間で

極めて高度の緊張が発生する状況である。この区域に入ってきた航空機が、中国側の指令に従わない場合には中国の武装力を持った軍用機が直ちに対応するといつており、事前にツ位置しない航空機が入ってきた場合にはスクランブルを以て攻撃する可能性を明言している。事態は混迷して緊迫してきた。双方で相手方を上空侵犯と判断して緊急発進し、両方で相反する指示を発して従わなかつた場合を想定すると、既に衝突してしまう可能性大である。更にこの区域は米国が以前から訓練飛行区域の設定をしており、問題は複雑である。

あんなところで國益を左右するような戦争の発端を作られたではたまつたものではない。藤原弘達が生きていたら、ふざけるな、あんな海の断崖絶壁の孤島でドンパチ始めるなら金で買ったほうがましだ、両方が主権をかざしてやつたところで相手はチンコロだし、死者が増えるばかりだ。相手は意味が分からぬしろも

のだと一喝で終わるだろう。その一喝が問題だが、云つて物議を交わしてもまた問題であるから、しばらく静観するしかないだろう。豊富な海底資源の争奪戦で欲張りな連中が闊歩する外交舞台だから、ルールもへちまもあつたものではない。略奪が横行する世の中だから、せんたつて一橋大学の学長をしている山内先生に講演していただいたが、そもそも經濟の発端は略奪から始まつてこれが合法化された時代があつたそうであるが、中國の領土拡大政策が如何に野蛮な発想から出ているかが分かる。中国に進出する企業が沢山出てきているが、どこでも当初のような夢が抱けなくなつて困惑する企業が多くなつてきてる。13億の国民を統治する一党独裁政治がもたらす弊害はこれからもたくさん出てきて、なかなか統治しきれなくて矛盾が湧出して始末が付けられなくなつてきているので、そうした被害を受けないような工夫がこれからは必要である。

思えば過去において日本が金を持ちすぎて、旧ソビエトや中国が金を持たずに貧乏に甘んじていた時代が長く続いたころがあつた。政治評論家の藤原弘達が言つたように、そんな時にこそ政治家が有能な姿で出てきて、札束をはたいて買つてやつていれば平和外交の成果を上げて、北方四島の問題も、尖閣領土の問題も、竹島の問題も今日のようにごたごたしないですんでいたはずである。私腹を肥やすことのみの専念する野暮な政治家ばかりだったから、大英断が下せなかつたのである。英知を持つた太つ腹の大人がいたならば、今になつてこんな問題でガタガタ言われずに済んだはずである。

今の中は国は急激な経済発展を成し遂げてきたがゆえに、その反動として国内に多くの解決すべき深刻な問題くはらんでいる。景気の減速による国民の不満、沿岸経済圏と内陸経済圏との経済的落差、不健全、不透明な金融問題、民族的差別と慢性的所得格差、高級官僚と政治家の

の汚職の蔓延、偏向する経済発展の各層、大気汚染と各種公害の問題、少子高齢化の問題など深刻な状況が、この国の潜在的課題となりつゝある。私が中国に渡った時の、38年前の中国は素朴に生きる民衆と国家があつた。我々はその時、経済友好使節団を組んで北京にわたつたが、民間経済交流の端緒を切り開くことに成功した。田中首相が日中国交を果たした三年後の思ひ切つた行動であつた。大歓迎を受けたが、当時の中国の様相を想起するとき、今日の中国とは天と地との差があることに驚くのである。経済発展の恩恵を受けるもの、逆にその犠牲にあえぐもの、対立的様相は深刻であり、その度合いは増大しつつある。民衆のそうした不満爆発のエネルギーのはけ口を、今海洋領海の拡大に求めて国民の視点を外に向けた政治を行つており、国内の民衆の不満を封じている。防空識別圏をあえてこの時期に設定した理由の一つに掲げられるが、先鋭化した軍部の暴走、こ

れは領海を巡るものとは違つて極めて危険な火遊びであり、万が一にも武力衝突に発展しないことを願つている。

十一月二十五日

戦前の暗い社会、言論統制か……。

特定秘密保護法案の取り扱いを巡つて世の中が喧々諤々の様相である。国会も連日のようには議論沸騰である。会期末を数日後に控え政府、自公与党が会期内の成立を目指し、これに野党が猛烈に反対している構図である。個人的にはあまり触れたくない問題だが、戦前の治安維持法に多くの国民が言論と行動に置いて制約を受け、挙げ句に権力者の暴走によつてこの国が滅茶苦茶になつてしまつた歴史的事実を髣髴とさせるのである。その忌々しい体験を持

つ人間にとっては、この種の法律が出来たりすると暗いイメージを抱いてしまうものである。詳しくは法律家に任せるとして昔の治安維持法は初め大正時代に制定された。共産主義の台頭で政治の世界も不安と激しさを増してきた。そもそも「万国の労働者よ団結せよ」の旗のもと、暴力革命も辞さないという思想だから、これを取り締まることは当然である。しかし法律は昭和16年ころに改正された。軍国主義台頭の世の中になつていき、法の適用はどんどんと都合のいいように拡大されていった。やがて政府に反対したり異論を唱えたりする団体や個人が取り締まりの対象にまでなつて、民意に対して恣意的に悪用されていくようになつた。戦前を生きた人間は苦い経験を持つてゐるから、それとこれどでは中身と目的が違つてゐると云われてみても法律の名前を聞いただけで拒否反応を示してしまう。

民主社会にあつて公正と正義に基づき、法に

かなつた行動のもと、社会秩序を維持していくことは国民の義務であり責任であるが、それを持続的なものとするために監視カメラではないが、国家権力によつて常に言動が監視しされ把握されているとなると、これは過剰な措置であり感心できない。国民の権利侵害である。国民の権利にはたくさんあるが、それを一つ一つ大事に守つていくことも国の責任である。今、国は対外的安全保障を前面に出しているが、それは当然のことしながらも、跳ね返りが国内に向けてあるものだから、簡単にいいとも言いつ切れない複雑さが絡んできている。違つた目的にすり替えられる可能性があるから、安倍さんも、国民の安全、安心と同時に不安、不信を払しょくしたいといつも付け加えてきている。まかり間違えば国民生活は、人権無視に過ぎて、油断も隙もあつたものではない。昔、治安維持法の拡大解釈で民衆を網にかけて取り締まりの対象になつてしまふような事柄が起きてし

まつていた。憲兵、特高が跋扈した時代があつた。気に食わなければ逮捕拘束だから、みんな我慢して口をつぐんだ時代である。臭いものにふたであつたり、物言えば唇寒しであつたりして、国民は委縮し霸氣に欠けてきて、これでは死んだも同様の世の中になつていつてしまふ。何ごとに於いても改革は望めないし、ましてや社会の進歩、発展は望みようもないだろう。閉塞Kンが漂い、活気に満ちた国民性を望むことは難しい。世界の経済に伍して躍進していく、とする潜在的エネルギーを削いでしまつて、落伍組に列して停滞に陥つてしまふ国になつてしまつてしまうことが恐ろしい。安倍さんの登場で経済に活気が出てきたと喜んでいたら、余計なことに手を出して物議を交わし、業績的には帳消しなつてしまふようである。歴史に汚点を残しかねない法律だからである。

基本的人権である自由の剥奪の歴史がある。例えば、正しい情報をつかんで客観的に戦争が

負けることが分かつていても、それを口に出したなら国家反逆罪でブタ箱行きである。そもそも正しい情報を得ることも難しい。情報が恣意的に隠蔽されてしまう場合があり、それを漏らした場合には法律に抵触する。一方、国民には知る権利があり、そこのすり合わせをどこに置くか、それが正しいかどうかも難しい判断である。時の権力者の判断が正しければいいが、そうでなかつた場合には大変なことになる。又、この法律によつて事実が隠蔽されて、その結果何十万人の命が犠牲になつて貴重な財産を失い、国を守るべき法律が、逆に国を破滅に追いやる結果となる事例が過去の歴史を見ても歴然であることが分かつていて、わかつていても止められないでは救いようがない。そもそも主権在民、民権政治のもとにあつては、国民の自由が保障され、正当に選挙された国民の代表者によつて国会が運営され民意を汲んだ法律が作られるべきものであり、国の情報は公開が

大原則でなければならない。公開と制限・隠匿の線をどこですり合わせるかの問題である。防衛、外交、安全脅威活動、テロの4分野のうちに秘匿すべき情報を、各省の大臣が特定秘密に指定することになっている。指定された法律が実際に実施されるのは現場の行政官、役人によつてであり、政治家の手から離れてしまつてはいる。この時点で法律や規則が官僚指導で実施されていくのは常識である。この特定秘密を外部に漏えいした場合、反した公務員が罪の対象になる。この拡大解釈が、究極的に国民の知る権利を制約し、言論の自由を制約し、歯止めが利かなくなる危険性がある。だから表現を盾として活動する人たちを含め、国民が一齊に反対している。

法文の難しいことはさておき、思想的にも大体がこの種の法律については落としどころは決まつていて、日本でも、この法律に就いて苦々しい思いをした人は皆死んでしまつてい

る。からうじて生きているとしても発言する権威は持ち合わせていない。老人性痴呆に陥つてしまつて脳軟化症でいるのが多い。年老いて残された連中とか、半ばがん箱に足を突つ込んでいる連中とかわからぬ連中が、さも知つたかぶりをしてこの法律を世の中に出そうと画策しているが、そうした連中は、自分が支配者になつてゐるつもりでやつてゐることであつて、立場が変われば被支配者になることを知らない馬鹿が多い。立場が逆転したことを考えれば一步踏みとどまるはずであり、そんなに急いで決めなくともいいはずである。そうでないのは、自分のこと、自分の世代の自分のことしか考へない連中で子供、孫の時代を考えていな大ばかりである。ましてや将来の国家、社会、他人のことなどどうなつてもいいという無責任な輩の考へることでしかない。世の中を自分の都合の良い方向へ持つていきたために、他の人の自由な発言や行動を封じても正論であると

いう、いかがわしいたくらみが、その動機となつてゐる。

安倍さんはこの法律について、「国民の様々な不安や懸念を払しょくするよう、今後も丁寧な説明を尽くす」と云つてゐるが、不安や懸念があるからこそ、左様な発言となつて出てくるので、運用の仕方によつて不安や懸念のあるような社会にする可能性があることを自ら証言してゐるものである。今後の努力が実を結ばなくなる世の中だから、国民の大多数の人がこの法案に反対してゐるのである。安倍さんについては、この国の経済を回復軌道に乗せて国民経済を繁栄の道に導いてきた抜群の業績を称賛してゐるのに、大事な時に横道にそれてしまつて、右がかつた印象を植え付けて口惜しい気がしてならない。折角安倍さんのこれまでの功績を高く評価してきているが、こんなことでつまずいたではがつかりしてしまう。安倍さんのつまずきをほくそ笑んでみている自民党内の

議員だつていいのだろう。戦後政治史が示すように、ややもすると数の驕りで、国会をわがもの顔に運営されていっても困る。こうした傾向は、華々しい安倍政権の誕生後に心配して本欄で書いた事柄であるが、そうした心配を抱かせしめないよう自重してもらいたいものである。

おりしも尖閣諸島を中心に中国の台頭が災いして、外国に対する安全保障的な意味合いが先行している感じで扱われているが、大事な点は、これが国内に対する締め付けであつて、突き詰めれば思想弾圧、言論統制につながりかねない。法律の反対を叫んで、今も外堀通りを市民のデモが続いている。その声がオフィスの仕事場にも聞こえてくる。大きい時もあれば小さい時もある。都合が悪ければ喧しいなあと思う時もある。大きくて響いて、言つてることが聞き取れないからである。驕々しいデモは、基本的にはテロと変わらないという政府高官の発言があつた。既にこの始末である。ドイツの

ワイメアール憲法のようにいつの間にかナチスが使いやすくなつたことを真似ればいいのだ」と暴言を吐いた政府高官もいた。考え方がこんな程度だから、何が災いしないとも限らない。テロとは法律に反し、言論に反して暴力的破壊、殺傷を以て相手を封じ込めようとする行為であつて、平和と安全を脅かし、法の支配する正義と信義に基づく社会的秩序を破壊するものであつて、これを禁ずる手当は当然行つていかなければならぬ。これは法律以前の問題であり、犯罪行為として糾弾されることは今までの法律でも自明である。ところが新たにできる法律は敢えてテロだと断じる基準はいかようにも恣意的に作れることになつて、拡大解釈すれば際限なく権力が及んで取り締まりの対象になつていく。国会審議の場での大臣の答弁も二転三転する始末で、解釈はいかようにもできるということである。

法律が通つてしまつたら、安倍さんが言うよ

うに「丁寧に説明していく」なんて言うことはできない。説明する人間は安倍さんみたいに親切でお利口な人ばかりではない。権力を笠にして威張り散らし、抑え込む人間ばかりが登場してくるに違いない。各省庁の矢鶴人にわたりて末端の現場に行き着くころは、現場の役人の裁量で取り締まりを行っていく流れであり、歯止めのきくものではない。戦前のあの暗い官憲跋扈の時代を思い出してしまった。今の政治家は道を外して歩いている。いつたい何を考えているんだろう。日本には現在も国家公務員法や、自衛隊法など十分に法の役目を果たしている法律がある。特定秘密保護法案をごり押しで決めてしまおうとする意図が、他にぼんやりとしてあるはずである。自分のことを考えて必要だと思つても、所詮右寄りの先の短い旦那衆が中心になつてやきもきしながらやつていることだから、がん箱に収まればどうなつてもいいから何でもないが、これから世の中を充分楽

しんで生きて行こうとする若い人たちにとつては厳しい重しになつて、清新な志向も後退して国家に活力も生まれず、時には全てが網にかけられて統制されて沈滞しきつた、かつての日本が歩んできた官憲支配の陰湿な社会の到来となつて、挙げ句には政治の無能化を来たし暴走して、我々国民の生命、財産を脅かす結果にもなりかねない。この国の将来にとつて心配であるがゆえに、何を以て秘密を特定するか、範囲はどこまで及ぶかなどを初めとして慎重になつて審議して、これに代わるべきスマートな道と方法の模索、若しくは第三者機関による厳正な検証を設けたりするチェック機能も考えてもらいたいものである。そしてその第三者機関のメンバーの選出についても、各省庁からなる官僚ではなく、政府機関からでもなく、民間から選出された厳肅な、独立と安全を保障されたものであることが望ましい。

十二月二日

## あでやかな紅葉

庭の手入れに庭師がまだ入らないので、その代わりの贈り物と云うわけではないが、庭の樹木の紅葉を毎日楽しんでいる。この時期には柿やもみじ、桜や梅の葉が一齊に色づいて華やぎ、得も言えぬ美しさである。毎日、紅葉の盛りの高原を行くような感じで、樹木のつややかな色づきを居ながらに楽しんでいる。菜つ葉が植えある庭畑が一面に落ち葉で敷き詰められてしまい、刈り終えた芝の上にも紅葉の葉が一面に落ちて色鮮やかである。日差しを受けて家の中の気配までがくれない色に明るく揺らいでいる。

妻には、熊手を使って庭の落ち葉を掃きよせないで、そのままにしておくようにと云つている。庭に出ていた妻が、紅葉した落ち葉を拾ってきて、食卓のテーブルの上に何枚か並べてくれた。粋なことをするもんだと思いながら落ち

葉をじつと見ていた。さまざまな色の余りの鮮やかさに心を奪われて、一枚の葉っぱの中に極楽浄土の世界を見つめるような気持になつてきた。一枚の紅葉の葉に見た天然の色の染め上げは、まさしく神の御業というしかない。いかなる人知をつくし、どんなに勝れた技工を以てしても、まったく及ばざる美の境地である。美しさにうつとりしていると、「世の中の雑念が払しょくされていく」感じでいた。同じ言葉の使い分けながら、特定秘密法案の取り扱いを巡つて、「国民の不安、懸念を丁寧に払しょくしてくれる」という安倍さんの答弁だが、そうした世の雑念を払うには、紅葉した柿の葉の一枚の方がはるかに勝つていて明鏡止水、なんら言い訳する必要もない。「自然に帰れ」とルソーは云つたが、変な組み合わせで比較してみたりしている。

野分あともみづとこはのみな落ちて柿の実赤

く枝にのこれり

柿の実の赤く色づく鈴なりに晩秋の陽に暮る  
る宅かな  
わが宅にめんこいおなごよたりきて双子の子  
にてにぎはいにけり

十二月五日



作品 関根常雄

## 表紙絵のことば

今年は 伊勢神宮

関根 常雄

二十年に一度の社殿の造り替える式年遷宮の年にあたり、私たちには大変ありがたい年になりました。実は私の弟一家が転勤のため伊勢の松坂市にうつり、終の澄佳として一家が住んで居ります私共にはあまりにも遠いところなのでついぞ伺う事もできずに居りました。今までに幾度となく誘いをうけて居たのですが、都合が合わずじまいでした。伊勢神宮の二十年に一度の造り替えを好期に、昨年六月に行く事が出来ました。松坂と申しますと松坂牛が有名ですが、もとより本居宣長の生地でもあります。

宣長は一七〇三～一八〇一年。江戸時代の国学者で伊勢松坂で医師をするかたわら、古事記の注釈書や古事伝を著するなど、純粹な日本独自の文化を研究する学問を大成させた人であります。ましてや伊勢神宮を拝した内宮・外宮のあの森閑とした下社の神域の中に身を置けば、日本の伝統文化のすごさに心打たれます。伊勢神宮を訪ねた日本人はもとより、外国人も含めて、全ての人が感動し、共有する体験だらうと思います。

新聞によりますと世界の建築家、ブルーノ。タウトもそうでした。伊勢神宮を日本の稻作文化の象徴と見ており、社殿は農家を想起せしむるというのです。日本の国土から、土壤から生い立つたのであって、いわば稻田の作事小屋、農家の結晶であり、これを称して「ニッポン」というのであると。

さらには二十年に一度、社殿などを造り替えう「式年遷宮」にも感嘆の目を向けています。工匠たちが、次の社殿に用いる素晴らしい檜材の仕上げに絶えず励んでいる姿に驚き、こう結んでいます。「何という崇高な、全く独特な考え方が現れている」とであるう」と。

その式年遷御の儀が行われる遷宮のクライマックスで、神宮は多くの人でにぎわい、二十年に一度の機会に酔いしれていました。私共もおなじです。参拝の後に伊勢の夫婦岩にもまわりました。晴れた良い天気でした。新春を寿ぎ、その時の風景を表紙絵に描いてみました。

平成二十五年 十二月二十五日 印刷  
平成二十六年 一月一日 発行

昭和経済

第六十五巻 第六号

佐々木 誠吾  
編集人 兼発行人

印刷所

日本印刷株式会社

発行所 公益社団法人  
事務局 TEL (03) 3501-0018 東京都中央区八重洲二丁目十一番

FAX (03) 3510-4711 (03) 3510-4711  
e-mail:info@showa-ec.or.jp  
<http://www.showa-ec.or.jp/>

超安全

エレベーターの新設・リニューアル工事には

ダブルブレーキ式巻上機(錦西製鋼第3-14-04-008)

## SECURE-ELEVATOR株式会社

代表取締役社長 西村裕志

〒100-0016 東京都台東区台東三丁目一十八-十三

SECビル

☎ (03) 3[REDACTED]一七一（大代表）  
FAX (03) 3[REDACTED]一四三三〇

株式会社谷口コーボレーショーン

代表取締役会長

谷口八穂

東京都中央区銀座三丁目7番2号  
電話 (03) (三五六四) 九四一八  
FAX (03) (三五六四) 九四一九

弁護士 富田純司

平和と自由を標榜する会の発展は  
世界につながる

〒100-0006 千代田区有楽町一の十二の一

新有楽町ビル十階十三号  
TEL ○三一三二一四一六〇八一

Ronald S. Stern  
ラノン・S・スtern  
岩本

6425 Broadway, #11E  
Riverdale, NY 10471

取締役社長  
佐藤幹介

太平洋興発株式会社

〒111-0011 東京都台東区元浅草二丁目六番七号

FAX 電話  
○三一五八三〇一  
マタイビル六階  
○三一五八三〇一  
一六〇一  
一六二三

中央建設はこんな会社です

新春の慶びを申しあげます

甲午の甲は十干の始まりで殻を  
破り芽が頭を出す意から革新の  
始まりを意味し午は陽の極地で  
物事の転換期を示しています  
勢いのつく午年にしましょう

一級建築士  
取締役社長 清水侃治

中央建設株式会社

〒102-0073 東京都千代田区九段北2-3-2

☎(03)3261-4201(代)

# The Tokugawa Museum

公益財団法人 德川ミュージアム

事務局  
新築プロジェクト

〒158-0082 東京都世田谷区等々力6-38-6-101

TEL 03-3704-5188  
FAX 03-5752-0018

徳川ミュージアム

〒310-0912 茨城県水戸市見川1-1215-1

TEL 029-241-2721  
FAX 029-243-0761

西山荘

〒313-0007 茨城県常陸太田市新宿町590

TEL 0294-72-1538  
FAX 0294-73-2758

<http://tokugawa.gr.jp/>

# ダイワの NISA

(少額投資非課税制度)

## 大和証券株式会社 銀座支店

〒104-0061  
東京都中央区銀座3丁目5番4号  
Tel 03-5250-8585(代表)  
URL:<http://www.daiwajp/ginza/>

有限会社 日本橋会計事務所  
税理士法人 日本橋税経センター

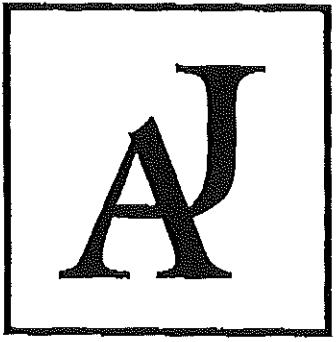
税理士 松下敏雄

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町三ノ三ノ六  
人形町ファーストビルB三階  
TEL ○三一三六六二一七七〇一

所長  
弁護士 岩尾光平

## 渋谷青山法律事務所

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷一丁目12番2号  
クロスオフィス渋谷4階  
TEL: 03-0427-3462 FAX: 03-0427-3463  
E-mail: sa-law@ivy.ocn.ne.jp HomePage: <http://www.sa-law.jp>



Japan Asia Securities Co., Ltd.  
日本アジア証券株式会社  
〒103-0014  
東京都中央区日本橋蛎殻町1-7-9  
Tel : 03 3668 5600

生きる力を育む介護  
**だんらんの家**

日本介護事業株式会社  
フランチャイズ本部

代表取締役会長

**西村 公統**  
Kiminori Nishimura

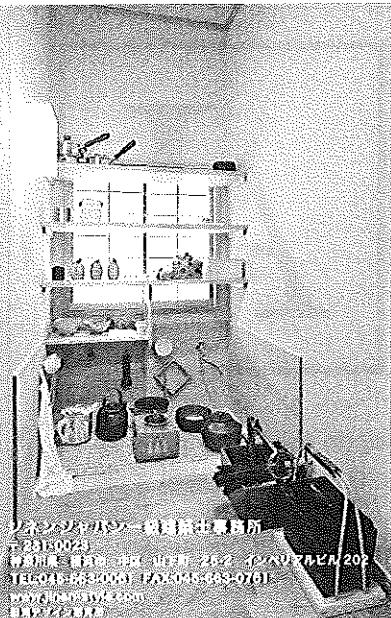
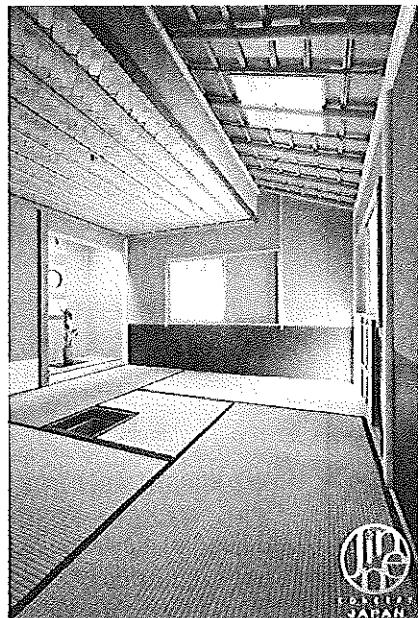
本社  
〒130-0015  
東京都墨田区横網1-2-28  
TEL: 03-5608-3636  
nishimura@nihonkaigo.co.jp  
www.danrannote.com



株式会社 住産サービス

代表取締役 鈴木亮

〒167-0051 東京都杉並区荻窓4丁目32番9号  
電話 03(5347)1303  
Fax 03(5347)1305  
Email: uthagi@mist.ocn.ne.jp



トヨタ・ジャパン・ハンドル・研究所  
〒233-0021  
神奈川県横浜市港北区山手町262 インペリアルビル20F  
TEL:045-983-0061 FAX:045-983-0761  
E-mail:toyota-han@idv.hinet.ne.jp  
http://www.idv.hinet.ne.jp/toyota-han/

短歌同人誌  
**三井**

一九五七年創刊

歌人、曾津八一の系譜

事務局 中央区八重洲二十一  
電 話 ○三六八二〇六二一

佐々木誠吾

# 野田 尚

昭和経済会・常任理事

新春の慶びを申しあげます

新しい企業の立ち上げに  
新しい知識と調査に基き

迅速に支援致します

千葉県船橋市西船3-6-8

(電話) 047-431-5339

月刊誌掲載者・昭和経済 論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十五年十月）（重複有り）

大内義一 早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）

荻原伯永 （株）日本経済社 日経専務

牛場信彦 外務省顧問

安井謙 N H K 解説委員

岡村和夫 参議院議長

加藤寛 慶應義塾大学教授

豊原兼一 N H K 解説委員

齊藤栄三郎 参議院議員

石井義昌 倭桂川精螺製作所 社長

糸川英夫 組織工学研究所所長

宮本四郎 通産省産業政策局長

豊田雅孝 （社）日本中小企業団体連盟

安井謙 前参議院議長 自民党顧問

大来佐武郎 對外経済関係 政府代表

藤原弘達 政治評論家

堺谷太一 作家

原田正二 大正大学教授

豊田雅孝 当会顧問

安井謙 当会顧問

窪田真也 第一勧業銀行産業調査部長

宝生あやこ 劇団手織座

山本幸助 通産省産業政策局長

山田勝久 通産省商政政策局国際経済部長

岡松壯三 通産省電子政策課長

村山祐太郎 鈴木金属工業懇会長

堀江忠男 当会理事

寺島祥五郎 早稲田大学名誉教授

安井謙 画家

田山晃 参議院議員

元 読売新聞政治部次長

鈴木三子郎 元 税務大学教官

竹下登 税理士

福田赳夫 大蔵大臣

衆議院議員

齊藤榮三郎	商学博士 法学博士 文学博士	水谷研治 東海総合研究所 理事長
河野洋平	参議院議員	バツラフ・ハベル チエコ大統領
前川春雄	衆議院議員	平野憲一郎 日本経済新聞 マニラ市局長
黒田眞	通商産業省 通商政策局長	吉田和男 京都大学教授
堀江忠男	大月短期大学学長	石川忠雄 慶應義塾大学名誉教授 学長
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	中曾根康弘 元首相
鈴木俊一	東京都知事	中山素平 日本興業銀行 特別顧問
田村次朗	米国企業公共政策研究所 所長	北岡伸一 立教大学教授
日良浩一	東京国際大学教授	島田晴雄 慶應義塾大学教授
行天豊雄	東京銀行会長	吉田和男 京都大学教授
吉川洋	東京大学教授	塩野谷祐一 一橋大学名誉教授
竹中平蔵	慶應義塾大学教授	宮沢喜一 元首相
加藤寛	慶應義塾大学教授	山田伸二 N H K解説委員
原田和明	三和総合研究所 理事長	石井明 東京大学教授
鴨武彦	東京大学教授	加藤寛 千葉商科大学長
大山晃人	東京国際大学教授	伊藤裕章 政府税制調査会会長
企業コンサルタント	元 N H K解説委員	小宮隆太郎 朝日新聞ワシントン特派員
井浦康之	青山学院大学教授	東京大学名誉教授

島田晴雄	慶應義塾大学教授
樋口廣太郎	アサヒビール会長
奥野正寛	橋本大二郎 東京大学教授
	高知県知事
	福川伸次 電通総研研究所所長
	鈴村興太郎 一橋大学経済研究所教授
	清水啓典 一橋大学教授
	高橋伸彰 立命館大学教授
	中谷巖 一橋大学教授
	金大中 韓国大統領
	佐和隆光 京都大学教授
	茅陽一 慶應義塾大学院教授
	吉田和男 京都大学教授
	榎佳之 東京大学 医科学研究所 大学院教授
高橋伸彰	立命館大学教授
月尾嘉男	東京大学教授
北岡伸一	東京大学教授
石原慎太郎	東京都知事
ランコ岩本	ランコ・インター・ナショナル代表
ジェームス・D・ウォルフエルソン	世界銀行総裁
山口光恒	シモン・ペレス イスラエル外相
岡崎久彦	元駐米公使 駐タイ公使
ポール・サミュエルソン	慶應義塾大学教授
大野健一	政策研究大学院大学教授
佐々木和男	サウディ石油化学㈱社長
ドナルド・ラムズフェルド	米国防長官
イアン・ジョンソン	世界銀行副総裁
竹森俊平	慶應義塾大学教授
朱建榮	山本清治 経済評論家
アレクサンドル・パノフ	駐日ロシア大使
林光夫	ナショナル日系博物館ヘリテージセンター 理事(前理事長) 日系プレース基金理事
ハワード・H・ベーカー	駐日米大使
山本清治	経済評論家

ステイーブン・ゴマソール 駐日英國大使	佐藤隆三	ニューヨーク大学名誉教授
山口義二 立教大学経済学部教授	東京大学客員教授	慶應義塾大学教授
公文俊平 多摩大学情報社会学研究所所長	曾根泰教	早稲田大学教授
伊藤元重 東京大学教授	平野雅章	慶應義塾大学教授
アルビン&ハイディ・トフラー 米未来社会学者	若田部昌澄	東京大学教授
中曾根康弘 元首相	山内昌之	東京大学教授
ハワード・H・ベーカー 前駐日米大使	大西隆	東京大学教授
竹森俊平 慶應義塾大学教授	浜田純一	東京大学総長
岡部直明 日本経済新聞論説主幹	中西寛	京都大学教授
加藤寛 千葉商科大学学長	高木新二郎	前産業再生機構委員長
山口光恒 帝京大学教授	諸富徹	京都大学准大学教授
斎藤惇 入江昭	渡辺智之	野村證券顧問
渡辺智之 一橋大学教授	土屋堅二	ハーバード大学名誉教授
山崎正和 お茶の水女子大学教授(哲学)	中央教育審議会 会長	クリスティーナ・アメリカン
福江等 前ナザレン神学大学学長	伊藤元重	一橋大学教授
大田弘子 井深記念塾ユーライ	今井賢一	スタンフォード大学
経済財政担当相	名譽シニアフェロー	

吉川弘之	東京大学 元学長	深尾京司	一橋大学教授
池尾和人	慶應義塾大学教授	山本 熱	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
林 良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居丈朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稻田大学教授
脇坂 明	学習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
関 満博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	力ナダ財務相
古谷 浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨 貴	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	緒方貞子	東京大学教授
山内昌之	東京大学教授	田中素香	国際協力機構（JICA）理事長
高安秀樹	明治大学客員教授	申 珙秀	中央大学教授
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	駐日韓国大使
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	新宅純二郎	神戸大学教授
植田和弘	京都大学教授	岡部直明	東京大学准教授
松本 紘	京都大学総長	若宮啓文	日本経済新聞客員コラムニスト
大西 隆	東京大学教授	朝日新聞主筆	日本経済新聞社 中国総局長
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長		

猪木武徳	青山学院大学 特任教授
長山浩章	京都大学 教授
石川城太	一橋大学 教授
鹿野嘉昭	同志社大学 教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
篠崎彰彦	九州大学 教授
翟林瑜	大阪市立大学 教授
横山彰	中央大学 教授
小林慶一郎	一橋大学 教授
原真人	朝日新聞編集委員
若宮啓文	朝日新聞本社主筆
小林慶一郎	一橋大学 教授
須藤繁	帝京平成大学 教授
翁邦雄	京都大学 教授
下斗米伸夫	法政大学 教授
吉川洋	東京大学 教授
渡辺博史	国際協力銀行副総裁・元財務官
澤田康幸	東京大学 教授
北岡伸一	国際大学 学長
有田哲文	朝日新聞編集委員
柴田直治	朝日新聞国際報道部
竹森俊平	慶應大学 教授
磯田道史	静岡文化芸術大学准教授
橘川武郎	一橋大学 教授
伊藤元重	東京大学 教授
山内昌之	明治大学 特任教授
白石隆	政策研究大学院学長
土屋英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
戸田悦造	懸賞論文 優秀賞
青山慶二	早稲田大学 教授
瀬口清之	キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
今井賢一	スタンフォード大学名誉シニアファロー
田中伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
宮本雄二	宮本アジア研究所代表、外務省顧問
菅原宅隆	東京大学先端科学技術研センター准教授
白石	政策研究大学院学長

当会・講演会 講師（敬称略）

昭和五十三年（平成二十五年十月）

堀屋太一	作家	栗栖弘臣	統合幕寮長
加藤寛	慶應義塾大学教授	糸川広洋	組織工学研究所 所長
大来佐武郎	対外経済担当大臣	斎藤栄三郎	科学技術省長官
柿沢弘治	衆議院議員	浜田幸一	衆議院議員
木元教子	評論家	岡松壯三郎	通産省電子政策課長
稲川泰弘	通産産業省政策局	上野明	黒田眞
藤原弘達	商務サービス産業室長	前川春雄	鈴木俊一
山本幸助	通産省産業政策局長	大山昊人	東京都知事
岡松壮三郎	通産省生活産業局長	野坂昭如	野村総合研究所 主任研究員
山田勝之	通産省国際政治部長	水野哲	前日本銀行総裁

山室英男	テレビ東京解説委員長
佐野忠克	通産省宇宙産業室長
河野洋平	衆議院議員
寺島祥五郎	当会理事
長富祐一郎	大蔵省官房審議官
中沢忠義	中小企業庁長官
吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長
天谷直弘	（財）産業研究所 顧問
元 通産省審議官	天谷直弘
黒田眞	通商産業省 通商政策局長
鈴木俊一	東京都知事
東京都知事	黒田眞
野村総合研究所 主任研究員	鈴木俊一
前日本銀行総裁	東京都知事
NHK解説委員	野村総合研究所 主任研究員
作家	NHK解説委員
通産省産業政策局	作家
産業政策局総務課長	通産省産業政策局
堀江忠男	早稲田大学名誉教授

梅沢節男	国税庁長官	飯田健一	NHK解説委員
田川誠一	進歩党代表	L・A・チジヨーフ	駐日ロシア連邦大使
森 亘	東京大学総長	大山晃人	元NHK解説委員
藤井康男	龍角散社長	小浜維人	NHK解説委員長
水城武彦	青木匡光	青木匡光	メディエーター（人間接着業）
大山晃人	紺谷典子	紺谷典子	（財）日本証券経済研究所
斎藤栄三郎	（財）日本証券経済研究所	（財）日本証券経済研究所	主任研究員
内田 满	國務大臣	原田和明	三和総合研究所
岡松壮三郎	科学技術庁長官	和田俊	朝日新聞編集委員
水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長	大山晃人	テレビ朝日ニュース・ステーション
有馬朗人	東京大学総長	木村時夫	元 NHK解説委員
松本和男	経済評論家	井浦康之	早稲田大学名誉教授
大山晃人	NHK解説委員	井浦コミュニケーションセンター	当会理事
鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長	水谷研治	東海総合研究所 理事長
	元 日本銀行理事	目良浩一	東京国際大学教授
松永信雄	外務省顧問 前 駐米大使	山下亀次郎	筑波大学 臨床医学系内科教授
霍見芳浩	ニューヨーク市立大学大学院教		筑波大学付属病院副院長
村松暎	慶應義塾大学名誉教授		
	杏林大学教授		

齊藤精一郎	立教大学教授	川崎真一郎	第一生命経済研究所 主任研究員
岩國哲人	前 出雲市長	金子一義	国務大臣
浅井隆	経済ジャーナリスト	山口義行	立教大学教授
岩田規久男	上智大学教授	山田伸二	NHK解説主幹
久保亘	前 大蔵大臣	伊藤 達也	千葉商科大学教授
大山晃人	東京国際大学教授	高木新二郎	㈱産業再生機構 産業再生委員長
山田伸二	NHK解説委員	齊藤精一郎	社会経済学者 エコノミスト
吉田春樹	和光経済研究所理事長	佐々木和男	学校法人静岡理工科大学理事長
副島隆彦	経済評論家	三原 淳	サウディ石油化学㈱ 前 社長
ポールシェアード	ベアリング投信投資顧問	石川 一洋	元 三菱商事㈱本部長
㈱日本株運用ヘッド兼ストラジスト	田中角栄 元 秘書	NHK解説委員	元 モスクワ支局長
早坂茂三	NHK解説委員	山田 伸二	NHK解説主幹
山田伸二	参議院議員	中谷 元	元 防衛厅長官
中村敦夫	三和総合研究所特別顧問	林良 造	衆議院議員
原田和明	東京都民銀行頭取	元 東京大学教授	ドマイエ証券チーフストラジスト
西澤宏繁	衆議院議員	元 林良 造	NHK解説委員
龜井静香	東京国際大学教授	元 中谷 元	武者陵司
山田伸二	前 出雲市長	元 田中角栄	前 大蔵大臣
武者陵司	上智大学教授	元 山田伸二	立教大学教授

元經濟産業省 経済産業政策局長

渡辺 喜美

みんなの党代表 衆議院議員

山崎 淑行

NHK科学文化部 記者

中谷 巖

一橋大学教授

ロバート・フェルドマン

経済評論家・エコノミスト

月尾 嘉男

東京大学名誉教授

山田 伸二

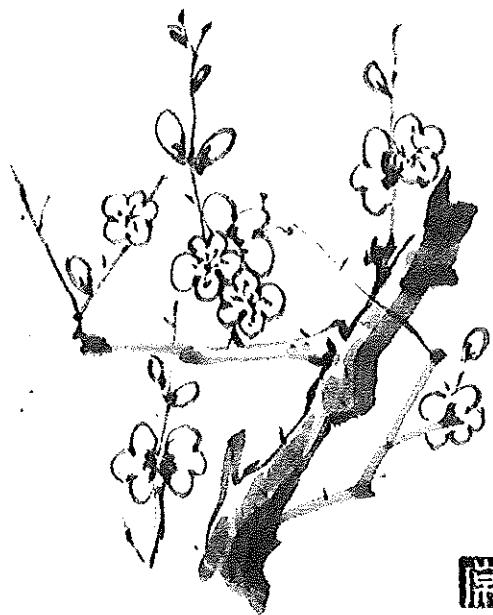
NHK解説主幹

山内 進

一橋大学学長

板垣 信幸

NHK解説主幹



作品 関根常雄

写真家 杉村 浩 制作

渊 第203号 2013年9月15日  
同人誌 淵 主宰  
公益社団法人昭和経済会理事長  
佐々木 誠吾

講演会の主な講師

(講演時役職) (敬称略)

山黒岡山山長梅鉢前牛野中岡加場天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福  
 室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田  
 荘祐新榮宗  
 英三幸勝一節俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三一秀俊凱赳  
 男真郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得達芳謙郎清郎三彦大実夫  
 N通通通通大国東日外作中N慶作通科弁組口政大參科經本經口ソ富大  
 H産產產藏本H應學織本學田本士大  
 K省省省稅京務本H應學織本學田本士大  
 生產國企K工經治議濟濟二臣  
 解產官銀塾學濟藏技銀(内閣總理大臣)  
 活業際府都省業解省術護研新評院術評評  
 説業產政房行大研究大研行行  
 委審業策治審長知顧所社論議論論社理頭大臣  
 員議局局部議長委教長所顧  
 長官長官官事裁間家官員授家間官士長間家臣長官家長家事長取

伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小ヒ霍松鉢有大水森堀水藤井大  
 通財藤子口井澤坂田島田保国藤良田浜△見永木馬來谷江城井浦山  
 痘瘍省精佐  
 指揮達一義静宏茂晴隆伸哲一浩和維芳信漱朗武研忠武康康昊  
 宣宣也義二香繁三雄彦二亘人郎一明俊人浩雄夫人郎治亘男彦雄之人

通大内国立衆東政慶政N前出立東三テN駐ニ前野東対東東早N龍井N  
 商藏務教京應H和ビII日レユ駐村外海稻浦コH  
 産省開大議都治義治大教総朝ヨメ總京田角ニユK  
 業政總臣大議都治義治大教総朝ヨメ總京田角ニユK  
 省政策理產經民塾大際研ユ解市研大濟研大  
 研究大業院評詳解藏大究・シ立・究學担究學名  
 研究再資銀大學大說大外所當所說シヨ  
 会臣生學行論學論大學所スア學務所當所  
 メンバ補機部議行論學論大學所テ委大務省理總譽社セ  
 ンバ佐構教頭教委教事シ員大院顧事大教委  
 ババ担教頭教委教事シ員大院顧事大教委  
 丨官当授員取家授家員臣長授授長ニ長使授問長長臣長長授員長丨員

昭和経済 26-1月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）  
昭和25年10月19日 日本国鉄道特別扱い認可第1797号

**Showa Economic Study Association**  
**企業家・経営者団体**

公益社団法人 **昭和経済会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail [info@showa-ec.or.jp](mailto:info@showa-ec.or.jp)